

出納官吏計算ノ検査判決ハ各官吏ノ提出シタル計算書及證憑書ニ據リ之ヲ執行ス
右ノ外會計検査院法第十三條第三第四ニ關ル決算ノ検査判決ハ其ノ主管者ヨリ提
出シタル計算書及證憑書ニ據リ之ヲ執行ス

第三十五條 會計検査官ハ父子兄弟ノ提出シタル計算書ヲ検査シ及其ノ判決ニ與ル
コトヲ得ス

第三十六條 會計検査院ハ検査ノ成績ニ依リ摘發シタル事項ニ付當該官吏ニ審理得
ヲ發付シ答辯又ハ正誤セシム

第三十七條 會計検査院ハ國務大臣ニ對シ文書ヲ以テ質問ヲ爲シ又ハ注意ヲ要求ス
ルコトヲ得ルモ審理書ヲ發スルコトヲ得ス

第三十八條 審理書ニハ左ノ事項ヲ掲ク
第一 不規ノ件ニ對スル批難

第二 將來ノ措置ニ對スル注意

第三 不明瞭ノ件ニ對スル推問
第三十九條 會計検査院ハ第一回ノ審理書ニ對スル答辯又ハ正誤ヲ以テ仍不充分ナ
リト認定シタルトキハ再三審理書ヲ發ス

検査ノ後計算ヲ正當ナラスト認定シタルトキ命令官ニ對シテハ之ヲ本屬長官ニ通

牒シ出納官吏ニ對シテハ判決書ヲ發ス

第四十條 出納官吏ニ認可狀又ハ判決書ヲ交付シタルトキハ會計検査院ハ其ノ際
本ヲ以テ大藏大臣ニ通知スヘシ

第四十一條 判決書ヲ發シタルトキハ會計検査院ハ速ニ本屬長官ニ移牒シテ其ノ處
分ヲ要求スヘシ

第四十二條 會計検査院前項ノ要求ニ對スル本屬長官ノ處分ヲ以テ適當ナラスト認
ムルトキハ其ノ由ヲ行務成績書ニ載セ上奏スヘシ

第四十三條 會計検査院法第二十四條ニ依リ再審ニ關ル出納官吏ノ請求ヲ受理スル
ハ左ノ場合ニ限ル

第一 計算又ハ事實ニ錯誤アリトスルトキ

第二 脱漏又ハ二重記載アリトスルトキ

第三 新ニ證憑書ヲ發見シタルトキ
第四 正當ナラサル証憑書ニ據リ判決シタリトスルコト

第五 判決ヲ以テ法律命令ニ違反セリトスルトキ
第四十四條 再審ノ場合ニ於テハ前ニ該件ノ検査ヲ擔當セサリシ他ノ部ニ移シテ審
査セシムヘシ

第四十五條 會計検査院ハ検査上参考ノ爲ニ各地方官廳ヲシテ其他ノ物價ヲ定期若クハ臨時ニ報告セシムルトナ得

●會計検査院行務年度規程

明治二十二年十月八日 官報

會計検査院行務年度規程

第一條 會計検査院行務年度ヲ分テ左ノニトス

一 年證明ニ對スル行務年度

二 月證明ニ對スル行務年度

第二條 年證明ニ對スル行務年度ハ毎年十一月一日ヨリ翌年十月三十一日ニ至リ月

證明ニ對スル行務年度ハ毎年七月一日ヨリ翌年六月三十日ニ至ル各十二箇月ヲ以

テ一年度トス

第三條 年證明ニ對スル一行務年度間ニ於テハ前會計年度分ノ各計算書及物品出納

計算書ノ検査ヲ執行ス

第四條 月證明ニ對スル一行務年度間ニ於テハ本會計年度分ノ前期事務及前會計年

度分ノ後期事務ヲ執行ス

月證明ニ對スル検査事務ハ一會計年度分ニシテ二箇ノ行務年度ニ涉ル其甲行務年

度ニ於テハ内譯書ノ検査ヲ執行シ之ヲ某年度分行務前期ト稱ス乙其行務年度ニ於テハ最終ノ内譯書並ニ各計算書ノ検査及前期ニ於テ發付シタル審理書ニ對スル報答書未完結部分ノ検査ヲ執行ス之ヲ某年度分行務後期ト稱ス(行務年度略略ス)

●會計検査院行務監督規程

明治二十二年十月十五日官報

行務監督規程

第一章 事務分掌

第一條 検査官補及屬事務ノ分掌ハ每行務年度ノ開始前ニ於テ課長之ヲ調定シ其分掌表ヲ作り部長ヲ經由シテ院長ニ提出シ院長認定ノ上之ヲ各部ニ達示ス

第二條 検査官補及屬ハ每行務年度ノ開始前ニ於テ分掌事務整理ノ期限ヲ豫定シ第一號書式(甲若クハ乙)ニ倣ヒ事務豫定表ヲ製シ課長及部長ヲ經由シテ院長ノ認定ヲ受クヘシ

第二章 登記員

第三條 院長官房ニ登記員ヲ置キ各部ニ派出シテ文書ノ受授ヲ登記シ行務監督ノ材料ヲ調理セシム

登記員ハ各部三名ヲ以テ定員トシ前項事務ノ外仍ホ部長ニ屬シテ其主管ノ事務ニ

従事ス

第四條 登記員ハ左ノ帳簿ヲ設備スヘシ

一 行務日記(第二號書式)

計算書及之ニ係ル文書ノ受授並ニ検査事務ノ顛末ヲ登記ス

一 往復日記(第三號書式)

計算書ニ直接ノ關係ナキ文書ノ受授及其處分ノ顛末ヲ登記ス

第五條 各官相互ノ間ニ於ケル文書ノ受授ハ必ク登記員ヲ經由スヘシ

第三章 行務報告

第六條 検査官補及屬ハ毎月豫定ノ事務ヲ卒ヘタルコト其他行務ノ成績ヲ證明スル

爲メ第四號書式(甲若クハ乙)ニ倣ヒ行務報告書ヲ作り翌月一日之ヲ課長ニ出スヘシ

第七條 課長ハ課中検査官補及屬ヨリ出シタル行務報告書ヲ檢閲シテ登記員ニ回付スヘシ

第八條 登記員ハ課長ヨリ受ケタル行務報告書ヲ蒐集シ第五號書式(甲若クハ乙)ニ

倣ヒ各課行務一覽表ヲ製シ仍第六號書式(甲若クハ乙)ニ倣ヒ登記月報告書ヲ作り併セテ之ヲ部長ニ提出シ其檢閲ヲ受ケタル上官房ニ回付スヘシ

第九條 官房ニ於テハ各課行務一覽表及ヒ登記月報ニ因リ第七號書式(甲若クハ乙)ニ倣ヒ各部課行務一覽表ヲ製シ行務報告書及ヒ各課行務一覽表ト共ニ之ヲ院長ニ

提出シ其閱了ノ後各部課ノ回覽ニ付スヘシ

第十條 検査官補及屬ハ毎月豫定ノ事務ヲ卒ハルコト能ハサルトキハ其事由ヲ詳記シタル猶豫願書ヲ作り課長ヲ經由シ之ヲ部長ニ出スヘシ

第十一條 部長前條ノ願書ヲ受ケタルトキハ意見ヲ具シ院長ノ認定ヲ乞フヘシ

第四章 延滞事務ノ督促

第十二條 官房ニ於テハ行務報告ノ成績ニ依リ執務延滞ト認メタル件アルトキハ第八號書式ニ倣ヒ督促命令案ヲ起草シ之ヲ院長ニ提出スヘシ

第十三條 官房ニ於テハ第九號書式ニ倣ヒ要急件名録ヲ設ケ院長ニ於テ至急ヲ要スルモノト認メタル事件ヲ登記シ一週間内若クハ院長指定ノ期限内ニ完了セサルトキハ其都度第八號書式ニ倣ヒ督促命令案ヲ起草シ之ヲ院長ニ提出スヘシ

第十四條 登記員ハ毎月始メニ於テ往復日記ヲ調査シ其前々月中主任官吏ニ交付シタル文書ニシテ前月中處分ヲ了セサルモノアルトキハ第十號書式ニ倣ヒ延滞事務表ニ列記シ之ヲ官房ニ回付スヘシ

第十五條 官房ニ於テハ前條延滞事務表ニ督促命令案ヲ附シ之ヲ院長ニ提出スヘシ

第十六條 院長ハ第十二條第十三條及第十五條ノ督促命令ヲ部長ニ傳ヘ之ヲ主任官ニ達セシム(各書式略ス)

●會計検査院文書取扱順序

明治二十二年十月十八日官報検査院達

文書取扱順序

- 一 往復掛ハ各應ノ文書ヲ受付ケ其件名册數ヲ受付簿ニ登録シ受付番號及月日ヲ文書ニ付記シ之ヲ官房ニ回送ス但シ計算書内譯書及證憑書ハ直ニ主管部ノ登記員ニ回付シ登記員ハ之ヲ主任ニ回付ス
- 二 書記官ハ(一)ノ文書ヲ區分シ之ヲ院長ニ提出ス
- 三 院長ハ(二)ノ文書ヲ閱覽シ之ヲ書記官ニ下付ス
- 四 書記官ハ(三)ノ文書ヲ主管部ノ登記員ニ送付ス但各部ニ關セサル文書ハ之ヲ主任ニ送付ス
- 五 登記員ハ(四)ノ文書ヲ部長ニ提出ス
- 六 部長ハ(五)ノ文書ヲ閱覽シ之ヲ課長ニ交付ス
- 七 課長ハ(六)ノ文書ヲ閱覽シ之ヲ登記員ニ回付ス
- 八 登記員ハ(七)ノ文書ヲ受ケ其受付及交付ノ月日ヲ行務日記又ハ往復日記ニ記入シ之ヲ主任ニ交付ス

- 九 屬ハ擔任ノ調査ヲ執行シ調査書其他ノ文書ヲ調製シ之ヲ登記員ニ送付ス但シ計算書内譯書及證憑書類ハ直ニ検査官補ニ送付ス
- 十 登記員ハ調査書其他文書ノ月日及検査官補ニ回付ノ月日ヲ行務日記又ハ往復日記ニ登録シ之ヲ同官ニ回付ス
- 十一 検査官補ハ調査書及計算書内譯書證憑書ニ就キ検査ヲ遂ケ審理書ヲ調製シ及文書ノ調査又ハ立案ヲナシ之ヲ登記員ニ回付ス
- 十二 登記員ハ(十一)ノ審理書又ハ其他文書提出ノ月日ヲ行務日記又ハ往復日記ニ記入シ之ヲ課長ニ提出ス
- 十三 課長ハ審理書又ハ其他ノ文書ヲ檢閲シ之ヲ登記員ニ回付ス
- 十四 登記員ハ(十三)ノ文書提出ノ月日ヲ行務日記又ハ往復日記ニ記入シ之ヲ部長ニ提出ス
- 十五 部長ハ(十四)ノ文書ヲ閱覽シ部會議ニ付シ又ハ總會議ニ付スヘキモノハ登記員ヲ經テ院長ニ提出ス但其會議ニ付スルヲ要セサルモノハ之ヲ認定シテ登記員ニ回付ス
- 十六 部長ハ議決ノ審理書及其他ノ文書ヲ發送ノ爲メ之ヲ登記員ニ回付ス

- 十七 登記員ハ(十五但)ノ審理書及其他文書ノ件名月日ヲ行務日記又ハ往復日記ニ登録シ之ヲ往復掛又ハ主任ニ回付ス
- 十八 往復掛ハ(十七)ノ文書ヲ淨書發送シ原書ハ登記員ニ返付ス
- 十九 院長ハ部長ヨリ提出ノ文書ヲ閱覽シ之ヲ總會議ニ付ス但シ其會議ニ付スルヲ要セサルモノハ之ヲ認定シテ書記官ニ下付ス
- 二十 主任課長ハ總會議ノ議決ニ據リ文書ヲ整理シ之ヲ部長ニ提出ス
- 二十一 部長ハ(二十)ノ文書ヲ閱覽シ之ヲ院長ニ提出ス
- 二十二 院長ハ(二十一)ノ文書ヲ閱覽シ之ヲ書記官ニ下付ス
- 二十三 書記官ハ(十九)ノ文書ヲ往復掛又ハ登記員ニ回付ス
- 二十四 往復掛ハ(二十三)ノ文書ヲ淨書發送シ原書ハ登記員ニ返付ス
- 二十五 登記員ハ原書ノ回付ヲ受ケ淨書發送ノ月日及處了番號ヲ行務日記又ハ往復日記ニ記入シ之ヲ主任ニ返付ス

圖面略ス

●會計検査院試補定員

明治二十三年十月 勅令第二百二十四號

朕會計検査院ニ試補ヲ置クノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

會計検査院ニ試補六名ヲ置ク

但検査官補ニ缺員アルトキハ定員外試補ヲ置クコトヲ得其數ハ検査官補缺員ノ數ヲ超過スルコトヲ得ス

○行政裁判所

●行政裁判法

明治二十三年六月 法律第四十八號

朕行政裁判法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

行政裁判法

第一章 行政裁判所組織

- 第一條 行政裁判所ハ之ヲ東京ニ置ク
- 第二條 行政裁判所ニ長官一人及評定官ヲ置ク評定官ノ員數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三條 行政裁判所ニ書記ヲ置ク其員數及職務ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三條 長官ハ勅任トス評定官ハ勅任又ハ奏任トス
- 長官及評定官ハ三十歳以上ニシテ五年以上高等行政官ノ職ヲ奉シタル者若クハ裁判官ノ職ヲ奉シタル者ヨリ内閣總理大臣ノ上奏ニ依リ任命セラレ、モノトス
- 書記ハ長官之ヲ判任ス
- 第四條 長官及評定官ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 公然政事ニ關係スルコト
- 二 政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員トナリ又ハ衆議院議員府縣郡市町村會ノ議員若クハ參事會員タルコト
- 三 兼官ノ場合ヲ除ク外俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トスル公務ニ就クコト
- 四 商業ヲ營ミ其他行政上ノ命令ヲ以テ禁シタル業務ヲ營ムコト
- 第五條 第六條ノ場合ヲ除ク外長官及評定官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非サレハ其意ニ反シテ退官轉官又ハ非職ヲ命セラル、コトナシ
- 行政裁判所ノ長官又ハ評定官ヲ兼任スル者ハ其本官在職中前項ヲ適用ス
- 懲戒處分ノ法ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第六條 長官及評定官身體若クハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ内閣總理大臣ハ行政裁判所ノ總會ノ決議ニ依リ其退職ヲ上奏スルコトヲ得
- 第七條 長官ハ行政裁判所ノ事務ヲ總理ス
- 長官故障アルトキハ評定官中官等最モ高キ者之ヲ代理ス官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其先ナル者之ヲ代理ス
- 第八條 長官ハ自ラ裁判長トナリ若クハ評定官ニ裁判長ヲ命スルコトヲ得
- 部ヲ分ツノ必要アルトキハ其組織及事務分配ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

- 第九條 行政裁判所ノ裁判ハ裁判長及評定官ヲ併セ五人以上ノ列席會議ヲ要ス但列席ノ人員ハ奇數ニ限ル若シ缺席ノ爲偶數トナリタルトキハ官等最モ低キ評定官ヲ議決ヨリ除ク官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其後ナル者ヲ除ク
- 議決ハ過半數ニ依ル
- 第十條 長官又ハ評定官ハ左ノ場合ニ於テ評議及議決ニ加ハルコトヲ得ス
 - 一 裁判スヘキ事件自己又ハ父母兄弟姊妹若クハ妻子ノ身上ニ關スルトキ
 - 二 裁判スヘキ事件一私人ノ資格ヲ以テ意見ヲ述ヘタルモノ又ハ理事者代理者若クハ職務外ノ地位ニ於テ取扱ヒタルモノニ關スルトキ
 - 三 裁判スヘキ事件行政官タルノ資格ヲ以テ其事件ノ處分又ハ裁決ニ參與シタルモノニ關スルトキ
- 第十一條 前條ノ場合ニ於テ原告又ハ被告ハ原因ヲ疏明シテ文書又ハ口頭ヲ以テ長官又ハ評定官ヲ忌避スルコトヲ得
- 前項ノ場合ニ於テ行政裁判所ハ本人ヲ回避セシメ之ヲ議決ス
- 第十二條 忌避若クハ除斥ノ原因タル事情ニ付キ長官又ハ評定官ヨリ申出アルトキ又ハ他ノ事由ヨリシテ長官又ハ評定官カ法律ニ依リ評議及議決ニ加ハルヲ得サルノ疑アルトキハ行政裁判所ハ本人ヲ回避セシメ之ヲ議決ス

第十三條 行政裁判所ノ處務規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 行政訴訟ノ辯護人タルコトヲ得ルハ行政裁判所ノ認許シタル辯護士ニ限ル

第二章 行政裁判所ノ權限

第十五條 行政裁判所ハ法律勅令ニ依リ行政裁判所ニ出訴ヲ許シタル事件ヲ審判ス

第十六條 行政裁判所ハ損害賠償ノ訴訟ヲ受理セス

第十七條 行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ除ク外地方上級行政廳ニ訴願シ其裁決ヲ經タル後ニ非サレハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

各省大臣ノ處分又ハ内閣直轄官廳又ハ地方上級行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

各省又ハ内閣ニ訴願ヲ爲シタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第十八條 行政裁判所ノ判決ハ其事件ニ付キ關係ノ行政廳ヲ羈束ス

第十九條 行政裁判所ノ裁判ニ對シテハ再審ヲ求ムルコトヲ得ス

第二十條 行政裁判所ハ其權限ニ關シテハ自ラ之ヲ決定ス

行政裁判所ト通常裁判所又ハ特別裁判所トノ間ニ起ル權限ノ爭議ハ權限裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第二十一條 行政裁判所ノ判決ノ執行ハ通常裁判所ニ囑託スルコトヲ得

第三章 行政訴訟手續

第二十二條 行政訴訟ハ行政廳ニ於テ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ告知シタル日ヨリ六十日以内ニ提起スヘシ六十日ヲ經過シタルトキハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ス但法律勅令ニ特別ノ規程アルモノハ此限ニ在ラス

訴訟提起ノ日限其他此法律ニ依リ行政裁判所ノ指定スル日限ノ計算並ニ災害事變ノ爲メ遷延シタル期限ニ關シテハ民事訴訟ノ規程ヲ適用ス

第二十三條 行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ除ク外行政廳ノ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止セス但行政廳及行政裁判所ハ其職權ニ依リ又ハ原告ノ願ニ依リ必要ト認ムルトキハ其處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第二十四條 行政訴訟ハ文書ヲ以テ行政裁判所ニ提起スヘシ

法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ハ其名ヲ以テ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十五條 訴狀ハ左ノ事項ヲ記載シ原告署名捺印スヘシ

一 原告ノ身分、職業、住所、年齢

二 被告ノ行政廳又ハ其他ノ被告

三 要求ノ事件及其理由

四 立證

五 年月日

訴狀ニハ原告ノ經歷シタル訴願書裁決書並ニ證據書類ヲ添フヘシ

第二十六條 訴狀ニハ被告ニ送付スル爲メニ必要文書ノ副本ヲ添フヘシ

第二十七條 行政裁判所ハ原告ノ訴狀ニ就テ審査シ若シ法律勅令ニ依リ行政訴訟ヲ提起スヘカラサルモノナルガ又ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ其理由ヲ付シタル裁決書ヲ以テ之ヲ却下スヘシ

其訴狀ノ方式ヲ缺クニ止マルモノハ之ヲ改正セシムル爲メ期限ヲ指定シテ還付スヘシ

第二十八條 行政裁判所ニ於テ訴狀ヲ受理シタルトキハ其副本ヲ被告ニ送付シ相當ノ期限ヲ指定シテ答辯書ヲ差出サシムヘシ

答辯書ニハ原告ニ送付スル爲メ必要文書ノ副本ヲ添フヘシ

第二十九條 行政裁判所ハ必要ナリト認ムルトキハ其期限ヲ指定シテ原告被告交互ニ辯駁書及再度ノ答辯書ヲ差出サシムヘシ

第三十條 行政裁判所ハ訴狀及答辯書ノ附屬文書ノ副本ヲ原告被告交互ニ送付スル代リニ所内ニ於テ之ヲ閱覽セシムルコトヲ得

第三十一條 行政裁判所ハ訴訟審問中其事件ノ利害ニ關係アル第三者ヲ訴訟ニ加ハ

ラシメ又ハ第三者ノ願ニ依リ訴訟ニ加ハルコトヲ許可スルヲ得

前項ノ場合ニ於テハ行政裁判所ノ判決ハ第三者ニ對シテモ亦其効力ヲ有ス

第三十二條 行政官廳ハ其官吏又ハ其申立ニ依リ主務大臣ヨリ命シタル委員ヲシテ訴訟代理ヲ爲サシムルコトヲ得

代理者ハ委任狀ヲ以テ代人タルコトヲ證明スヘシ

第三十三條 行政裁判所ハ豫メ指定シタル期日ニ於テ原告被告及第三者ヲ召喚シテ審廷ヲ開キ口頭審問ヲ爲スヘシ

原告被告及第三者ニ於テ口頭審問ヲ爲スコトヲ望マサル旨ヲ申立タタル場合ニ於テハ行政裁判所ハ文書ニ就キ直ニ判決ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 審廷ニ於テハ原告被告及第三者ノ辯明ヲ聽クヘシ

審廷ニ於テハ裁判長ノ許可ヲ得タル者ヨリ順次發言スヘシ

原告被告及第三者ハ事實上及法律上ノ點ニ就キ文書ニ盡サ、ル所ヲ補足シ又ハ誤謬ヲ更正シ若シハ新ニ證據ヲ提出シ及證書ヲ提示スルコトヲ得

第三十五條 主務大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ公益ヲ辯護スル爲メ委員ヲ命シ審廷ニ差出スコトヲ得

行政裁判所ハ判決ヲ爲ス前ニ委員ヲシテ意見ヲ陳述セシムヘシ

第三十六條 行政裁判所ノ對審判決ハ之ヲ公開ス
安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリ又ハ行政廳ノ要求アルトキハ行政裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第三十七條 公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シタルトキハ公衆ヲ退カシムルノ前之ヲ言渡ス

第三十八條 行政裁判所ハ原告被告及第三者ニ出廷ヲ命シ並ニ必要ト認ムル證憑ヲ徵シ證人及鑑定人ヲ召喚シ審問ニ應シ證明及鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

證人又ハ鑑定人トシテ審問ニ應シ證明及鑑定ヲ爲スヘキ義務ニ關シテハ民事訴訟ノ規程ヲ適用ス其義務ヲ盡サ、ル場合ニ於テ處分スヘキ科罰ハ行政裁判所自ラ之ヲ判決ス

行政裁判所ハ口頭審問ニ於テ舉證ノ手續ヲ爲シ又ハ評定官ニ委任シ若クハ通常裁判所又ハ行政廳ニ囑託シテ之カ調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十九條 行政裁判所ニ於テ審問中ノ事件ニ關シ民事上ノ訴訟起ルコトアリテ通常裁判ノ確定ヲ待ツノ必要アリト認ムルトキハ其審判ヲ中止スルコトヲ得

第四十條 審問手續ニ關スル故障ノ申立ハ行政裁判所自ラ之ヲ判決ス

第四十一條 召喚ノ期日ニ於テ原告若クハ被告若クハ第三者出廷セサルコトアルモ

行政裁判所ハ其審判ヲ中止セス
原告被告及第三者共ニ出廷セサルトキハ行政裁判所ハ審問ヲ行ハス直ニ判決ヲ爲スコトヲ得

第四十二條 裁判宣告書ハ理由ヲ付シ裁判長評定官及書記之ニ署名捺印シ其謄本ニ行政裁判所ノ印章ヲ捺シ之ヲ原告被告及第三者ニ交付スヘシ

行政訴訟ノ文書ニハ訴訟用印紙ヲ貼用スルヲ要セス

第四十三條 行政訴訟手續ニ關シ此法律ニ規程ナキモノハ行政裁判所ノ定ムル所ニ依リ民事訴訟ニ關スル規程ヲ適用スルコトヲ得

第四章 附則

第四十四條 此法律ハ明治二十三年十月一日ヨリ施行ス

第四十五條 第二十條第二項ノ權限爭議ハ權限裁判所ヲ設クル迄ノ間樞密院ニ於テ之ヲ裁定ス

裁定ノ手續ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第四十六條 従前ノ法令ニシテ此法律ト牴觸スルモノハ此法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第四十七條 此法律施行ノ前既ニ行政訴訟トシテ受理シ審理中ニ係ルモノハ仍従前ノ成規ニ依リ處分スヘシ

● 行政裁判所處務規程

明治二十三年八月 勅令第百九十二號

朕行政裁判所處務規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

行政裁判所處務規程

- 第一條 行政訴訟各事件ノ掛評定官ハ行政裁判所長官ノ指定ニ依ル
- 第二條 行政裁判法第八條ニ依リ評定官ヲシテ裁判長ヲラシムルトキハ同法第七條第二項ノ順序ニ從ヒ之ヲ命スヘキモノトス
- 第三條 裁判長ハ一事件毎ニ審判準備ノ爲メ掛評定官中ノ一名若クハ二名ニ專理員ヲ指命スルコトヲ得
- 第四條 裁判長行政裁判法第三十八條第二項ノ場合ニ於テ科罰ヲ言渡シタルトキハ書記ヲシテ訴訟ノ記録ニ之ヲ記入セシム
- 第五條 毎年七月十一日ヨリ九月十日マテノ間ハ行政裁判所ニ於テ緊急ノ事項ト認ムルモノ、外既ニ著手シタル訴訟ヲ中止シ並ニ新ナル訴訟ニ著手セス
- 第六條 行政裁判所ノ總會議ハ評定官總員三分ノ二以上列席スルコトニ非サレハ議決ヲ爲スコトヲ得ス
- 第七條 總會議ノ議事ハ長官之ヲ整理ス若シ長官故障アルトキハ評定官中官等最モ

高キ者之ヲ代理ス

第八條 行政裁判所ハ訴訟ノ呼出狀及其他ノ書類ヲ使丁若クハ郵便ヲ以テ送達シ又ハ通常裁判所ニ囑託シテ送達セシムルコトヲ得

第九條 行政裁判所ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ其職權ニ屬スル事件ニ付告示ヲ發スルコトヲ得

第十條 行政裁判所長官ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ事務取扱ノ順序方法ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

書記ノ職務ニ關スル規程ハ行政裁判所之ヲ定ム

○ 警視廳

● 警視廳官制

明治十九年五月 勅令第四十二號

朕警視廳ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

警視廳官制

- 第一條 警視廳ニ左ノ警察官及屬員ヲ置ク
- 警視總監
- 警視副總監

一等警視
 二等警視
 三等警視
 四等警視
 五等警視
 屬
 警部
 警部補

第二條 警視廳ニ左ノ醫務官ヲ置ク
 警察醫長
 警察副醫長
 警察醫

第三條 警視廳ニ左ノ消防官ヲ置ク
 消防司令長
 消防司令副長
 消防司令

消防司令補

第四條 警視廳ニ左ノ監獄官及屬員ヲ置
 典獄
 副典獄
 書記
 看守長
 看守副長

第五條 總監ハ一人勅任一等又ハ二等トス内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ東京府下ノ警察消防及監獄ノ事務ヲ總轄ス

第六條 總監ハ高等警察ノ事務ニ付テハ直ニ内閣總理大臣ノ指揮ヲ承ケ其他各大臣ノ主務ニ關スル警察事務ニ付テハ直ニ各大臣ノ指揮監督ヲ承ク

第七條 總監ハ府下ノ警察事務ニ付其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律命令ノ範圍内ニ於テ警察令ヲ發スルコトヲ得但東京府知事所掌ノ事務ト交渉スルモノハ府知事ト協議ヲ經連署ヲ以テ之ヲ發スヘシ

第八條 總監ハ所部ノ官吏ヲ統督シ委任官ノ進退ハ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第九條 總監ハ其主任ノ事務ニ付テハ府下ノ郡區長及局長ヲ指揮ス

第十條 總監ハ内務大臣ヲ經由シテ上奏裁可ヲ經ルニアラサレハ局本署部及方面ヲ廢置分合シ又ハ定限ノ外更ニ奏任官ヲ増加スルコトヲ得ス

本署ヲ除クノ外各署及局中諸課ノ廢置分合ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ施行スルコトヲ得

第十一條 總監ハ俸給豫算定額内ニ於テ其應限リ定員ヲ設ケ判任官ヲ任用スルコトヲ得

第十二條 總監ハ臨時ノ須要ニ由リ判任官定員ノ外ニ俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第十三條 總監ハ毎會計年度末ニ於テ判任官以下使用ノ狀況ヲ具ヘ臨時須要ニ依リ使用シタル雇員ノ日數人員及金額ヲ細分統計シ内務大臣ニ報告スヘシ

第十四條 總監ハ一周年末ニ其應ノ豫算定額内ニ於テ奏任官以下特別ノ勤勞アルモノヲ賞與スルコトヲ得其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ニ係ルモノハ之ヲ專行ス

第十五條 總監ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒ス其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十六條 總監ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ局署部ノ處務細則ヲ定ムルコトヲ得

第十七條 副總監ハ一人奏任一等トス總監ノ事務ヲ佐ク總監事故アルトキハ内務大臣ノ命ニ依リ之ヲ代理ス

第十八條 警視ハ奏任トス二等ヨリ六等ニ至ル總監ノ指揮監督ヲ承ケ局又ハ署ニ就キ其主務ヲ掌理ス

第十九條 屬ハ判任トス一等ヨリ十等ニ至ル上官ノ指揮ヲ承ケ書記簿記及計算ヲ掌ル

第二十條 警部ハ判任トス警視ノ指揮監督ヲ承ケ所屬ノ警部補及巡查ヲ指揮シ其主任ニ屬スル警察事務ニ從事ス

警部補ハ判任トス警部ノ職掌ヲ佐ク

第二十一條 警察醫長ハ奏任三等又ハ四等トス總監ノ指揮監督ヲ承ケ警察ニ關スル醫務ヲ掌理ス

第二十二條 警察副醫長ハ奏任五等又ハ六等トス醫長ノ職掌ヲ佐ク醫長事故アルトキハ總監ノ命ニ依リ之ヲ代理ス

第二十三條 警察醫ハ判任トス一等ヨリ十等ニ至ル醫長ノ命ヲ承ケ診療分析解剖等ニ從事ス

- 第二十四條 消防司令長ハ委任三等又ハ四等トス總監ノ指揮監督ヲ承ケ消防本署ノ長トナリテ所屬員ヲ統率シ火水消防ノ事務ヲ掌理ス
- 第二十五條 消防司令副長ハ委任五等又ハ六等トス司令長ノ職掌ヲ佐ク司令長事故アルトキハ總監ノ命ヲ承ケ之ヲ代理ス
- 第二十六條 消防司令ハ判任トス司令長ノ命ヲ承ケ消防組ヲ指揮監督ス
- 消防司令補ハ判任トス消防司令ノ職掌ヲ佐ク
- 第二十七條 典獄ハ判任一等又ハ二等トス總監ノ命ヲ承ケ未決已決各囚監獄ヲ管理シ書記看守長以下ノ諸員ヲ指揮監督ス
- 第二十八條 副典獄ハ判任トス三等ヨリ五等ニ至ル典獄ノ職掌ヲ佐ク典獄事故アルトキハ總監ノ命ヲ承ケ之ヲ代理ス
- 第二十九條 書記ハ判任トス六等ヨリ十等ニ至ル典獄ノ命ヲ承ケ書記簿記及計算ニ從事ス
- 第三十條 看守長ハ判任トス典獄ノ命ヲ承ケ監獄ヲ看守シ看守ヲ指揮ス
- 看守副長ハ判任トス看守長ノ職掌ヲ佐ク
- 第三十一條 警部警部補消防司令消防司令補看守長及看守副長ノ官等及月俸ハ別表ノ定ムル所ニ依ル

- 第三十二條 巡查及看守ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル
- 第三十三條 警視廳ノ事務ヲ分掌スル爲メ書記局第一局第二局第三局會計局警察本署醫務部消防本署及監獄本署ヲ置ク
- 第三十四條 各局ニ局長局次長一人ヲ置キ警視ヲ以テ之ニ充ツ但局長アレハ局次長ヲ置カス局次長アレハ局長ヲ置カサルコトアルヘシ
- 局中課ヲ設ケ各課ニ課長一人及課僚若干員ヲ置キ屬警部又ハ警部補ヲ以テ之ニ充ツ
- 第三十五條 局長又ハ局次長ハ總監ノ命ヲ承ケ其主務ヲ掌理シ局中各課ノ事務ヲ指揮ス
- 課長ハ局長又ハ局次長ノ命ヲ承ケ課務ヲ掌理ス課僚ハ課長ノ指揮ヲ承ケ主務ニ從事ス
- 局長及局次長ヲ併セ置クノ場合ニ於テ局長事故アルトキハ總監ノ命ニ依リ局次長其職務ヲ代理ス
- 第三十六條 各本署ニ本署長本署次長一人ヲ置キ警視消防官又ハ典獄官ヲ以テ之ニ充ツ本署長アレハ本署次長ヲ置カス本署次長アレハ本署長ヲ置カサルコトアルヘシ

本署長本署次長ハ總監ノ命ヲ承ケ其主務ヲ掌理ス本署長及本署次長ヲ併セ置クノ場各ニ於テ本署長事故アルトキハ總監ノ命ニ依リ本署次長其職務ヲ代理ス

第三十七條 部ニ部長副部长一人ヲ置キ醫務官ヲ以テ之ニ充ツ但部長アレハ副部长ヲ置カス副部长アレハ部長ヲ置カサルコトアルヘシ

部長及副部长ハ總監ノ命ヲ承ケ其主務ヲ掌理ス部長及副部长ヲ併セ置クノ場合ニ於テ部長事故アルトキハ總監ノ命ニ依リ副部长其職務ヲ代理ス

第三十八條 局署部ニ於テ特別ノ職員ヲ置クモノハ其局署部ニ就テ之ヲ定ム

第三十九條 書記局ニ職員課文書課往復課及記録課ヲ置キ本廳ノ庶務ヲ分掌セシム

一、職員課ハ本廳職員ノ進退賞罰及身分ニ關スル事ヲ掌ル

二、文書課ハ諸文案ヲ起草シ及之ヲ審査スルコトヲ掌ル

三、往復課ハ公文書類及電信ノ接受及發送ノ事ヲ掌ル

四、記録課ハ公文書類ノ編纂保存統計製圖及書籍管守ノ事ヲ掌ル

第四十條 書記局ニ參事官五人ヲ置キ警視ヲ以テ之ニ充テ總監ノ諮問ニ應シ意見ヲ述ヘ及審議立案ノ事ヲ掌ラシム

第四十一條 第一局ニ第一課第二課第三課第四課及第五課ヲ置キ行政警察ニ關スル事務ヲ分掌セシム

一、第一課ハ諸營業市場會社製造所度量衡教會講社說教及拜禮ニ關スル事項ヲ掌ル

二、第二課ハ演藝遊觀場遊藝場遊藝場徽章祭典葬儀賭博宮儀其他風俗ニ關スル事項ヲ掌ル

三、第三課ハ船舶堤防河岸地道路橋梁渡船場鐵道電信公園車馬諸建築田野漁獵採藻ニ關スル事ヲ掌ル

四、第四課ハ人命傷傷群集喧噪銃砲火藥爆發物發火物刀劍水災火災難波船遺流失物理藏物ニ關スル事ヲ掌ル

五、第五課ハ傳染病豫防消毒檢疫種痘飲食物飲料水醫療藥品家畜屠畜場墓地火葬場其他衛生ニ關スル事ヲ掌ル

第四十二條 第二局ニ第一課第二課ヲ置キ司法警察ニ關スル事務ヲ分掌セシム

一、第一課ハ諸般ノ犯罪人ヲ搜索拿捕シ證據物件ヲ拾集シ之ヲ檢察官ニ交付スルコトヲ掌ル

二、第二課ハ失踪者風癩者棄兒迷兒被監視者ニ關スル事ヲ掌ル

第四十三條 第三局ハ政治ニ關スル結社集會新聞雜誌圖書及其他ノ出版ニ關シ高等警察ノ事務ヲ掌ル

一、第一課ハ諸般ノ犯罪人ヲ搜索拿捕シ證據物件ヲ拾集シ之ヲ檢察官ニ交付スルコトヲ掌ル

二、第二課ハ失踪者風癩者棄兒迷兒被監視者ニ關スル事ヲ掌ル

第四十三條 第三局ハ政治ニ關スル結社集會新聞雜誌圖書及其他ノ出版ニ關シ高等警察ノ事務ヲ掌ル

一、第一課ハ諸般ノ犯罪人ヲ搜索拿捕シ證據物件ヲ拾集シ之ヲ檢察官ニ交付スルコトヲ掌ル

●警視廳官制
 中刪除明治二十年
 勅令第四十九號
 除警視廳官制中刪
 除ノ件ヲ裁可シ茲
 明治十九年(五月)
 勅令第四十二號警
 視廳官制第四十九
 條中一事務ノ繁簡
 ニ從ヒ三若クハ警
 除部一ノ十三字ヲ
 刪ス

第四十四條 會計局ニ出納課検査課及用度課ヲ置キ本廳及所轄廳ノ會計營繕用度ニ關スル事務ヲ分掌セシム

一、出納課ハ本廳及所轄廳ノ經費豫算決算金錢ノ出納諸帳簿ノ整頓及計算表調整ノ事ヲ掌ル

二、検査課ハ金錢出納ノ當否及各般ノ證書ヲ検査スル事ヲ掌ル

三、用度課ハ所轄ノ地所建物其他一切ノ需用品ニ關スル事ヲ掌ル

第四十五條 警察本署ハ各警察署ヲ統轄シ巡邏查察警備及警備ノ事ヲ掌ル

警察本署ニ事務員ヲ置ク警視二人警部以下ヲ以テ之ニ充ツ

事務員ハ本署長ノ命ニ依リ本署ノ主務ヲ分掌ス

第四十六條 府下警察事務ヲ監督スル爲ニ第一方面第二方面第三方面第四方面第五方面第六方面ニ分テ須要ニ從ヒ各方面ノ區域内ニ警察署ヲ置ク

第四十七條 各方面ニ方面監督一人ヲ置キ警視ヲ以テ之ニ充ツ

第四十八條 方面監督ハ總監又ハ本署長ノ名ヲ承ケ主任方面内ヲ巡迴シ警察ノ事務ヲ監督ス又臨時命ヲ承テ署長以下指揮スルコトヲ得

第四十九條 警察署ハ其所轄ノ區域内ニ於テ警察事務ヲ掌理シ各署ニ署長一人ヲ置キ事務ノ繁簡ニ從ヒ三等以下ノ警視若クハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

第五十條 署長ハ其主任ノ警察事務ニ付テハ總監又ハ本署長ノ指揮監督ヲ承ク署長事故アルトキハ總監ノ命ニ依リ上席警部其職務ヲ代理ス

第五十一條 醫務部ハ警察ニ關スル診療解剖分析其他醫務ニ關スル事ヲ掌ル

第五十二條 消防本署ハ水火消防ニ關スル事務ヲ掌ル

各區ニ消防分署ヲ配置シ本署ノ管轄ニ屬セシム

分署ニ長一人ヲ置ク消防司令ヲ以テ之ニ充ツ

第五十三條 監獄本署ハ監獄ニ關スル事務ヲ掌リ本署ノ下分署ヲ置キ其管轄ニ屬セシム

分署ニ長一人ヲ置キ典獄又ハ副典獄ヲ以テ之ニ充ツ

別表

官	判任									
	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等	十等
警部	四拾五圓	四拾圓	三拾六圓	三拾貳圓	貳拾八圓	貳拾四圓	貳拾圓			
消防司令	四拾五圓	四拾圓	三拾六圓	三拾貳圓	貳拾八圓	貳拾四圓	貳拾圓			
看守長					貳拾八圓	貳拾四圓	貳拾圓			

警部補	拾八圓拾五圓拾貳圓
消防司令補	拾八圓拾五圓拾貳圓
看守副長	拾八圓拾五圓拾貳圓

●警視廳官制中第三十一條並別表改正

明治二十一年十月 勅令第六十九號

朕警視廳官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治十九年五月勅令第四十二號警視廳官制中第三十一條並別表左ノ通改正ス

第三十一條 警部、警部補、消防司令、消防司令補、看守長及看守副長ノ官等月俸ハ別

表定ムル所ニ依リ事務ノ繁簡ニ從ヒ總監便宜之ヲ増減スルコトヲ得但一等上級俸

ヲ受ケタル者特別増俸ノ場合ハ判任官官等俸級令ニ依ル

別表

官部	判任官									
	等一	等二	等三	等四	等五	等六	等七	等八	等九	等十
警部	上七拾五圓	中六拾四圓	下五拾四圓	上七拾五圓	中六拾四圓	下五拾四圓	上七拾五圓	中六拾四圓	下五拾四圓	上七拾五圓
警部補	上六拾四圓	中五拾三圓	下四拾三圓	上六拾四圓	中五拾三圓	下四拾三圓	上六拾四圓	中五拾三圓	下四拾三圓	上六拾四圓
消防司令	上七拾五圓	中六拾四圓	下五拾四圓	上七拾五圓	中六拾四圓	下五拾四圓	上七拾五圓	中六拾四圓	下五拾四圓	上七拾五圓
看守長	上七拾五圓	中六拾四圓	下五拾四圓	上七拾五圓	中六拾四圓	下五拾四圓	上七拾五圓	中六拾四圓	下五拾四圓	上七拾五圓
看守副長	上七拾五圓	中六拾四圓	下五拾四圓	上七拾五圓	中六拾四圓	下五拾四圓	上七拾五圓	中六拾四圓	下五拾四圓	上七拾五圓

官部	判任官			任官		
	上	中	下	上	中	下
警部	七拾五圓	六拾四圓	五拾四圓	七拾五圓	六拾四圓	五拾四圓
警部補	六拾四圓	五拾三圓	四拾三圓	六拾四圓	五拾三圓	四拾三圓
消防司令	七拾五圓	六拾四圓	五拾四圓	七拾五圓	六拾四圓	五拾四圓
看守長	七拾五圓	六拾四圓	五拾四圓	七拾五圓	六拾四圓	五拾四圓
看守副長	七拾五圓	六拾四圓	五拾四圓	七拾五圓	六拾四圓	五拾四圓

●警視廳官制中改正

明治二十二年三月 勅令第二十四號

朕警視廳官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治十九年五月勅令第四十二號警視廳官制中左ノ通改正ス

第三條 警視廳ニ左ノ消防官ヲ置ク

消防司令長

消防司令副長

消防司令

消防司令補

消防機關士

第二十六條 消防司令ハ判任トス司令長ノ命ヲ承ケ消防組ヲ指揮監督ス
 消防司令補ハ判任トス消防司令ノ職掌ヲ佐シ
 消防機關士ハ判任トス蒸汽唧筒ノ運用ヲ掌ル

第三十一條 警部、警部補、消防司令、消防司令補、看守長、消防機關士、看守副長ノ官等月俸ハ別表定ムル所ニ依リ事務ノ繁簡ニ從ヒ總監便宜之ヲ増減スルコトヲ得但一等上級俸ヲ受ケタル者特別増俸ノ場合ハ判任官官等俸給令ニ依リ別表

官	判			任			官		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下
警部	七拾五圓	七拾四圓	七拾三圓	七拾五圓	七拾四圓	七拾三圓	七拾五圓	七拾四圓	七拾三圓
警部補	六拾五圓	六拾四圓	六拾三圓	六拾五圓	六拾四圓	六拾三圓	六拾五圓	六拾四圓	六拾三圓
消防司令	七拾五圓	七拾四圓	七拾三圓	七拾五圓	七拾四圓	七拾三圓	七拾五圓	七拾四圓	七拾三圓
看守長	六拾五圓	六拾四圓	六拾三圓	六拾五圓	六拾四圓	六拾三圓	六拾五圓	六拾四圓	六拾三圓
看守副長	五拾五圓	五拾四圓	五拾三圓	五拾五圓	五拾四圓	五拾三圓	五拾五圓	五拾四圓	五拾三圓
消防機關士	拾五圓	拾四圓	拾三圓	拾五圓	拾四圓	拾三圓	拾五圓	拾四圓	拾三圓

警部補	消防司令補	看守副長
拾五圓拾貳圓	拾五圓拾貳圓	拾五圓拾貳圓

○貴族院

●貴族院事務局官制

明治二十三年七月
勅令第百二十一號

朕貴族院事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

貴族院事務局官制

第一條 貴族院事務局ノ職員ハ左ノ如シ

- 書記官長
- 書記官 十八
- 試補 二人
- 屬 二十八

第二條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ事務ヲ監督ス局中ノ分課及職員ノ配置ハ書記官長之ヲ定ム

第三條 書記ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ議事記録筆記印刷庶務會計等ニ關スル事務ヲ分掌ス

第四條 書記官長故障アルトキハ上席書記官其ノ職務ヲ代理ス

第五條 屬ハ判任トス書記官長ノ定ムル所ニ依リ各其ノ事務ニ從フ

○衆議院

●衆議院事務局官制 明治二十三年七月 勅令第百二十二號

朕衆議院事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

衆議院事務局官制

第一條 衆議院事務局ノ職員ハ左ノ如シ

書記官長

書記官

試補

屬

十八

二人

二十人

第二條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ事務ヲ監督ス

局中ノ分課及職員ノ配置ハ書記官長之ヲ定ム

第三條 書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ議事記録筆記印刷庶務會計等ニ關スル事務ヲ分掌ス

第四條 書記官長故障アルトキハ上席書記官其ノ職務ヲ代理ス

第五條 屬ハ判任トス書記官長ノ定ムル所ニ依リ各其ノ事務ニ從フ

○北海道廳

●函館札幌根室三縣並北海道事業管理局ヲ廢シ北海道

廳ヲ置ク

明治十九年一月 布告第一號

北海道ハ土地荒漠住民稀少ニシテ富庶ノ事業未タ普ク邊隅ニ及フコト能ハス今全土ニ通シテ拓殖殖民ノ實業ヲ舉クルカ爲ニ從前置ク所ノ各處分治ノ制ヲ改ムルノ必要ヲ見ル因テ左ノ如ク制定ス

第一

函館札幌根室三縣並北海道事業管理局ヲ廢シ更ニ北海道廳ヲ置キ全道ノ施政並集治監及屯田兵開墾授産ノ事務ヲ統理セシム

第二

北海道廳ヲ札幌ニ支廳ヲ函館根室ニ置ク

●北海道廳官制改正

明治二十三年七月 勅令第百十九號

朕北海道廳官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道廳官制

第一條 北海道廳ニ左ノ職員ヲ置ク

長官 一人

理事官 三人

參事官 二人

技師 十三人

技師試補 三人

屬 百五十八人

助手 八十八人

警部警部補 四十二人

第二條 北海道廳ニ左ノ郡區官ヲ置ク

郡長 二十人

區長 二人

郡書記 百三十人

區書記 三十人

第三條 北海道廳ニ左ノ監獄官ヲ置ク

典獄 六人

副典獄 六人

書記 六十二人

看守長 百五人

監獄醫 十五人

第四條 長官ハ勅任トス内務大臣ノ指揮監督ニ屬シ各省ノ主務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ北海道ノ拓地殖民並部内ノ行政及警察ニ關スル一切ノ事務ヲ統理ス

第五條 長官ハ屯田兵ノ開墾授産ノ事ヲ監督ス

第六條 長官ハ北海道ノ事務ニ付其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律命令ノ範圍内ニ於テ管内一般又ハ其一部ニ應令ヲ發スルコトヲ得

第七條 應令ハ内務大臣其他主務ノ大臣ニ於テ公益ヲ害シ成規ニ違ヒ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ中止スルコトアルヘシ

第八條 長官ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲メ兵備ヲ要スルトキハ師團長旅團長及屯田兵司令官ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得

第九條 長官ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十條 長官ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒ス其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十一條 長官ハ須要ニ從ヒ判任官俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第十二條 長官ハ一週年末ニ其應豫算定額内ニ於テ奏任官以下特別ノ勤勞アルモノヲ賞與スルコトヲ得其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十三條 長官ハ毎年所轄事業ノ情況及其處務ノ方法並功程ヲ具ヘ内務大臣ニ報告スヘシ

第十四條 長官ハ一郡若クハ數郡及毎區ニ警察署ヲ置キ郡區長ヲ以テ署長ニ充テ管内一切ノ警察ヲ掌ラシメ又各警察署ノ部内ニ於テ警察分署ノ配置分合ヲ定ムヘシ

第十五條 長官ハ廳中及其所轄官廳ノ處務細則ヲ定ムルコトヲ得

第十六條 理事官ハ奏任トス長官ノ命ヲ承ケ各其主務ヲ掌理ス長官事故アルトキハ

上席理事官其ノ職務ヲ代理ス

第十七條 參事官ハ奏任トス長官ノ諮詢ニ應ジ意見ヲ具ヘ及審議立案ヲ掌ル

第十八條 技師ハ奏任トス長官又ハ部長ノ命ヲ承ケ各其技術ニ從事ス

第十九條 技師試補ハ長官ノ指命スル所ニ從ヒ職務ヲ練習シ任官ヲ待ツモノトス

第二十條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ各庶務ニ從事ス

第二十一條 技手ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第二十二條 警部ハ判任一等以下五等以上トシ警部補ハ判任六等トス長官又ハ警察署長ノ指揮監督ヲ承ケ各其主任ニ屬スル警察事務ヲ掌リ部下ノ巡查ヲ指揮監督ス

第二十三條 郡長ハ每郡若クハ數郡ニ一人區長ハ每區ニ一人ヲ置キ奏任四等以下トシ長官ノ命ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理シ兼テ郡區警察署長ト爲リ警部警部補ヲ指揮監督ス

第二十四條 郡區書記ハ判任三等以下トス郡區長ノ命ヲ承ケ各庶務ニ從事ス

第二十五條 典獄ハ奏任三等以下判任二等以上トス長官又ハ部長ノ命ヲ承ケ監獄ノ事務ヲ掌理シ書記看守長以下ヲ指揮監督ス

第二十六條 副典獄ハ判任一等以下四等以上トス典獄ノ事務ヲ佐シ典獄事故アルト

キハ其職務ヲ代理ス

第二十七條 書記ハ判任二等以下トス典獄ノ命ヲ承ケ各庶務ニ従事ス

第二十八條 看守長ハ判任二等以下トス典獄ノ命ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ看守ヲ指揮ス

第二十九條 監獄醫ハ判任トス典獄ノ命ヲ承ケ監獄ニ係ル醫務ニ従事ス

第三十條 北海道廳ノ事務ヲ分掌スル爲メ左ノ各部ヲ置キ理事官ヲ以テ部長ト爲ス

第一部

一 職員ノ進退文書ノ住復ニ關スル事項

二 官印應印ノ管守ニ關スル事項

三 記録編輯統計報告ニ關スル事項

四 學務衛生社寺ニ關スル事項

五 警察監獄ニ關スル事項

六 兵事戶籍褒賞賑恤及區町村費ニ關スル事項

七 外國人ニ關スル事項

八 他部ノ主掌ニ屬セサル事項

第二部

一 農工商務ニ關スル事項

二 地理山林ニ關スル事項

三 水陸運輸ニ關スル事項

四 漁獵ニ關スル事項

五 河港堤防道路鐵道橋梁排水溝渠ニ關スル事項

六 官衙ノ建築修繕ニ關スル事項

第三部

一 金錢物品ノ管理出納ニ關スル事項

二 豫算決算ニ關スル事項

三 國稅地方稅ノ賦課徵收ニ關スル事項

第三十一條 各部中便宜課ヲ設ケ各課ニ課長一人ヲ置キ部長ノ命ヲ承ケ課務ヲ掌理ス

課長ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ但技師ヲ以テ之ニ充ツルコトアルヘシ

第三十二條 地方官官制中警察官及郡區官ニ係ル條項本令ニ牴觸セサルモノハ北海道廳警察官及郡區官ニモ之ヲ適用ス

●札幌農學校官制改正

明治二十二年八月

勅令第百五號
朕札幌農學校官制
改正ノ件ヲ裁可シ
シ茲ニ之ヲ公布セ
ル
明治十九年(十二
月)勅令第百八十四
號札幌農學校官制
改正ノ件ヲ裁可シ
中左ノ條札幌農學校
ハ第一條札幌農學校
ハ北海道廳長官ノ
管理ニ屬シ農工ニ
關スル學術技術ヲ
教授スル
ハ校長ハ士官出身
トシテ
屯田ノ者ヲ指定シ
願ハル者ハ其職務
事ヲ兼テ
藝ヲ授ク
事ヲ兼テ
條ノ十人ヲ任
スル
生徒ノ教授ヲ掌
ト

●札幌農學校官制

明治十九年十二月
勅令第百八十四號

朕札幌農學校ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

札幌農學校官制

第一條 札幌農學校ハ北海道廳長官ノ管理ニ屬シ農工ニ關スル學術技術ヲ教授スル所トス

第二條 札幌農學校ノ各専門學科ヲ卒へ定規ノ試験ヲ經ル者ニ卒業證書ヲ授與ス

第三條

校長

幹事

教授

助教

訓導

舍監

書記

第四條 校長ハ一人奏任トシ北海道廳長官ノ命ヲ承ケ校務ヲ總轄シ幹事以下ノ職員

●札幌農學校官制改正

明治二十二年一月

勅令第百四號
朕札幌農學校官制
改正ノ件ヲ裁可シ
シ茲ニ之ヲ公布セ
ル
明治十九年(十二
月)勅令第百八十四
號札幌農學校官制
改正ノ件ヲ裁可シ
中左ノ條札幌農學校
ハ第一條札幌農學校
ハ北海道廳長官ノ
管理ニ屬シ農工ニ
關スル學術技術ヲ
教授スル
ハ校長ハ士官出身
トシテ
屯田ノ者ヲ指定シ
願ハル者ハ其職務
事ヲ兼テ
藝ヲ授ク
事ヲ兼テ
條ノ十人ヲ任
スル
生徒ノ教授ヲ掌
ト

ヲ指揮監督ス

第五條 幹事ハ一人奏任現任校長ノ次等以下トス校長ノ命ヲ受ケ庶務ヲ掌理シ校長

事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第六條 教授二人奏任トス生徒ノ教授ヲ掌ル

第七條 助教ハ判任トス教授ノ職掌ヲ佐ク

第八條 訓導ハ判任トス農工ノ實業ヲ授クルコトヲ掌ル

第九條 舍監ハ判任トス校長若クハ幹事ノ命ヲ承ケ生徒及校舍ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

○地方官

●地方官官制改正

明治二十三年十月
勅令第百二十五號

朕地方官官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地方官官制

第一條 各府縣ニ職員ヲ置ク左ノ如ク

知事

書記官

警部長

收稅長

參事官

技師

典獄

屬

技手

警部

收稅屬

監獄書記

看守長

第二條 知事一人勅任トス

第三條 書記官一人奏任トス

第四條 警部長收稅長各一人奏任二等以下トス

第五條 參事官二人奏任三等以下トス

第六條 典獄一人奏任四等以下トス

第七條 屬警部收稅屬監獄書記ハ判任トシ看守長ハ判任三等以下トス

判任官ハ各府縣ヲ通シテ左ノ人員ヲ以テ定員トス

屬警部監獄書記看守長 六千二百九十六人

收稅屬 五千六百六人

屬警部監獄書記看守長ノ每府縣ノ定員ハ內務大臣之ヲ定メ其各官ノ定員ハ府縣知事內務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

收稅屬ノ每府縣ノ定員ハ大藏大臣之ヲ定ム

第八條 技師技手ハ府縣ノ須要ニ依リ判任官俸給豫算定額内ニ於テ技術官官等俸給令ニ依リ之ヲ置クコトヲ得

第九條 知事ハ內務大臣ノ指揮監督ニ屬シ各省ノ主務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ總理ス

第十條 知事ハ部内ノ行政事務ニ付其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律命令ノ範圍内ニ於テ管内一般又ハ其一部ニ府縣令ヲ發スルコトヲ得

府縣令ハ特ニ施行ノ日ヲ掲グルモノヲ除ク外官報其他特ニ定ムル方法ニ依リ部内ニ公布シタル後七日ヲ以テ施行ノ期限トス但島地ハ其所轄島廳若クハ郡役所ニ到達シタル翌日ヨリ起算ス

第十一條 府縣令ハ內務大臣其他主務ノ大臣ニ於テ公益ヲ害シ成規ニ違ヒ又ハ權限

ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ中止セラレ、コトアルヘシ

第十二條 知事ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲メ兵備ヲ要スルトキハ師團長若クハ旅團長ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得

第十三條 知事ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ功過ハ内務大臣及主務大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ專行ス

第十四條 知事ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒ス其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣若クハ主務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十五條 知事ハ其應ノ豫算定額内ニ於テ奏任官以下特別ノ勤勞アル者ヲ賞與スルコトヲ得其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣若クハ主務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十六條 知事ハ須要ニ依リ判任官俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第十七條 知事ハ應中處務ノ細則ヲ設クルコトヲ得

第十八條 知事事故アルトキハ書記官其職務ヲ代理ス

第十九條 知事官房ヲ置ク

知事官房ニ書記若干名ヲ置ク屬ヲ以テ之ニ充ツ

第二十條 知事官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 官吏ノ進退身分ニ關スル事務

一 文書ノ受付

一 官印府縣印ノ管守

一 外國人ニ關スル事務

第二十一條 府縣ノ事務ヲ分掌セシムル爲メ左ノ二部三署ヲ置ク

内務部

警察部

直稅署

間稅署

監獄署

第二十二條 書記官ハ内務部長、警部長ハ警察部長、收稅長ハ直稅署長及間稅署長、典獄ハ監獄署長トナリ各知事ノ命ヲ承ケテ部下ノ官吏ヲ統督シ所部ノ事務ヲ掌理ス

第二十三條 内務部ニ左ノ四課ヲ置ク其分掌左ノ如シ

第一課

一 議員選舉及府縣會、郡會、市町村會、公共組合會等ノ會議ニ關スル事項

一 府縣稅、備荒儲蓄並郡市町村ノ經濟ニ關スル事項

- 一 右ノ外他課ノ主管ニ屬セサル事項
- 第二課
 - 一 農工商務及土木ニ關スル事項
 - 一 官有地及土地收用ニ關スル事項
- 第三課
 - 一 學務、衛生、兵事、社寺及戶籍ニ關スル事項
- 第四課
 - 一 府縣費、會計ニ關スル事項
 - 一 府縣稅及備荒儲蓄ノ收支出納ニ關スル事項
- 第二十六條 警察部ハ高等警察及行政警察ノ事務ヲ掌ル
- 第二十五條 直稅署ハ直稅ノ賦課租稅ノ徵收及徵稅費ニ關スル事務ヲ掌ル
- 間稅署ハ間稅ノ賦課及間稅犯則者處分ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第二十五條 監獄署ハ監獄ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第二十七條 參事官ハ知事ノ諮詢ニ應ジ意見ヲ具ヘ及審議立案ヲ掌ル
- 參事官ハ知事ノ命ヲ承ケテ內務部各課長トナリ又ハ臨時各部課ノ事務ヲ助クルコトアルヘシ

- 第二十八條 內務部各課長ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ但參事官兼掌スル場合ハ此限ニ在ラズ
- 第二十九條 警察部直稅署間稅署監獄署ノ事務ノ分課ハ知事之ヲ定メ主務大臣ニ報告ス可シ
- 第三十條 前諸條ニ定ムルノ外臨時ノ事件アルトキハ知事ニ於テ便宜其主掌ノ部課ヲ指定ス可シ
- 第三十一條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ內務部各課及知事官房ニ分屬シ庶務ニ從事ス
- 第三十二條 警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察事務ヲ分掌シ部下ノ巡查ヲ指揮監督ス
- 第三十三條 收稅屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ直稅署間稅署各課ニ分屬シ庶務ニ從事ス
- 第三十四條 監獄書記ハ典獄ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス
- 典獄事故アルトキハ上席書記知事ノ命ヲ承ケテ其職務ヲ代理ス
- 第三十五條 看守長ハ典獄ノ命ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ看守ヲ指揮監督ス
- 第三十六條 各郡市ニ警察署ヲ置キ警察署ノ下其部内ニ於テ警察分署ヲ配置ス
- 京都市大阪市ハ內務大臣ノ認可ヲ經テ二箇以上ノ警察署ヲ設クルコトヲ得
- 警察署長及警察分署長ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ
- 第三十七條 巡查及看守ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十八條 府縣内須要ノ地ニ直税分署及間税分署ヲ配置ス其配置及管轄區域ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三十九條 直税分署長及間税分署長ハ收税屬ヲ以テ之ニ充ツ

第四十條 府縣職員ノ外監獄醫及教誨師ヲ置キ判任ノ待遇トス其定員ハ知事之ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受ク可シ

第四十一條 東京府ノ警察及監獄ニ關スル事項ハ警視廳官制ニ依ル

第四十二條 各郡職員ヲ置ク左ノ如シ

郡長

郡書記

第四十三條 郡長一人奏任三等以下トス

第四十四條 郡書記ハ判任トス其定員ハ知事之ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受ク可シ

第四十五條 郡長ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理ス

第四十六條 郡長ハ法律命令ヲ以テ委任シ及知事ヨリ特ニ分任スル條件ハ便宜施行スルコトヲ得

第四十七條 郡長ハ行政事務ニ就テ其部内町村ノ町村長ヲ指揮シ其同公事務ニ就テ

ハ之ヲ監督ス

第四十八條 郡長ハ郡書記ノ任免ヲ知事ニ具申ス

第四十九條 郡長ハ法律命令若クハ知事ヨリ委任セラレタル事件ニ付警察規則ヲ發スルコトヲ得但特ニ施行ノ日ヲ掲クルモノヲ除クノ外地方ノ慣行若クハ特ニ定ムル方法ニ依リ部内ニ公布シタル後七日ヲ以テ施行ノ期限トス

第五十條 郡ノ警察規則ハ知事及内務大臣主務大臣ニ於テ公益ヲ害シ成規ニ違ヒ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ中止セララルコトアルヘシ

第五十一條 郡書記ハ郡長ノ命ヲ承ケテ庶務ヲ分掌ス

郡長事故アルトキハ上席郡書記知事ノ命ヲ承ケテ其職務ヲ代理ス

第五十二條 勅令ヲ以テ指定スル所ノ島地ニ特ニ島廳ヲ置ク

第五十三條 島廳職員左ノ如シ

島司

島廳書記

第五十四條 島司一人奏任二等以下トス

第五十五條 島廳書記ハ判任トス其定員ハ其府縣判任官ノ定員内ヲ以テ知事之ヲ定

第五十六條 島司ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ部内ノ行政事務ヲ掌理シ知事ヨリ委任スル事項ハ便宜施行スルコトヲ得

第五十七條 島司ハ第四十九條ニ依リ警察規則ヲ發スルコトヲ得

前項ノ警察規則ニ付テハ第五十條ヲ適用ス

第五十八條 島司ハ島廳書記ノ任免ヲ知事ニ具申ス

第五十九條 島司ハ行政事務ニ就テハ其部内町村ノ吏員ヲ指揮監督ス

第六十條 島廳書記ハ島司ノ命ヲ承ケテ庶務ヲ分掌ス

島司事故アルトキハ上席島廳書記知事ノ命ヲ承ケテ其職務ヲ代理ス

●東京府管下小笠原島ニ島司ヲ置ク 明治十九年十月 閣令第二十八號

勅令第五十四號地方官官制第四十六條ニ依リ東京府管下小笠原島ニ島司ヲ置ク

●島根縣下隱岐國ニ島司ヲ置ク 明治二十一年三月 閣令第三號

明治十九年七月 勅令第五十四號地方官官制第四十六條ニ依リ島根縣管下隱岐國ニ島司ヲ置ク

參照 明治十九年七月 勅令第五十四號地方官官制第四十六條ニ依リ島根縣管下隱岐國ニ島司ヲ置ク

●地方衛生會規則 明治二十年四月 勅令第十號

地方衛生會規則ヲ定ムルコト左ノ如シ但明治十二年十二月 太政官第五十五號達地方衛生會規則明治十三年四月 太政官達東京地方衛生會規則ヲ廢ス

地方衛生會規則

第一條 地方衛生會ハ府縣知事ノ監督ニ屬シ警視總監府縣知事ノ諮詢ニ應シテ其府縣内公衆衛生獸畜衛生ニ關スル事項ヲ審議ス

第二條 地方衛生會ハ府縣内公衆衛生獸畜衛生ニ關スル事項ニ就テハ警視總監府縣知事ニ建議スルコトヲ得

第三條 地方衛生會議事規則ハ該會ニ於テ之ヲ議定シ府縣知事ノ認可ヲ請フヘシ

第四條 地方衛生會ニ職員ヲ設クルコト左ノ如シ
會長 府縣知事ヲ以テ之ニ充ツ
委員

府縣第二部長

警部長東京ハ警視廳第一局長

府縣廳所在地ノ郡長又ハ區長

壹人

府縣會常置委員

三人

醫師

三人乃至五人

獸醫

壹人

化學家

壹人

臨時委員

書記 府縣屬ヲ以テ之ニ充ツ

第五條 會長ハ本會議事規則ニ依リ議事ヲ整頓シ其議定セシモノヲ警視總監府縣知事ニ具申ス

第六條 會長事故アルトキハ開會當日出席人ヲ以テ其事務ヲ代理セシム

第七條 委員中東京府京都府大阪府ノ區長及醫師獸醫化學家臨時委員ハ府縣知事之ヲ命ス但獸醫及化學家ハ其人ヲ得サルトキハ缺員ト爲スコトヲ得

常置委員ハ常置委員改選毎ニ該員中ニ於テ互選シ府縣知事之ヲ命ス

第八條 委員中官職ナキ者ニハ手當並ニ旅費ヲ給スルコトヲ得

第九條 書記ハ會長ノ指揮ヲ受ケ議事ヲ筆記シ及文書計算ニ從事ス

● 地方官ヲシテ御料地ヲ管理セシム

明治二十三年六月
勅令第八十八號

朕地方官ヲシテ御料地ヲ管理セシムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
地方長官ハ宮内大臣ノ委託ニ由リ御料地ヲ管理スヘシ其管理ニ係ル費用ハ皇室ノ支辨トス

第五類 官等俸給 旅費 給與

○官等俸給

●皇族職員官等改定及俸給賜與方

明治二十二年七月 宮内省達第十一號

皇族職員官等ヲ左ノ如ク改定シ其高等官俸給ハ宮内省官制第五十條ノ高等官俸給表ニ依リ別當ハ第四級俸第五級俸第六級俸第七級俸ノ内ヲ賜ヒ家令ハ其等位ニ依リ第一級俸第二級俸第三級俸第四級俸ノ内ヲ賜フ

- 親王家 有栖川宮 山階宮 小松宮 伏見宮 久邇宮 北白川宮 閑院宮 別當 各一人 勅任二等
- 家令 各一人 奏任二等以下
- 家扶 各一人 二親王アル家ハ二人 判任一等以下五等以上
- 家從 各三人以内 判任五等以下
- 諸王家 華頂宮 梨本宮 家令 各一人 奏任二等以下
- 家扶 各一人 判任一等以下五等以上

●皇族職員官等改正 明治二十二年七月 宮内省達第七號 明治二十二年七月 皇族職員官等中家扶(判任一等以下五等以上)ノ十字ヲ(判任一等以下四等以上)ノ十字ニ改メ家從(判任五等以下)ノ六字ヲ(判任四等以下)ノ八等五等六等)ノ八等ニ改メ

家從 各三人以内

判任五等以下

●皇族職員官等中删除

明治二十三年十二月
宮内省達第二十四號

明治二十二年七月宮内省達第十一號皇族職員官等中親王家及諸王家扶家以下ノ定員ヲ删除ス

●内大臣及同祕書官宮中顧問官俸給改定

明治二十二年七月
宮内省達十二號

内大臣以下ノ俸給ヲ改定シ内大臣ハ宮内省官制第五十條ノ高等官俸給第一級俸ヲ賜ヒ宮中顧問官ハ其等位ニ依リ同第三級俸第四級俸第五級俸第六級俸ノ内ヲ賜ヒ内大臣祕書官ハ其等位ニ依リ同第一級俸第二級俸第三級俸第四級俸ノ内ヲ賜フ

●侍從職幹事俸給

明治二十三年十月
宮内省達第十九號

侍從職幹事俸給ハ其等位ニ依リ宮内省官制第五十條高等官俸給第三級俸第四級俸第五級俸第六級俸ノ内ヲ賜フ

●宮内省判任官陞叙年限

明治二十三年六月
宮内省達第六號

宮内省判任官中風醫員藥劑師掌典補警部警部補判任中内舍人監守ノ陞叙年限ハ二等三等ハ每等在職四年四等五等六等ハ每等在職二年トス

●三博物館書記ノ官等俸給準據

明治二十三年六月
宮内省達第九號

帝國博物館帝國京都博物館帝國奈良博物館書記ノ官等俸給ハ自今宮内省官制第五十條屬官官等俸給ニ依ル

●三博物館技手ノ官等俸給準據方

明治二十三年七月
宮内省達第十四號

帝國博物館帝國京都博物館帝國奈良博物館技手ノ官等俸給ハ自今宮内省官制第五十條技手官等俸給ニ依ル

●樞密院議長及顧問官年俸

明治二十一年四月
勅令第二十三號

朕玆ニ樞密院議長及顧問官ノ年俸ヲ裁可ス

樞密院議長及顧問官年俸

樞密院議長 六千圓

樞密院副議長 五千圓

樞密院顧問官

四千五百圓

●內閣賞勳局職員及官等年俸

明治十九年三月 勅令第十號

朕內閣賞勳局職員及官等年俸ヲ裁可ス

內閣賞勳局職員及官等年俸

第一條 賞勳局ニ左ノ職員ヲ置ク

總裁 一人

勅任 一等

副總裁 一人

勅任 二等

書記官 二人

奏任自一等至四等

屬

判任

第二條 總裁副總裁及書記官ノ年俸ハ左ノ如ク定ム

總裁 四千圓

副總裁 三千圓

三千圓

書記官

奏任一等

上貳千四百圓

奏任二等

下貳千四百圓

奏任三等

上千八百圓

奏任四等

下千六百圓

●無任所外交官年給

明治十九年四月 勅令第三十三號

朕茲ニ無任所外交官ノ年俸ヲ裁可ス

一 無任所外交官ノ年俸ヲ定ムルコト左ノ如シ

特命全權公使 勅任一等 自貳千三百圓 至三千圓

辦理公使 勅任二等 自貳千七百圓 至三千圓

代理公使 奏任一等 自貳千三百圓 至二千七百圓

公使館參事官 奏任一等 自千七百圓 至二千四百圓

公使館書記官 奏任二等 自千四百圓 至一千七百圓

公使館書記官 奏任三等 自千二百圓 至一千四百圓

●無任所外交官年俸中追加
 明治二十年七月
 勅令第三十三號
 朕無任所外交官年俸中追加ノ件ヲ裁可ス
 明治十九年四月勅令第三十三號無任所外交官年俸中追加ノ件ニ依リテ
 館書記官俸任四等ノ次ハ左ノ通追加ス
 六百圓至八百圓

公使館書記官 奏任四等 自九百圓
 公使館書記官 奏任五等 自五百圓
 交際官試補 奏任五等 自五百圓
 交際官試補 奏任六等 自三百圓
 一無任所外交官外務省參事官ニ兼任セラレタルトキハ勅令第六號高等官官等俸給令ニ依リ其年俸ヲ支給ス

●外交官及領事官俸給旅費支給方

明治二十三年十二月 勅令第二百八十一號

朕外交官及領事官ノ俸給旅費等ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 明治二十三年勅令第二百五十七號外交官及領事官官制ニ依リ任セラレタル勅任二等特命全權公使、奏任一等辦理公使、奏任二等代理公使、奏任二等公使館參事官及奏任二等總領事ニ給スヘキ俸給及旅費等ハ交際官並領事費用條例中ニ規定シタル特命全權公使、辦理公使、代理公使、參事官及總領事ノ給額ニ依ル

●在外國公使館附陸軍武官俸給令

明治二十一年三月 勅令第十八號

朕茲ニ在外國公使館附陸軍武官俸給令ヲ裁可ス
 第一條 在外國公使館附陸軍武官ノ年俸ハ別表ニ依ル
 第二條 本令ニ關スル支給細則ハ陸軍大臣大藏大臣ト協議シ之ヲ定ムヘシ
 別表

在外國公使館附陸軍武官年俸表

國名	大	中	少	大	中	少
英國	銀貨三千七百五十圓	銀貨三千五百圓	銀貨三千二百五十圓	銀貨二千六百圓	銀貨二千三百五十圓	銀貨二千圓
露國	銀貨三千七百五十圓	銀貨三千五百圓	銀貨三千二百五十圓	銀貨二千六百圓	銀貨二千三百五十圓	銀貨二千圓
佛國	銀貨三千七百五十圓	銀貨三千五百圓	銀貨三千二百五十圓	銀貨二千六百圓	銀貨二千三百五十圓	銀貨二千圓
米國	銀貨三千七百五十圓	銀貨三千五百圓	銀貨三千二百五十圓	銀貨二千六百圓	銀貨二千三百五十圓	銀貨二千圓
獨國	銀貨三千七百五十圓	銀貨三千五百圓	銀貨三千二百五十圓	銀貨二千六百圓	銀貨二千三百五十圓	銀貨二千圓
伊國	銀貨三千六百五十圓	銀貨三千四百圓	銀貨三千二百五十圓	銀貨二千五百圓	銀貨二千二百五十圓	銀貨二千圓
澳國	銀貨三千六百五十圓	銀貨三千四百圓	銀貨三千二百五十圓	銀貨二千五百圓	銀貨二千二百五十圓	銀貨二千圓
和蘭國	銀貨三千六百五十圓	銀貨三千四百圓	銀貨三千二百五十圓	銀貨二千五百圓	銀貨二千二百五十圓	銀貨二千圓
清國	銀貨三千百圓	銀貨二千八百圓	銀貨二千五百圓	銀貨千九百圓	銀貨千六百圓	銀貨千三百圓
朝鮮國	銀貨三千百圓	銀貨二千八百圓	銀貨二千五百圓	銀貨千九百圓	銀貨千六百圓	銀貨千三百圓

●在外國公使館附陸軍武官俸給支給細則

明治二十一年四月
陸軍省令第六號

在外國公使館附陸軍武官俸給支給細則左ノ通定ム

在外國公使館附陸軍武官俸給支給細則

第一條 公使館附ヲ拜命スル武官ハ任所着翌日ヨリ起算シ歸朝スルキハ任所出發前日マテ公使館附武官ノ年俸日割ヲ以テ支給シ其任所到着前及出發後ハ各官ノ本俸ニ依リ支給ス

第二條 前條任所出發前日マテ公使館附武官ノ年俸ヲ支給スト雖モ歸朝ヲ命セラレ其請書ヲ差出シタル日ヨリ滞在三十日以上ニ及フキハ其三十一日ヨリ各官ノ本俸ニ依リ支給ス

但特ニ滞在ヲ命セラレタル者ハ此限ニアラス

第三條 在勤ノ者任所替ヲ命セラレタルキハ舊任所出發當日ヨリ新任所ニ着ノ日マテ各官ノ本俸ニ依リ支給ス

第四條 本則ニ掲クルモノ、外ハ總テ陸軍武官俸給支給法ニ據ル

●内務省所管歳出ニ係ル判任官俸給支給定日

明治二十三年八月
内務省訓令第三十二號

應府縣 集治監 假留監

當省所管歳出ニ係ル判任官俸給支給定日來ル九月ヨリ毎月二十二日 休日ニ當ルトキハ二十一日

●神宮職員官等俸給

明治十九年十一月
勅令第七十一號

朕茲ニ神宮職員官等改正ノ件ヲ裁可ス

神宮職員官等表

月俸	勅任	奏任			判任		
		二 等	三 等	五 等	六 等	五 等	八 等
八拾圓	祭主	宮司	權宮司	禰宜	權禰宜	主典	宮掌
三拾圓	宮司	權宮司	禰宜	權禰宜	主典	宮掌	
二拾五圓	禰宜	權禰宜	主典	宮掌			
拾五圓	權禰宜	主典	宮掌				
拾二圓	主典	宮掌					
八圓	主典	宮掌					
七圓	宮掌						

●大藏省所管歳出ニ係ル判任官俸給支給定日

明治二十三年八月
大藏省訓令第二百二十二號

●神宮職員官等表中追加明治二十三年一月
勅令第一號
朕茲ニ神宮職員官等表中追加ノ件ヲ裁可ス
●神宮職員官等表中改正明治二十三年十二月
勅令第二百八十五號
朕茲ニ神宮職員官等表中改正ノ件ヲ裁可ス
●神宮職員官等表中改正ノ件ヲ裁可ス
●神宮職員官等表中改正ノ件ヲ裁可ス
●神宮職員官等表中改正ノ件ヲ裁可ス

造幣局 印刷局 税關
北海道廳 府縣

當省所管歳出ニ係ル判任官俸給支給日自今毎月二十三日休日ニ當ルトキト相定ムハ繰上ケトス
但本月ハ期日切迫ニ付末日以前ニ於テ適宜支給方取計フヘシ

●税關鑑定官吏官等俸給 明治二十年十二月 勅令第七十號

朕茲ニ税關鑑定官鑑定吏官等俸給ノ件ヲ裁可ス

税關鑑定官鑑定吏ノ官等俸給ハ明治十九年勅令第三十八號技術官官等俸給令ニ依ル

●税關監吏補俸給 明治二十三年七月 勅令第四百四十三號

朕茲ニ税關監吏補俸給ノ件ヲ裁可ス

税關監吏補ノ俸給ハ月俸拾五圓以下五圓以上トス

●理事錄事官等俸給 明治二十年三月 勅令第二號

朕茲ニ理事錄事ノ官等俸給ヲ裁可ス

理事錄事官等俸給

理事ノ官等ハ勅任一等以下奏任六等以上トス其年俸ハ明治十九年勅令第四十一號ニ依ル
錄事ノ官等日給ハ明治十九年勅令第三十六號ニ依ル
参照
明治十九年勅令第四十一號
裁判官檢察官大審院控訴院書記官年俸
第一條 裁判官檢察官大審院控訴院書記官ノ年俸ハ別表定ムル所ニ依ラシム
第二條 現任裁判官及檢察官ノ年俸ハ舊ニ依リ支給ス新ニ裁判官檢察官大審院又ハ控訴院ノ書記官ニ任セラル、モノ又ハ現任ノ裁判官檢察官ノ今後官等ヲ陞叙セラ
ル、モノハ別表定ムル所ニ依リ其年俸ヲ支給ス

別表

官等	勅任						奏任					
	一	二	一	二	三	四	一	二	三	四	五	六
年俸	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
	五千圓	四千圓	三千圓	四千圓	三千圓	二千圓	四千圓	三千圓	二千圓	四千圓	三千圓	二千圓
年俸	五千五百圓	四千五百圓	三千五百圓	四千五百圓	三千五百圓	二千五百圓	四千五百圓	三千五百圓	二千五百圓	四千五百圓	三千五百圓	二千五百圓

●陸軍武官官等表改正

明治十九年三月
勅令第四號

朕陸軍武官官等表ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

●陸軍武官官等表中改正
明治二十一年六月 勅令第四十八號

朕陸軍武官官等表中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
陸軍武官官等表中軍醫部ヲ衛生部ニ改メ同部下士ノ區畫ニ陸軍一等調劑手陸軍二等調劑手陸軍三等調劑手ヲ加ヘ獸醫部下士ノ部ヲ删除ス

●陸軍武官官等表中追加
明治二十三年二月 勅令第十二號

朕陸軍武官官等表中追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
陸軍武官官等表中陸軍砲兵鑄工長ノ次ニ「陸軍砲兵蹄鐵工長」陸軍砲兵鑄工下長ノ次ニ「陸軍砲兵蹄鐵工下長」陸軍輜重兵一等軍曹ノ次ニ「陸軍輜重兵蹄鐵工長」陸軍輜重兵二等軍曹ノ次ニ「陸軍輜重兵蹄鐵工下長」ヲ加フ

●陸軍省所管歲出ニ係ル判任文官俸給支給定日

明治二十三年九月 陸軍省達第百八十三號
當省所管歲出ニ係ル判任文官俸給支給日自今毎月二十七日 休日ニ當ルトキハトキハトキニ相定ム
前日ニ繰上ケトスト

●主理錄事官等俸給
明治二十年十月 勅令第五十五號

第五類 官等俸給

朕茲ニ主理錄事ノ官等俸給ヲ裁可ス
 主理錄事官等俸給
 主理ノ官等ハ勅任一等以下奏任六等以上トス其年俸ハ明治十九年勅令第四十一號ニ依ル
 錄事ノ官等月俸ハ明治十九年勅令第三十六號ニ依ル
●海軍武官官等表改正 明治十九年七月 勅令第五十二號
 朕海軍武官官等表ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海軍武官官等表

大將中	將	勅任	一等	奏任	判任
			二等		
將少	官	奏任	一等	奏任	判任
			二等		
將大	官	奏任	三等	奏任	判任
			四等		
佐少	官	奏任	五等	奏任	判任
			六等		
佐大	官	奏任	七等	奏任	判任
			八等		
尉少	官	奏任	九等	奏任	判任
			十等		
尉大	官	奏任	十一等	奏任	判任
			十二等		
少尉	官	奏任	十三等	奏任	判任
			十四等		
中尉	官	奏任	十五等	奏任	判任
			十六等		
大尉	官	奏任	十七等	奏任	判任
			十八等		
少將	官	奏任	十九等	奏任	判任
			二十等		
中將	官	奏任	二十一等	奏任	判任
			二十二等		
大將	官	奏任	二十三等	奏任	判任
			二十四等		

機技總監		機技部上長官機		機技部士官機技部准士官		機技部下士		上等兵曹		一等兵曹		二等兵曹		三等兵曹	
機關大		監機關少監大		機關士少機關士		軍樂師		一等艦内教授		二等艦内教授		三等艦内教授		一等警吏	
大技		監少技監大		技士少技士		軍樂師		一等警吏		二等警吏		三等警吏		一等警吏	
機關師		一等機關手		二等機關手		三等機關手		一等船匠手		二等船匠手		三等船匠手		一等水雷工手	
二等水雷工手		三等水雷工手		一等水雷工手		二等水雷工手		三等水雷工手		一等水雷工手		二等水雷工手		三等水雷工手	

第五類 官等俸給

第五類 官等俸給

主計總監		主計部 上長官		主計部 士官		一等銀治手	二等銀治手	三等銀治手
主計部 大監		主計部 士官		主計部 下士				
軍醫總監		軍醫部 上長官		軍醫部 士官		軍醫部 下士		
軍醫部 大監		軍醫部 士官		軍醫部 下士				
藥劑監		藥劑官		少藥劑官				
軍醫少監		軍醫少監		軍醫少監				
藥劑官		少藥劑官		少藥劑官				
一等看護手		二等看護手		三等看護手				
主計部		主計部		主計部				
主計部 下士		主計部 下士		主計部 下士				
一等主厨		二等主厨		三等主厨				
二等主厨		三等主厨		四等主厨				

●海軍武官官等表中追加

明治二十三年九月
勅令第二百六號

朕海軍武官官等表中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
海軍武官官等表中中軍醫部下士ノ上欄ニ「軍醫部准士官」ノ六字ヲ加ヘ一等看護手ノ上欄ニ「上等看護手」ノ五字ヲ加フ

●陸軍及海軍教官官等俸給

明治十九年十月三十日
勅令第六十八號

朕茲ニ陸軍及海軍諸學校ニ教官ヲ置クコトヲ裁可ス
陸軍及海軍教官

第一條 陸軍及海軍諸學校ニ武官教官ノ外文官教官ヲ置ク左ノ如シ
教授 奏任
助教 判任

第二條 教授ノ官等俸給ハ勅令第六號高等官官等俸給令ニ依リ助教ノ官等俸給ハ勅令第三十六號判任官官等俸給令ニ依ル

武官ヲ以テ教官ニ充ツルトキハ本條ノ限ニアラス
第三條 教授助教ノ人員ハ其需要ニ從ヒ陸軍大臣若シハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依ル

●海軍下士卒ニシテ教員ノ職ヲ執ラシムル者ニ加俸

明治二十年八月
勅令第四十五號

第五類 官等俸給

朕茲ニ海軍下士卒教員加俸ノ件ヲ裁可ス
海軍下士卒ニシテ教員ノ職ヲ取ラシムルモノニハ一日金三錢加俸ヲ給ス
但艦内教授ハ加俸ヲ給スルノ限ニアラス

●海軍軍人俸給令

明治二十二年六月
勅令第八十五號

朕茲ニ海軍軍人俸給令ヲ裁可ス

海軍軍人俸給令

- 第一條 海軍高等武官ノ俸給ハ第一表ニ准士官ノ俸給ハ第二表ニ下士卒ノ俸給ハ第三表ニ依ル
- 第二條 在職俸ハ現ニ軍務ヲ奉スル者ニ給シ休職俸ハ休職者ニ給シ停職俸ハ停職者ニ給スルモノトス
- 第三條 特別俸ハ委任一等又ハ四等ニ叙スルノ後在職滿六箇年以上ニシテ勤勞アリ且成績顯著ナル者ニ之ヲ給ス
- 第四條 上等俸ハ現等ニ叙スルノ後在職滿一箇年以上ニシテ勤勉ナル者ニ之ヲ給ス但上等俸ヲ給スル人員ハ同官同等現役員ノ半數ニ超過スルヲ得ス
- 第五條 准士官以上ニシテ修學ヲ命セラレタル者ニハ在職俸十分ノ八ヲ給ス

●海軍軍人俸給令追加改正
明治二十三年七月
勅令第四百四十八號
朕海軍軍人俸給令中改正追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布ス
左ノ通改追加ス
第一條 其等級相當日給十分ノ五ヲ増給ス第五條中在職俸十分ノ八ニ在職俸十分ノ九ニ改ム第十七條ニ項艦船ノ乗員航海スルトキハ俸給半額ヲ其家族ニ下渡スコトヲ得

- 第六條 准士官以上ニシテ恩給令ニ依リ休暇ヲ命セラレタル者又ハ休職者ニシテ某地滞在ヲ命セラレタル者ニハ在職俸十分ノ八ヲ給ス
- 第七條 候補生ニハ日給八十錢ヲ給ス又修學ヲ命シタルトキハ同六十錢ヲ給ス
- 第八條 下士卒ノ定員俸ハ定員及定員ニ準スヘキ服役者ニ給シ員外俸ハ定員外ニ在ル者ニ給スルモノトス
- 第九條 一等下士ノ特別俸ハ一等給ヲ給シタルノ後滿三箇年以上ニシテ拔群ノ勤勞アル者ニ之ヲ給ス
- 第十條 善行章ヲ有スル者ニハ一線毎ニ一日一錢ノ加俸ヲ給ス
- 第十一條 一等掌砲證狀及一等掌水雷證狀ヲ有スル者ニハ一日三錢二等掌砲證狀及二等掌水雷證狀ヲ有スル者ニハ一日二錢ノ加俸ヲ給ス但同等ノ證狀ヲ併有スル者ニハ其一ノ證狀ニ就キ之ヲ給シ一等二等ノ證狀ヲ併有スル者ニハ其多額ニ就キ給スルモノトス
- 第十二條 准士官以上ニシテ左ニ掲クル事項ノ一ニ該ル者ニハ在職俸十分ノ二下士卒ニシテ左ニ掲クル事項ノ一ニ該ル者ニハ其受ル所俸給ノ十分ノ四ヲ給ス但公務ニ原因シ又ハ外國出張若クハ航海中第二項第三項第四項ニ該ル者ニハ其全額ヲ給ス

- 一 准士官以上ニシテ被告人トナリ遞傳護送留置收禁拘留懲罰中ノ者及輕禁錮ニ處セラレ其官ヲ失ハサル者
- 二 下士卒ニシテ傷痍疾病ニ依リ入院若クハ陸地療養ノ者
- 三 陸上勤務ノ下士卒コシテ外宿中傷痍疾病ニ依リ缺勤一週日以上ニ及フ者
- 四 下士卒ニシテ公務出張中傷痍疾病ニ依リ缺勤一週日以上ニ及フ者
- 第十三條 左ニ掲クル事項ノ一ニ該ル者ニハ其間俸給及加俸ヲ給セス
 - 一 下士卒ニシテ海軍部外ノ各廳へ貸與シタル者但奏樂ノ爲メ一時貸與スル軍樂員ハ此限ニアラス
 - 二 下士卒ニシテ願ニ依リ歸郷ノ者
 - 三 候補生及下士卒ニシテ被告人トナリ遞傳護送留置收禁拘留刑罰中ノ者
 - 四 擅ニ艦船團若クハ職役ヲ離レタル者
 - 五 休職者コシテ官民ヨリ給料若クハ報酬ヲ受クル者但校將機關官コシテ外國航船及内國航船ノ船長運轉手機關手ノ職ニ從事スル者ハ此限ニアラス
- 第十四條 豫備後備ノ准士官以上ヲ召集シタルトキハ現役者ニ準シ相當ノ俸給ヲ給ス
- 第十五條 豫備兵後備兵及歸休兵ヲ召集シタルトキハ現役者ニ準シ相當ノ俸給ヲ給ス

第十六條 豫備後備ノ准士官以上豫備兵後備兵及歸休兵ノ召集服役中給與ノ制ハ渾テ本令ニ依ルモノトス

第十七條 死亡者若クハ逃亡者コ給スヘキ金額アルトキハ其家族ノ請求ニ依リ之ヲ下付ス

第十八條 本令ニ關スル細則ハ海軍大臣大藏大臣ト商議シ之ヲ定ム

附則

第十九條 第十二條第一項及第十三條第三項第四項ハ海軍軍屬ニ適用ス

第二十條 大技士少技士ニシテ現今中俸ヲ給スル者ニハ第四條但書ノ例ニ依ラテ上等俸ヲ給スルコトヲ得

第二十一條 本令ハ明治二十二年七月一日ヨリ施行ス

第一表 海軍高等武官俸給表

在職	俸額		大	將中	將少	將同	官將	及一等	奏任大	二等奏任大	少佐	及四等	奏任大	五等奏任大	及少佐
	日額	年俸													
十六月六十額	六千五百九十九円	四万三千九百九十四円六	十額	三千五百九十八円七	二千四百九十六円六十額	千八百九十八円	千二百七十七円五十額	千九百九十五円	八百七十六円	六百二十円	四百一十五円	三百一十円	二百一十円	一百一十円	六十円
十二月四額	九千八十六額	六万八千四百額	五万二千額	三万五千額	二万四千額	一万五千額	九千五百額	七千五百額	五千五百額	三千五百額	二千五百額	一千五百額	一千二百五十額	八百五十額	六百五十額

第五類 官等俸給

俸職停	額日	俸年	俸職在	額日	俸年	俸職休	額日	俸年
一等給	四四十五錢	千五百十四圓	二等給	一四四十八錢	四百七十四圓五十錢	三等給	八四三十錢	千三百二十九圓
	三二二錢	千九十八圓六十五錢		一四三十三錢	四百七十四圓五十錢		六四三錢	千三百九十七圓
	二四四十六錢	九百九十七圓		一四十四錢	四百七十四圓五十錢		四四九十三錢	千七百九十九圓
	一四七十一錢	六百二十四圓十五錢		五十七錢	四百七十四圓五十錢		三四四十二錢	千七百九十九圓
	一四三十三錢	四百七十四圓		四十九錢	三百五十七圓七十錢		二四六十錢	千七百九十九圓
	八十八錢	三百二十一圓二十錢		五十六錢	二百九十九圓三十錢		一四七十五錢	千七百九十九圓
二等給	四十三錢	九百五十六圓	三等給	七十四錢	二百七十四圓十錢	四等給	三十三錢	四百三十八圓
	三十三錢	九百五十六圓		六十五錢	二百七十四圓十錢		三十三錢	四百三十八圓
	三十三錢	九百五十六圓		六十五錢	二百七十四圓十錢		三十三錢	四百三十八圓
	三十三錢	九百五十六圓		六十五錢	二百七十四圓十錢		三十三錢	四百三十八圓
	三十三錢	九百五十六圓		六十五錢	二百七十四圓十錢		三十三錢	四百三十八圓
	三十三錢	九百五十六圓		六十五錢	二百七十四圓十錢		三十三錢	四百三十八圓
三等給	三十三錢	九百五十六圓	四等給	七十四錢	二百七十四圓十錢	五等給	三十三錢	四百三十八圓
	三十三錢	九百五十六圓		六十五錢	二百七十四圓十錢		三十三錢	四百三十八圓
	三十三錢	九百五十六圓		六十五錢	二百七十四圓十錢		三十三錢	四百三十八圓
	三十三錢	九百五十六圓		六十五錢	二百七十四圓十錢		三十三錢	四百三十八圓
	三十三錢	九百五十六圓		六十五錢	二百七十四圓十錢		三十三錢	四百三十八圓
	三十三錢	九百五十六圓		六十五錢	二百七十四圓十錢		三十三錢	四百三十八圓
四等給	三十三錢	九百五十六圓	五等給	七十四錢	二百七十四圓十錢	六等給	三十三錢	四百三十八圓
	三十三錢	九百五十六圓		六十五錢	二百七十四圓十錢		三十三錢	四百三十八圓
	三十三錢	九百五十六圓		六十五錢	二百七十四圓十錢		三十三錢	四百三十八圓
	三十三錢	九百五十六圓		六十五錢	二百七十四圓十錢		三十三錢	四百三十八圓
	三十三錢	九百五十六圓		六十五錢	二百七十四圓十錢		三十三錢	四百三十八圓
	三十三錢	九百五十六圓		六十五錢	二百七十四圓十錢		三十三錢	四百三十八圓

第二表 海軍准士官俸給表

第三表 海軍下士卒俸給表

俸職停	額日	俸年	俸職在	額日	俸年	俸職休	額日	俸年
一等給	三十七錢	百三十五圓五錢	二等給	七十四錢	二百七十四圓十錢	三等給	三十三錢	四百三十八圓
	三十二錢	百十六圓八十錢		六十五錢	二百七十四圓十錢		三十三錢	四百三十八圓
	二十八錢	百二十四圓二十錢		五十七錢	二百七十四圓十錢		三十三錢	四百三十八圓
	二十四錢	八十七圓六十錢		四十九錢	二百七十四圓十錢		三十三錢	四百三十八圓
	二十錢	七十三圓		四十一錢	二百七十四圓十錢		三十三錢	四百三十八圓
	十六錢	五十八圓四十錢		三十三錢	二百七十四圓十錢		三十三錢	四百三十八圓

海軍軍人俸給及手當金支給細則

明治二十二年七月 海軍省達第二百六十三号

●海軍軍人俸給及手當金支給細則第三十二條改正 明治二十二年七月 海軍省達第二百六十三号

海軍軍人俸給及手當金支給細則左ノ通定ム

第一章 高等武官及准士官俸給

第一條 高等武官及准士官ノ俸給ハ毎月末日ハ順次繰上ク 其月ノ日數ニ應シ之ヲ支給ス但二月ハ閏月ト雖モ二十八日分ヲ支給ス

第二條 新任進級進等轉官及増俸者ニハ辭令書日附ノ當日ヨリ其俸ヲ支給ス

第三條 休職及停職者ニハ辭令書本人ニ到達ノ翌日ヨリ其俸ヲ支給ス

休職者又ハ停職者就職ノトキハ辭令書本人ニ到達ノ日ヨリ其俸ヲ支給ス

第五類 官等俸給

亡其免官、免役
死亡其他職務所
前項ノ支給定日ニ
拘ラス其際支給ス

第四條 修學ヲ命セラレタル者在職者ナルトキハ前廳艦船團隊校モ包チ退クノ翌日ヨ
リ其俸ヲ支給シ休職者或ハ停職者ナルトキハ辭令書本人ニ到達ノ日ヨリ其俸ヲ支
給ス

修學者就職ノトキハ辭令書本人ニ到達ノ日ヨリ其俸ヲ支給ス

第五條 免官ノトキハ辭令書本人ニ到達ノ日マテ從前ノ俸ヲ支給シ又死亡ノトキハ
其當日マテ從前ノ俸ヲ支給ス

第六條 恩給令ニ依リ休暇ヲ命セラレタル者ニハ其翌日ヨリ豫備後備或ハ退役ノ辭
令書本人ニ到達ノ日マテ本令第六條ニ依リ支給ス

受恩給令ニ依リ休暇ヲ命セラレタルトキハ其翌日ヨリ恩給始期ノ前日マテ本令第
六條ニ依リ支給ス

第七條 休職者某地滞在ヲ命セラレタルトキハ辭令書本人ニ到達ノ翌日ヨリ就職辭
令書本人ニ到達ノ前日マテ本令第六條ニ依リ支給シ又滞在ヲ免セラレタルトキハ
辭令書本人ニ到達ノ日マテ本令第六條ニ依リ支給ス

第八條 免官廢官トナリ又ハ休職ヲ命セラレタルトキ事務引繼又ハ殘務取扱ヲ命シタ
ルトキハ事務終了ノ日マテ從前ノ俸ヲ支給ス

他所在勳出張又ハ外國航海中休職或ハ豫備後備若クハ退役ヲ命セラレ又ハ免官ト

●海軍軍人俸
給及手當金支
給細則中追加
明治三十三年三月
海軍省達第八十
二號
海軍軍人俸給及手
當金支給細則中左
ノ通改正シ本年四
月一日ヨリ施行ス
第十條 乙種船員
航海中俸給ノ幾分
ヲ留守宅代理人ニ
交附スルコトヲ請
フトキハ艦船ヨリ
其金額ヲ本管領守
府ニ通知シ該領守
府ニ於テハ其通知
ニ依リ之ヲ支給シ
艦船ニ於テハ該金
額ノ殘額ヲ本人ニ
支給ス
細則中第十一條
上ノ第十一條ニ
加フ

●海軍軍人俸
給手當金支給
細則中刪除

二十三年四月
海軍省達第五百
十二號
海軍軍人俸給手當
金支給細則中第十
一條ヲ刪除シ第十
三條ヲ左ノ通改正
ス
一 第十三條所轄
ノ俸給ハ從前ノ
若クハ追徴スヘキ
モノアルトキハ本
人所在ノ廳ニ於テ
追給若クハ追徴ス

ナリタルトキ特ニ復命セシムルトキハ其復命終ルノ日マテ從前ノ俸ヲ支給ス
第九條 豫備後備ノ准士官以上ヲ召集シタルトキハ指定ノ地ニ到着ノ日ヨリ役務ヲ
終リタル日マテ本令第十四條ニ依リ支給ス

第十條 俸給ハ所轄廳ニ於テ之ヲ俸給シ兼務者ノ俸給ハ本務ノ廳ニ於テ之ヲ支給
ス

第十一條 進等或ハ増俸其他事故アリ追給スヘキモノアルトキハ翌月以降ニ於テ之
ヲ支給スルコトヲ得

減俸其他ノ事故ニ依リ追徴スヘキモノアルトキハ翌月以降ノ俸給ヨリ之ヲ控除ス
ルコトヲ得但翌月以降ノ俸給ヨリ控除スルコトヲ得サルトキハ直ニ返納セシムヘ
シ

第十二條 甲廳ヨリ乙廳ニ轉スルトキハ退廳ノ日マテ第一條ノ支給定日コ拘ラズ前
廳ニ於テ支給シ第三條乃至第九條ノ場合ニ於テハ各本條ニ照シ其當日マテ第一條
ノ支給定日ニ拘ラス所轄廳ニ於テ支給シ甲乙兩廳ニ涉ルトキハ前廳ニ於テ支給
ス

第十三條 前條ノ場合ニ於テ甲乙兩廳會計ヲ異ニシ第十一條ニ依リ追給スヘキモノ
アルトキハ前廳ヨリ支給シ追徴スヘキモノアルトキハ前廳ニ返納セシム但會計ヲ

海軍軍人俸給及手當金支給細則中改正
明治二十三年九月
海軍省達第
二百五十四
號

海軍軍人俸給及手當金支給細則中改正
明治二十三年九月
海軍省達第
二百五十四
號

異ニセサル應ニ在テハ後應ニ於テ退給或ハ控除シ若クハ返納セムヘシ
第十四條 會計ヲ異ニスル應ノ所屬員ヲ借用シタルトキノ俸給ハ本應發程ノ翌日ヨリ歸應ノ日マテ日數ニ應シ借用應ニ於テ之ヲ支給ス

第二章 候補生俸給

第十五條 候補生ノ俸給ハ毎月末日（休假ニ當ルトキハ順次繰上ク）其月ノ日數ニ應シ之ヲ支給ス

第十六條 練習トシテ乘艦ヲ命シタル者ニハ本令第七條中八拾錢ノ額ヲ支給ス

第十七條 前條ノ外支給ノ方法ハ第一章高等武官及准士官俸給支給ノ例ニ準ス

第三章 下士卒俸給加俸

第十八條 下士卒ノ俸給ハ毎月末日（休假ニ當ルトキハ順次繰上ク）其月ノ日數ニ應シ各所轄應ニ於テ之ヲ支給ス但技工工夫ノ俸給ハ翌月七日マテニ支給スルコトヲ得

第十九條 新兵ニハ入營當日ヨリ其俸ヲ支給シ新任進級轉官轉職等ノトキハ辭令書本人ニ到達ノ日ヨリ其俸ヲ支給ス

第二十條 豫備役ニ編入ノ者若クハ現役滿期ニ依リ免官免役等ノ者ニハ辭令書本人ニ到達ノ日マテ從前ノ俸ヲ支給シ又死亡ノ者ニハ其當日マテ從前ノ俸ヲ支給ス

第二十一條 本令第十二條第二項第三項第四項第十三條第一項第二項ニ該ル者及豫備兵後備兵歸休兵ヲ召集シタルトキノ支給區分ハ左ノ如シ

現役ヲ離レタル日マテ從前ノ俸給スルハ退給ノ前日マテ同條ニ依リ支給ス
退給ノ日ヨリ歸應ノ前日マテ同條ニ依リ支給ス
豫備兵後備兵歸休兵ヲ召集シタルトキノ俸給ハ入營ノ日ヨリ役務ヲ終リタル日マテ從前ノ俸給ス

一 本令第十二條第二項ニ該ル者ノ俸給ハ退應ノ翌日ヨリ歸應ノ前日マテ同條ニ依リ支給ス

二 本令第十二條第三項第四項ニ該ル者ノ俸給ハ缺勤八日目ヨリ出勤前日マテ同條ニ依リ支給ス

三 本令第十三條第一項第三項ニ該ル者ノ俸給及加俸ハ退應ノ翌日ヨリ歸應ノ日マテ支給セス

四 豫備兵後備兵歸休兵ヲ召集シタルトキノ俸給ハ入營ノ日ヨリ役務ヲ終リタル日マテ本令第十五條ニ依リ支給ス

第二十二條 上陸規則ニ依リ許可スル休暇日其他一般ノ公暇日ハ平常ノ通支給ス

第二十三條 善行章掌砲證狀及掌水雷證狀加俸ハ停止ノ正條アルモノヲ除クノ外該章又ハ證狀ヲ授與シタル日ヨリ之ヲ有スル間支給ス但該章又ハ證狀ヲ剝奪シタルトキハ其日ヨリ支給セス

第二十四條 練習ヲ命シタル者及海兵團屯在ノ補充員ニシテ艦船隊若クハ鎮府府各部ノ事業ニ從事スル者ハ其日數中定員ニ準シ支給ス

第二十五條 會計ヲ異ニスル應ノ所屬員ヲ借用シタルトキノ俸給及加俸ハ本應發程ノ翌日ヨリ歸應ノ日マテ日數ニ應シ借用應ニ於テ之ヲ支給ス

第二十六條 甲應ヨリ乙應ニ轉スルトキハ退廳ノ日マテ第十八條ノ支給定日ニ拘ハ
 ラス前廳ニ於テ支給シ第二十條第二十一條第三項第四項及第二十五條ノ場合ニ於
 テハ各本條ニ照ラシ其當日マテ第十八條ノ支給定日ニ拘ラス其所轉廳ニ於テ支給
 シ甲乙兩廳ニ涉ルトキハ前廳ニ於テ支給ス

第二十七條 第十一條及第十三條ハ下士卒ニ適用ス

第四章 被告人俸給

第二十八條 本令第十二條第一項第十三條第三項第四項ニ該ル者ノ支給區分ハ左ノ
 如シ

- 一、本令第十二條第一項ニ該ル者ノ俸給ハ其當日ヨリ刑罰期滿限ノ日マテ同條
 ニ依リ支給ス
 - 二、本令第十三條第三項ニ該ル者ノ俸給及加俸ハ其當日ヨリ刑罰期滿限ノ日マ
 テ支給セス
 - 三、本令第十三條第四項ニ該ル者ノ俸給及加俸ハ其當日ヨリ所轉廳ニ歸到若ク
 ハ遞傳護送留置收禁トナリタル前日マテ支給セス
- 第二十九條 遞傳護送留置收禁拘留中ノ者ニシテ無罪又ハ免訴若クハ無罰トナリタ
 ルトキハ其減俸ヲ追給ス

●海軍軍人俸
 給及手當金支
 給細則第三十
 六條中加除治
 二十三年十月
 海軍省達第三百
 五十二號
 海軍軍人俸給及手
 當金支給細則第三
 十六條第二項中一
 十條第二項中一
 陸ノ通改正追加
 左ノ三十四條ニ左
 第一項ニ依リ轉勤
 級ニ依リ轉勤スル
 場合ニ於テ事務引
 繼其他ノ事トキハ
 官相當ノ手當金ヲ
 支給スル第三十七
 條ニ依リ支給スル
 手當金額ニ制限ス
 水底若クハ重艦底

第三十條 軍人戴罪服務中ハ俸給加俸トモ平常ノ通支給ス

第三十一條 本令附則第十九條ニ該ル軍屬ニシテ判任官一等級以上ハ准士官以上ニ同
 二等以下ハ下士雇員以下ハ卒ニ準シ其支給方ハ本章前各條ニ依ル

第五章 手當金

- 第三十二條 手當金毎月末日、休暇ニ當ルトキハ、順次繰上ク之ヲ支給ス但免官、免役、死亡、其他服務場所
 ニ異動アルトキハ其際支給スルモノトス
- 第三十三條 進級轉官若クハ轉職等ニ依テ手當金ニ増減アルトキハ辭令書本人ニ到
 達ノ日ヨリ其額ヲ支給ス
- 第三十四條 航海手當金ノ支給區分ハ左ノ如シ
- 一、軍港拔錨出港日ヨリ軍港入港ノ日マテ支給ス
 - 二、外國航海ニ依テ給額ニ異動ヲ生スルトキハ初メテ内國港灣拔錨發航ノ日ヨ
 リ初メテ内國港灣ニ投錨ノ日マテ目的地ノ輕緯度ニ應シ相當ノ額ヲ支給ス
 但途中ニ於テ目的地ヲ變更シタルトキハ其命令到達ノ日ヨリ相當ノ額ヲ支
 給ス
 - 三、甲國ニ派遣中命ヲ受ケ乙國ニ出航シ給額ニ異動アルトキハ出航ノ日ヨリ甲
 國ニ歸港投錨ノ日マテ目的地ノ輕緯度ニ應シ相當ノ額ヲ支給ス但一國內ニ

及之ニ均シキ艦底
掃除ノ事業又ハ難
破船漂流人救援其
他非常ノ場合ニ於
テ労働セシムル者
ハ一日貳拾鐘以内
ニ支給スル手當金
トスニ、知港場臨
ニ於テ艦船ノ緊留
若クハ入渠セシメ
サルヲ得サル場合
ニ際シ夜中非常ニ
労働セシムル者ニ
支給スル手當金ハ
一夜四錢以内トス

- 於テ給額異動アルトキ亦同シ
- 四、軍港外ニアル艦船ニ乗組ヲ命シタル者ニハ乗組ノ日ヨリ支給シ退艦若クハ死亡ノ者ニハ其日マテ支給ス
- 五、手當金規則第二條第一項ニ該ル者ハ退艦ノ翌日ヨリ歸艦ノ前日マテ支給セ
- 六、官船若クハ官ニテ借入レ或ハ傭入レタル船舶ニ乗組ノ辭令書ヲ與ヘ出張セシムル者ニハ乗組タル日ヨリ退艦ノ日マテ支給ス但便乗ニ止ル者ハ此限コ
- アラズ
- 第三十五條 陸上勤務下士卒手當金ノ支給區分ハ左ノ如シ
 - 一、勤務ノ地ニ到着ノ翌日ヨリ退艦若クハ死亡ノ日マテ手當金規則第五條ニ依リ支給ス
 - 二、傷療疾病ニ依リ入院スルトキハ其翌日ヨリ退院ノ前日マテ支給セス其他公私旅行ノトキハ出發ノ翌日ヨリ歸著ノ前日マテ支給セス
- 第三十六條 手當金規則第四條ノ手當金ハ公務ニ依リ傷療ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ缺勤ノ日數ヲ服務日數ニ算入シ之ヲ支給ス
- 手當金規則第六條第七條ノ手當金ハ上陸規則ニ依リ許可シタル休暇日數ヲ服務日

數ニ算入シ之ヲ支給ス

- 第三十七條 水底若クハ重艦底及之ニ均シキ艦底掃除ノ事業又ハ難破船漂流人救援其他非常ノ場合ニ於テ労働セシムル者ニハ其日數ニ應シ手當金規則第八條ニ依リ手當金ヲ支給スルコトヲ得
- 第三十八條 手當金規則第九條ノ手當金ハ北緯ニ於テハ六月十五日ヨリ九月十二日マテ南緯ニ於テハ十二月十五日ヨリ三月十五日^{閏月ノアルトキ}マテ熱帶地方ニ於テハ瀛儲ニ點火スルトキ機關手火夫及瀛儲部ノ事業ニ従事スル下士卒ニ之ヲ支給ス
- 第三十九條 轉勤ニ際シ一日内手當金ノ支給甲乙兩應ニ跨ルトキハ其當日マテ甲應ニ於テ支給シ其翌日ヨリ乙應ニ於テ支給ス
- 第四十條 兼務ニ依リ手當金ヲ給スル場合ニ於テハ兼務ノ應ニ於テ支給ス
- 第四十一條 遞傳護送留置收禁拘留若クハ處刑中ノ者又ハ艦船團若クハ職役ヲ離レタル者ハ其日ヨリ所轄應ニ歸到ノ日マテ手當金ヲ支給セス
- 艦船團隊及各應ニ於テ刑罰ニ處セラレタル者ニハ其日ヨリ刑罰期限ノ日マテ手當金ヲ支給セス
- 第四十二條 戴罪服務中ハ總テ平常ノ通手當金ヲ支給ス

●海軍軍人俸給及手當金支給細則中改正加除

海軍軍人俸給及手當金支給細則中第十條乙ヲ刪除シ左ノ通改正ス

第十條ニ左ノ一項ヲ加フ

家族ニ下渡ス俸給 東京ニ於テハ第三局、横須賀吳佐世保ニ於テハ各其海兵團ニ於テ之ヲ支給ス

第十一條 艦船ノ乗員出航ニ際シ俸給ノ前金渡ヲ爲ストキハ保證人士官以上ハ保證人ヲ要セス名ヲ立テシメ之ヲ支給ス

艦船ノ乗員出航中俸給ノ半額ヲ家族ニ交付スルコトヲ望ムトキハ保證人士官以上ハ保證人ヲ要セス一名連書シタル請求書ヲ出サシメ之ヲ俸給下渡ノ應ニ送付シ該廳ニ於テハ其通知ニ依リ之ヲ支給シ艦船ニ於テハ其殘額ヲ支給ス但事故アリ俸給ニ増減アルトキハ艦船ニ於テ支給スル俸給ニ於テ増減シ尙不足スルトキハ其金額及事由ヲ俸給下渡ノ應ニ通知スヘシ

俸給ノ前金渡ヲ爲シ若シハ家族ニ支給シタル後事故アリ過渡トナルモ之ヲ返納シ能ハサルトキハ保證人ヲシテ辨償セシムヘシ

第二十七條中「第十條乙及」ヲ「第十條第二項及第十一條」ト改ム

第三十四條中左ノ通改正追加シ第二項中「給額ニ異動ヲ生スルトキハ」ノ下「初メテ」ヲ削ル

- 一、軍港拔錨出航ノトキハ其日ヨリ之ヲ支給シ艦船軍港入港ノトキハ其日ヨリ起算シ七日目マテ之ヲ支給シ水雷船入港ノトキハ其日マテ之ヲ支給ス
- 七、艦船ノ乗員水雷船ニ乗組軍港外ニ於テ十二時間以上航行スルトキハ其日ヨリ本艦船ニ歸到ノ日マテ相當ノ額ヲ支給ス
- 八、上級者ノ補缺トシテ乗組ヲ命シタル者ニハ手當金規則第一條第二項ニ準シ其官相當ノ額ヲ支給ス

●艦船ノ乗員俸給及糧食料前渡方

明治二十三年七月 勅令第五百十號

朕艦船ノ乗員俸給前渡及糧食料前渡ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
艦船ノ乗員三箇月以上ノ航海ヲ爲ストキハ出航ノ際翌月マテノ俸給ヲ前金渡スルコトヲ得

海軍糧食條例第七條ニ依リ糧食ニ代ヘ給スル現金ハ航海ニ際シテハ其見積リ日數以內其他ノ場合ニ於テハ一箇月以內ニ於テ前金渡スルコトヲ得

●海軍省所管歳出ニ係ル判任文官俸給支給定日

ヲ本官ニ任用ノトキ俸給支給方

明治二十年六月
司法省訓令第十九號

裁判所

一外國ニ於テ任用官シ又ハ轉任増俸シ減俸等ノ節ハ總シテ本人辭令拜受ノ翌日ヨリ新官ノ俸給支給候事
一雇員ヲ本官ニ任用スルニ方リ俸給支給方自今高等官ニ任用ノトキハ高等官俸給支給細則第二條ニ判任官ニ任用ノトキハ同應ナレハ判任官俸給支給細則別第二條ニ他應ナレハ同第四條ニ準シ支給候事

●判事檢事官等俸給令

明治二十三年八月
勅令第五百十八號

朕茲ニ判事檢事官等俸給令ヲ裁可ス

判事檢事官等俸給令

第一條 判事檢事ノ官等年俸ハ別表定ムル所ニ依ル
第二條 判事檢事ノ各職ニ付其人員官等年俸ヲ限定スルコト左ノ如シ
大審院
長 一人

勅任一等

年俸五千圓

但特ニ年俸五千五百圓ヲ給スルコトアルヘシ

部長

三人

勅任一等二等

年俸四千五百圓四千圓

判事

二十七人

勅任二等乃至奏任二等

年俸三千五百圓乃至千八百圓

大審院檢事局

檢事總長

一人

勅任一等

年俸五千圓又ハ四千五百圓

檢事

五人

勅任二等乃至奏任二等

年俸三千五百圓乃至千八百圓

控訴院

長

七人

東京勅任一等

年俸四千五百圓

其他勅任二等

年俸四千圓三千五百圓

部長

十五人

奏任一等二等 年俸二千六百圓乃至千八百圓
 判事 八十五人
 奏任三等四等 年俸千六百圓乃至千圓
 控訴院檢事局
 檢事長 七人
 勅任二等 年俸東京四千圓
 檢事 其他三千五百圓三千圓
 二十人
 奏任一等乃至四等 年俸二千四百圓乃至千圓
 地方裁判所
 長 四十八人
 東京 奏任一等 年俸二千六百圓
 大阪 奏任一等 年俸二千四百圓乃至千六百圓
 其他 奏任一等乃至三等 九十人
 部長 奏任三等四等 年俸千四百圓乃至千圓
 四百十五人
 判事 奏任四等乃至六等 年俸九百圓乃至五百圓

地方裁判所檢事局
 檢事正 四十八人
 東京 奏任一等 年俸二千四百圓
 大阪 奏任一等 年俸二千二百圓乃至千圓
 其他 奏任二等乃至四等 百二十五人
 檢事 奏任四等乃至六等 年俸千圓乃至五百圓
 區裁判所
 判事 八百四十人
 奏任四等乃至六等 年俸九百圓乃至五百圓
 區裁判所檢事局
 檢事 二百七十五人
 奏任四等乃至六等 年俸九百圓乃至五百圓
 第三條 豫備判事ハ其人員ヲ三十五人トシ豫備檢事ハ其人員ヲ十五人トス
 豫備判事豫備檢事ハ奏任六等ニ敍シ年俸四百圓ヲ給ス
 司法官試補ハ其人員ヲ百十人トス
 司法官試補ハ其待遇ヲ奏任トシ年俸三百圓以下ヲ給ス

第四條 第二條ノ各職中年俸ニ等差アルモノハ俸平等ニ其人員ヲ定ム但端數ノ人員ヲ生スルトキハ最下級ヨリ漸次上級ノ人員ニ併合ス

第五條 裁判所構成法第六十二條ニ依リ新任スル判事又ハ檢事ニシテ直チニ補職スル者ハ奏任六等ニ敍シ年俸五百圓ヲ給ス豫備判事又ハ豫備檢事ニシテ補職スル者モ亦同シ

裁判所構成法第六十五條第一項ニ依リ新任スル判事又ハ檢事ハ其補スヘキ職ノ最下ノ官等ニ敍シ最下ノ年俸ヲ給ス

判事又ハ檢事ニシテ他ニ轉官シ若クハ退官シタル者ヲ更ニ判事又ハ檢事ニ任スルトキハ前官ト同等若クハ其以下ノ官等ニ敍シ前官ト同年俸若ハ其以下ノ年俸ヲ給ス第六條 判事又ハ檢事ノ進級ハ闕員アルトキニ限り之ヲ行フ

進級トハ陞等又ハ増俸ヲ謂フ

第七條 判事又ハ檢事ノ進級ハ第二條ニ掲ケタル各職毎ニ先任ノ順序ニ依リ之ヲ行フ但區裁判所判事ハ地方裁判所判事ト併合シ區裁判所檢事局檢事ハ地方裁判所檢事局檢事ト併合シテ先任順序ヲ定メ進級セシム

大審院ノ部長判事大審院檢事局ノ檢事總長檢事控訴院ノ部長判事控訴院檢事局ノ檢事長檢事地方裁判所ノ部長長及地方裁判所檢事局ノ檢事正ノ補職ハ拔擢ヲ以

テ之ヲ行フコトヲ得但官等ヲ超越セシムルコトヲ得ス又其補スヘキ職ノ最下ノ年俸ニ非サレハ給スルコトヲ得ス

東京大阪ノ控訴院ノ長同院檢事局ノ檢事長及東京大阪ノ地方裁判所ノ長同地方裁判所檢事局ノ檢事正ノ補職モ亦拔擢ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得但官等ヲ超越セシムルコトヲ得ス

第八條 判事檢事ノ各職ニ於ケル先任順序ハ年俸ノ多寡ニ依リ之ヲ定ム年俸相同シキモノハ年俸下賜辭令ノ日付ノ前後ニ依リ其日付相同シキモノハ前年俸下賜辭令ノ日付ノ前後ニ依リ其日付相同シキモノハ年齢ニ依リ之ヲ定ム

判事檢事ノ裁判所内ニ於ケル席次ハ前項ノ規程ニ從フ

第九條 判事又ハ檢事轉職スルトキハ前職ト同年俸若ハ其以下ノ年俸ニ非サレハ給スルコトヲ得ス此場合ニ於テハ前職ノ年俸下賜辭令ノ日付ノ前後ニ依リ後職ノ先任順序ヲ定ム

待命ノ判事又ハ檢事補職セラレトキ及司法行政官吏ニシテ判事檢事タルノ資格ヲ有スル者判事又ハ檢事ニ轉任シ補職セラレトキモ亦同シ

順序ヲ定ム

第十條 高等官官等俸給令第二條第三條第四條第六條第二十一條乃至第二十四條第二十六條及第二十七條ハ判事檢事ニモ亦之ヲ準用ス

附則

第十一條 裁判所構成法實施ノ際敍任スル者ハ第七條第一項ノ規程ニ依ラズ進級セシムルコトヲ得

第十二條 裁判所構成法實施ノ際在職ノ裁判官檢察官ハ其官等年俸第二條ニ定メタル官等年俸ヨリ高等多額ナルモ其官等年俸ノ儘其職ニ補スルコトヲ得

第十三條 本令ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行ス

官等	勅		任					任												
	一	二	一	二	三	四	五		六											
年俸	上 五千元	下 四千五百元	上 四千元	中 三千五百元	下 三千元	上 二千八百元	中 二千六百元	下 二千四百元	上 二千二百元	中 二千元	下 千八百元	上 千四百元	中 千二百元	下 九百元	上 八百元	中 七百元	下 六百元	上 五百元	中 四百元	下 三百元

●裁判所書記長書記官等俸給

明治二十三年八月 勅令第百五十九號

朕茲ニ裁判所書記長書記官ノ官等俸給ヲ裁可ス

裁判所書記長書記官等俸給

第一條 書記長ノ官等ハ奏任三等又ハ四等トス

裁判所書記ハ判任官一等以下六等以上トス但判任官六等ニハ八圓九圓拾圓ノ月俸ヲ給スルコトヲ得

裁判所書記見習ハ其待遇ヲ判任トシ月俸七圓以下ヲ給ス但特ニ拾圓マテヲ給スルコトアルヘシ

第二條 裁判所書記ノ各職ニ付其人員ヲ限定スルコト左ノ如シ

大審院

書記長

一人

裁判所書記

二十人

大審院檢事局

裁判所書記

五人

控訴院

書記長

七人

裁判所書記

百四十五人

控訴院檢事局	二十五人
裁判所書記	七百七十五人
地方裁判所	百五十人
地方裁判所檢事局	四千六百人
裁判所書記	四百八十五人
區裁判所	
區裁判所書記	
區裁判所檢事局	
裁判所書記	
第三條 本令ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行ス	
●帝國大學職員官等改正及定員	明治二十三年十一月 勅令第二百七十號
朕茲ニ帝國大學職員官等改正及定員ノ件ヲ裁可ス	
帝國大學職員官等定員	一人 勅任
總長	

分科大學長	六人
教頭	六人
分科大學長及教頭ハ奏任二等以上ノ教授ヨリ兼任ス其官等ハ本官ニ同シ	
教授	百十八人 奏任四等以上
特ニ勅任トナスモノハ勅任二等トス但人員十二人以内トス	
書記官	三人 奏任
助教授	六十七人 奏任四等以下
舍監	六人 奏任四等以下
書記	七十六人 判任
技手	百十二人 判任
●帝國大學文部省其他諸學校支給方	明治十九年七月 閣令第二十六號
帝國大學其他文部省所轄諸校ノ教官ハ其授業ノ時官及學科ノ輕重難易等ニ依リ勅令	
第六號高等官官等俸給令官等相當俸給令以下ノ額ヲ支給スルコトアルヘシ	
●尋常師範學校職員俸額表	明治十九年十月 文部省訓令第八號

北海道廳 府縣

尋常師範學校職員ノ俸額ハ左表ニ據ルヘシ

尋常師範學校職員俸額表

學校長年俸	千貳百圓以下六百圓以上
學校長補月俸	五拾圓以下四拾圓以上
教頭年俸	千圓以下五百圓以上
教諭月俸	七拾五圓以下三拾圓以上
助教諭月俸	三拾圓以下拾五圓以上
幹事月俸	五拾圓以下三拾圓以上
舍監月俸	三拾圓以下拾五圓以上
訓導月俸	三拾圓以下拾圓以上
書記月俸	貳拾圓以下拾圓以上

●集治監假留監看守人員及俸給

明治二十三年十月 勅令第二百二十八號

朕集治監假留監看守人員及俸給ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
集治監假留監看守ノ人員及俸給ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 看守ノ人員ハ在監人五百名ニ付七十五名トス
但三池集治監及北海道ニアル各集治監ニハ此定員ノ外五十名以下ノ看守ヲ
増置スルコトヲ得
- 二 在監人五百名ヲ超ユルトキハ百名ヲ増ス毎ニ看守十名ヲ加ヘ五百名ニ滿タサ
ルトキハ百名ヲ減スル毎ニ看守十名ヲ減ス
- 三 看守人員ノ増減ヲ行フハ在監人ノ員數ニ百名ノ差ヲ生シタルトキニ於テスヘ
シ
- 四 看守俸給ハ月俸拾圓以下六圓以上トス但勤績滿九年以上ノ者ハ拾貳圓滿十二
年以上ノ者ハ拾五圓ヲ給スルコトヲ得
- 五 在監人ノ減少ニ由リ過員トナリタル看守ハ休職ヲ命シ現俸ノ三分之一ヲ給スル
コトヲ得但休職ハ一年ヲ期トス期滿ツレハ其職ヲ免ス

●大小林区署判任官官等及進級年限準據方

明治二十三年七月 內閣訓令第七號

各官廳

大小林区署官俸給ノ件改正ニ付テハ其官等及進級年限ハ本年內閣訓令第一號及第五

號ノ例ニ準據ス

●大小林區署判任官俸給

明治二十三年七月 勅令第百二十八號

朕茲ニ大小林區署判任官俸給ノ件ヲ裁可ス

林務官補書記營林主事ノ俸給ハ判任官官等俸給令ニ依ル

營林主事補判任五等ノ俸給ハ月俸二十五圓以下十八圓以上判任六等ノ俸給ハ月俸十五圓以下八圓以上トシ森林監守ノ俸給ハ月俸十二圓以下五圓以上トス

●大林區署判任官俸給支給定日

明治二十三年九月 農商務省訓令第四十六號

判任官俸給ハ毎月二十二日ニ(休日ニ當ルトキハ繰下ケ)之ヲ支給スヘシ

大林區署

●官林巡邏給料支給規則改定

明治二十三年九月 農商務省訓令第四十九號

官林巡邏給料支給規則左ノ通り改定ス

官林巡邏給料支給規則

●官林巡邏給料支給規則中
追加 明治二十三年九月
農商務省訓令第六十六號

明治二十三年九月 農商務省訓令第六十六號
大林區署
官林巡邏給料支給規則中
第十九條 官林巡邏給料支給規則中左ノ
二條ニハ發令ノ翌
日ヨリ其月分ヲ日
計算シテ支給ス
ハシ、第五條日割
ノ法ハ其月ノ
現日數ニ依ル

第一條 官林巡邏ノ給料ハ年給トシ左表定ムル所ニ依ル

第二條 年給ハ毎年二月末日ニ十二箇月分ヲ取纏メ之ヲ支給スヘシ

第三條 新ニ採用シタルトキ當月分ノ給料ハ發令ノ翌日ヨリ解免シタルトキ當月分ノ給料ハ發令ノ日マテ日割ヲ以テ計算シ死亡ノトキハ月割ヲ以テ計算スヘシ

年給	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七
給	十五圓	十四圓	十三圓	十二圓	十一圓	十圓	九圓	八圓	七圓	六圓	五圓	四圓	三圓	二圓	一圓	一圓	一圓

●郵便及電信局並郵便爲替貯金局書記補俸給

明治二十三年七月 勅令第百三十一號

朕茲ニ郵便及電信局並郵便爲替貯金局書記補俸給ノ件ヲ裁可ス

郵便電信書記補郵便書記補電信書記補並郵便爲替貯金局書記補ノ俸給ハ月俸拾五圓以下五圓以上トス

●警部消防司令看守長消防機關士警部補消防司令補

明治二十三年五月 勅令第七十四號

看守副長官等俸給改正

朕茲ニ警部消防司令看守長消防機關士警部補消防司令補看守副長官等俸給改正ノ件ヲ裁可ス

警部消防司令ハ判任官一等以下五等以上トシ看守長ハ判任官四等又ハ五等消防機關士ハ判任官五等又ハ六等警部補消防司令補看守副長ハ判任官六等トシ其官等俸給ハ本年勅令第三十七號判任官官等俸給令ニ依ラシム但シ判任官七等八等ノ警部消防司令看守長消防機關士ニシテ現ニ拾八圓拾五圓ノ俸給ヲ受クル者ハ判任官五等トスルモ俸給定額ノ都合ニ依リ仍從前ノ俸給ヲ支給スルコトヲ得

●警部消防司令看守長消防機關士警部補消防司令補看

守副長及收稅屬官等及進級年限規程

明治二十三年五月
內閣訓令第五號

各官廳

警部消防司令看守長消防機關士警部補消防司令補看守副長及收稅屬官等俸給改正ニ付テハ其官等及進級年限ハ左ノ規程ニ依ルヘシ

- 一 敘任及進給起算ハ總テ本年內閣訓令第一號ニ依ルヘシ
- 二 舊官等一等ニシテ俸給五拾圓ヲ受クル者其俸給額ニ差ヲ生スル爲ニ新官等ノ二等ニ敘スルトキハ判任官官等俸給令第四條ノ年限ニ拘ハラヌ前官等ニ復敘

警部補ノ官等俸給ハ二十三年五月勅令第七十四號ヲ以テ規定セラレタルニ依リ巡査ノ官等俸給ノミヲ載ス

スルコトヲ得二等以下皆此例ニ依ル

●巡査官等俸給

明治十四年十二月
第百一十一號達

警部巡査ノ等級ヲ廢シ俸給左ノ通相定候條此旨相達候事

等	外	巡	月	給
				拾圓九圓八圓七圓六圓

巡査奉職滿九年以上十二年以下ハ月給拾貳圓滿十二年以上ハ月給拾五圓ヲ給スルコトヲ得

●巡査官等俸給但書追加

明治十九年二月
內閣達第十三號

北海道廳

府縣
東京府
ヲ除ク

明治十四年十二月十二日太政官第百一十一號達ヘ左ノ但書ヲ追加ス

條ノ在職年數ヲ
 アラサレハ、
 八條ノ十六條第
 七條ノ二十條第
 四條ノ二年俸ハ
 文官ノ二年俸ハ
 於テ一月ノ四期
 二増減俸給ハ
 任令ノ翌日ヨリ
 計算ス、
 條ノ官退官及死
 分ノ全額ヲ給ス
 二十五條ノ非職
 退官者ノ事務引
 務承ケ公務ニ從
 スルトキハ其間
 從前ノ俸給ス
 第二十六條病氣
 ノ爲兼務ヲ給ス
 ト九十日ヲ踰ル
 モハ俸給ノ半額
 爲減ス但シ公務
 爲病ニ罹リ又ハ
 疾病ニ由リ賜假
 休及

- 第四條 奏任官ヲ分テ六等トス其任官ハ内閣總理大臣之ヲ奏薦シ其各省ニ屬スルモノハ内閣總理大臣ヲ經由シテ主任大臣之ヲ奏薦ス
- 第五條 奏任官ノ辭令書ハ内閣ノ印ヲ鈐シ内閣總理大臣之ヲ宣行ス
- 第六條 各官同等内ノ順序ハ任官ノ前後ニ依ル
- 第七條 勅任官又ハ奏任官ノ官等内ニ於テ特ニ官等ヲ限ルコトヲ要スルモノハ各別ニ之ヲ定ム
- 第八條 内閣及各省中ノ局長ハ奏任官一等又ハ二等トシ局長ハ現任局長ノ次等以下トス
- 第九條 同一ノ官名ニシテ等差アルモノハ每等人員ヲ定メ内閣總理大臣ノ認可ヲ受クヘシ其每等ノ定員變更ヲ要スルトキモ亦同シ
- 第十條 勅任奏任文官ノ年俸ハ別表ニ依ル
- 第十一條 陸海軍武官ノ年俸ハ從前定ムル所ニ依ル
- 第十二條 議官交際官領事貿易事務官判事檢事理事地方官教官技術官ノ類其特ニ定ムル俸給ハ前條ノ外トス
- 第十三條 奏任官ノ年俸ハ各廳俸給定額内及其官等年俸ノ等級ニ依リ事務ノ繁簡ニ

休養スルモノハ
 十七條ノ由リ執
 事ノ故障ニ由リ
 日給ハ半額ヲ減
 俸給ス、
 臣ノ秘書官ニハ
 手當ヲ給ス、
 細則ハ大藏大臣
 令ヲ以テ之ヲ定

- 從ヒ各大臣便宜之ヲ増減スルコトヲ得
- 陸叙及特例
- 第十四條 官等ハ五年ヲ踰ユルニアラサレハ陸叙スルコトヲ得ス
- 第十五條 每等人員ヲ定ムルノ官ハ五年ヲ踰ユルモ闕員アルニアラサレハ陸叙スルコトヲ得ス
- 第十六條 局長ノ闕員ニ依リ局長次長ヲ以テ其闕ヲ補フコトヲ要スルトキハ第十四條ノ例ニ依ラズ
- 第十七條 各大臣秘書官ノ進退ハ第十四條第十五條ノ例外トス
- 第十八條 勅任官ハ本令ノ外勅旨ヲ以テ特ニ其年俸ヲ増給スルコトアルヘシ
- 第十九條 奏任官一等ニシテ上級俸ヲ受ケタル者勞績拔群顯著ナルハ内閣ノ上奏ニ依リ特旨ヲ以テ勅任官二等ノ下級俸ヲ給スルコトアルヘシ
- 第二十條 奏任官他ノ官廳ニ涉ルノ兼官ハ兼ヌル所ノ俸給三分ノ一以内ヲ増給スルコトヲ得
- 同官廳ニ於ケル兼官ハ俸給ノ多額ニ就キ之ヲ給ス
- 第二十一條 官ニ在リテ死亡シタル者ハ年俸三分ノ一ヲ其遺族ニ給ス其非職者ニ於テモ亦同シ

第二十二條 本令中俸給ニ關スル細則ハ大藏大臣其省令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
(別表)

勅任官		奏任官	
内閣總理大臣	官 等	一 等	二 等
九千六百圓	上 五千圓 四 千圓	上 三千圓	貳千四百圓
各省大臣	下 四千五百圓 三千五百圓	中 貳千八百圓 貳千貳百圓	千八百圓 千貳百圓 九百圓 六百圓
六千圓		下 貳千六百圓	貳千圓 千四百圓 千 圓 七百圓 四百圓

●判任官官等俸給令第二條 改正 明治二十三年八月 勅令第百六十五號

●判任官官等俸給令

明治十九年四月 勅令第三十六號

朕茲ニ判任官官等俸給令ヲ裁可ス

判任官官等俸給令

第一條 判任官ヲ分テ十等トシ一等ヨリ十等ニ至ル
第二條 判任文官ノ月俸ハ別表ニ依ル

朕茲ニ判任官官等俸給令ヲ裁可ス
判任官官等俸給令
中左ノ通改正ス第
二條判任文官ノ月
俸ハ別表ニ依リ毎

月下句ニ於テ之ヲ
支給ス

第三條 陸海軍准士官下士ノ月俸ハ從前定ムル所ニ依ル其他特ニ定ムルモノハ前條ノ限ニアラス

第四條 判任官五等以上ハ每等在職四年六等以下ハ每等在職三年ヲ踰ユルコトヲサレハ昇等スルコトヲ得ス

第五條 每等ニ定員ヲ限リ缺員アルコトアラサレハ定期ヲ踰ユルト雖モ昇等スルコトヲ得ス

第六條 判任官一等ニシテ上級俸ヲ受ケ三年ヲ踰ヘタル者勞績拔群顯著ナルモノハ特別ヲ以テ別表ノ範圍ニ拘ハラズ漸次百圓マテ増俸スルコトアルヘシ

第七條 官ニ在リテ死亡シタル者ハ月俸三箇月分ヲ其遺族ニ給ス其非職者ニ於テモ亦同シ

第八條 本令中俸給細則ハ大藏大臣其省令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
別表

判任官	
一 等	二 等
三 等	四 等
五 等	六 等
七 等	八 等
九 等	十 等
上 七拾五圓	下 六拾圓
五拾圓	四拾五圓
四拾圓	四拾圓
三拾五圓	三拾圓
三拾圓	二拾五圓
二拾五圓	二拾圓
拾五圓	拾圓
拾圓	拾圓

●判任官官等俸給令中改正追加 明治二十三年三月 勅令第三十七號

朕茲ニ判任官官等俸給令中改正追加ノ件ヲ裁可ス

判任官官等俸給令中左ノ通改正追加ス

第一條 判任官ヲ分テ六等トシ一等ヨリ六等ニ至ル

第四條 判任官ニ等三等ハ每等在職四年以上判任官四等五等六等ハ每等在職二年以

上ニ至ラサレハ陞叙スルコトヲ得ス

第五條 每等ニ定員ヲ限リ缺員アルニアラサレハ前條ノ在職年數ヲ除ユルモノト雖

陞叙スルコトヲ得ス

每等ノ定員ニ缺員アルモ之ヲ補フコトヲ得サルトキハ次等以下ニ其人員ヲ増置ス

ルコトヲ得

第八條 前條ノ外俸給支給ニ關シテハ高等官官等俸給令第二十三條第二十四條第二

十五條第二十六條第二十七條ノ例ニ依ル

第九條 俸給支給ニ關スル細則ハ大藏大臣省令ヲ以テ之ヲ定ム

別表

判 任 官

	一 等	二 等	三 等	四 等	五 等	六 等
上	七拾五圓	五拾五圓	四拾五圓	三拾五圓	貳拾五圓	拾五圓
下	六拾圓	五拾圓	四拾圓	三拾圓	貳拾圓	拾貳圓

●判任官官等及進級年限規程 明治二十三年三月 內閣訓令第一號

各官廳

判任官官等俸給令中改正ニ付テハ其官等及進級年限ハ左ノ規程ニ依ルヘシ

一 現在判任官ハ本令ノ改正ニ依リ其月俸ニ相當スル官等ニ敘セラレ同額ノ月俸ヲ受ケルモノトシ更ニ辭令ヲ用ヒス

二 本令第四條ノ年限ハ本令ノ改正ニ依リ官等ノ變更シタル者從來新官等ノ下級俸ニ相當スル月俸ヲ受ケルモノハ新官等敘日ヨリ起算シ其上等俸ニ相當スル月俸ヲ受ケルモノハ前官等敘日ヨリ起算ス

●文官俸給支給細則設定 明治二十三年四月 大藏省令第十號

文官俸給支給細則左ノ通相定メ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

但明治十九年當省令第十二號第十五號及第二十號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

文官俸給支給細則

第一條 高等官ノ俸給ハ各廳左ノ日割定日ニ於テ支給スルモノトス但休日ニ當ルトキハ順延トス

- 内閣 鐵道局 北海 道廳 トモ
- 外務省
- 樞密院
- 大藏省
- 內務省 警視廳 府 縣 トモ
- 元老院
- 貴族院
- 衆議院
- 會計検査院

支給期月ノ五日 陸軍省

海軍省

司法省

文部省

支給期月ノ六日 農商務省

逓信省

第二條 任官ノ俸給ハ毎月末日ニ支給スルモノトス但休日ニ當ルトキハ繰上ケトス

第三條 廢官退官ノモノ高等官官等俸給令第二十五條ニ依リ殘務ヲ調理シ其月内ニ調理ナ了リタルトキハ高等官官等俸給令第二十四條ニ依リ全額ヲ支給シ翌月以降ニ涉ルトキハ日割ヲ以テ調理結了ノ日マテ從前ノ俸給ヲ支給スルモノトス

第四條 兼任ノ増俸ハ其兼任應ヨリ支給スルモノトス

第五條 他廳へ轉任シタルモノハ第一條第二條ノ支給日ニ拘ラズ日割計算ヲ以テ發令ノ當日マテニ係ル俸給ヲ支給ス

廢官退官ノモノ高等官官等俸給令第二十五條ニ依リ殘務ヲ調理シタルトキハ調理結了ノ日ヲ待チ支給スルモノトス其調理結了迄ニ數箇月ヲ要スルモノハ第一條第二條ノ支給定日ニヨル

第六條 高等官他廳へ轉任若クハ非職廢官退官ノトキ俸給ノ過渡アルトキハ前任應ニ於テ其際之ヲ追徴スヘシ

俸給支給定日後他廳ヨリ轉任シ來タリタルトキハ後任應ニ於テ其期內殘日數ニ對スル俸給ヲ其際支給スルモノトス

第七條 高等官官等俸給令第二十六條ノ場合ト同第二十七條ノ場合ト相續テ起ルトキハ其日數ハ總テ前後ヲ通算ス但第二十七條ノ期限ヲ過キ己ニ減俸ノモノ第二十

第六條ニ移ルモ本俸ニ復セズ

第八條 賜暇忌引ノ場合ト高等官官等俸給令第二十六條若クハ第二十七條ノ場合ト連續スルトキハ其賜暇忌引ノ日數ヲ扣除ス

高等官官等俸給令第二十六條若クハ同第二十七條ノ期限ヲ過キ己ニ減俸ノモノ賜

暇忌引ニ連續シ其賜暇忌明後直ニ上應スルモノハ該賜暇忌引ノ日ヨリ本俸ヲ支給スルモノトス但賜暇忌ヲ明過キ尙上應セサルトキハ總テ減俸ノ額ヲ支給ス

第九條 日割計算ノ法ハ其月ノ現日數ニ依ル但年俸ハ之ヲ十二分シ其月額ヲ算出シテ計算ス

俸給ヲ支給スルニ當リ計算上厘位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切捨トス

(參照)明治十九年四月五日大藏省令第十二號ハ高等官俸給支給細則、同年四月十日省令第十五號ハ高等官官等俸給支給細則附則、同年四月五日同省令第二十號ハ判任官俸給支給細則ナリ

●技術官官等俸給令

明治十九年四月 勅令第三十八號

朕茲ニ技術官官等俸給令ヲ裁可ス

技術官官等俸給令

第一條 各廳ニ於テ工藝技術ヲ要スルモノハ職員ノ外特ニ技術官ヲ置ク

第二條 技術官ヲ分テ技監技師技手トス

第三條 技監ハ勅任トシ技師ハ委任トシ一等技師ヨリ六等技師ニ至リ技手ハ判任トシ一等技手ヨリ十等技師ニ至ル

第四條 技監技師ノ敍任奏薦辭令書同等内ノ順序定員年俸及陞叙特例ハ勅令第六號高等官官等俸給令ニ依ル

第五條 技手ノ月俸ハ別表定ムル所ニ從ヒ各廳俸給定額内ニ於テ事業ノ繁間ニ應シ便宜増減支給ス

第六條 技手ハ各廳ノ便宜ニ從ヒ別表技手俸給範圍内ニ於テ日給トナスコトヲ得

第七條 技手ノ昇等毎等ノ定員特別増俸及在官死亡者ノ賜金ハ勅令第三十六號判任官官等俸給令ニ依ル

第八條 技手ノ人員ハ事業ノ繁簡ニ從ヒ本屬大臣ノ定ムル所ニ依ル但定員ノ外俸給定額内ニ於テ臨時雇員ヲ使用スルコトヲ得

第九條 日給ノ技手疾病ニ罹リ缺勤三十日以内ニシテ其證據明白ナルトキハ日給ノ半額ヲ給スルコトアルヘシ但公務ニ依リ傷痕シ又ハ疾病ニ罹リタルモノハ本條ノ限ニアラス

第十條 日給技手ヲ定時間外ニ服業セシムルトキハ俸給定額内ニ於テ便宜加給スルコトヲ得

第十一條 日給技手ヲ除クノ外總テ技術官ハ其主務ノ便宜ニ依リ其年俸又ハ月俸ノ半額ヲ給シ之ニ休職ヲ命スルコトアルヘシ

第十二條 技術官ニテシテ休職ヲ命セラレ普通文官ノ事務ヲ兼ヌルモノハ兼官ニ就テ其年俸又ハ月俸ヲ給ス但此ノ場合ニ於テハ別ニ休職俸ヲ給セス

判 任 官

一等技手	二等技手	三等技手	四等技手	五等技手	六等技手	七等技手	八等技手	九等技手	十等技手
上八拾圓七拾圓	五拾五圓	五拾圓	四拾五圓	四拾圓	三拾五圓	三拾圓	貳拾五圓	貳拾圓	拾八圓
中七拾圓	六拾圓	五拾圓	四拾五圓	四拾圓	三拾五圓	三拾圓	貳拾五圓	貳拾圓	拾五圓
下六拾圓	五拾圓	四拾五圓	四拾圓	三拾五圓	三拾圓	貳拾五圓	貳拾圓	拾五圓	拾圓

●技術官ハ事務ノ繁閑ニ依リ其官等相當ノ俸給以下

ノ額ヲ支給スルコト 明治二十一年十二月 閣令第二十四號

技術官ニハ各廳事務ノ繁簡ニ依リ勅令第三十八號技術官官等俸給令官等相當俸給以下ノ額ヲ支給コトアルヘシ

●技手官等俸給改正

明治二十三年六月 勅令第百七號

朕茲ニ技手官等俸給改正ノ件ヲ裁可ス
技手ハ判任官一等以下六等以上トシ其官等俸給判任官官等俸給令ニ依ラシム
本令ハ本年七月一日ヨリ施行ス

●技手官等及進級年限準據

明治二十三年六月 內閣訓令第六號

各官廳

技手官等俸給改正ニ付テハ其官等及進級年限ハ本年內閣訓令第一號及第五號ノ例ニ依ル

●試補及見習俸給支給方

明治二十一年三月 閣令第二號

明治二十年七月勅令第三拾七號文官試補及見習規則ニ據リ試補ヲ命セラレタル者ニハ年俸六百圓以下見習ヲ命シタル者ニ月給貳拾五圓以下其官廳ノ定額内ニ於テ所屬長官便宜之ヲ給スルコトヲ得

明治二十年十二月閣令第二十八號ニ掲ケル試補ノ俸給ハ年俸九百圓以下判任官見習ノ俸給ハ月給四拾圓以下其官廳ノ定額内ニ於テ所屬長官便宜之ヲ給スルコトヲ得

●地方官官等俸給令改正

明治二十三年十月 勅令第二百二十六號

朕茲ニ地方官官等俸給令ノ改正ヲ裁可ス

地方官官等俸給令

第一條 府縣知事書記官警部長收稅長及典獄ノ年俸ハ左ノ如シ

知事	四 千 圓	三 千 五 百 圓	其他ノ諸縣
書記官	貳 千 圓	千 五 百 圓	
警部長	千 四 百 圓	千 百 圓	
收稅長	千 四 百 圓	千 百 圓	
典獄	八 百 圓	六 百 圓	

第二條 東京府知事ハ特ニ年俸四千五百圓ヲ給スルコトヲ得

第三條 參事官ノ年俸ハ其一人ヲ千圓トシ他ノ一人ヲ七百圓トス

第四條 郡長ハ年俸六百圓ヲ給ス

內務大臣ニ於テ特ニ指定スル各郡ノ郡長ハ年俸八百圓ヲ給ス

第五條 島司ハ年俸千貳百圓ヲ給ス

第六條 府縣知事ハ第一條第二條ノ外特ニ年額五百圓以內増俸スルコトアル可シ

大阪府警部長ハ特ニ年額三百圓以內増俸スルコトアル可シ

第七條 東京府京都府大阪府神奈川縣兵庫縣長崎縣新潟縣參事官ノ內各一人ハ特ニ年額貳百圓以內増俸スルコトアル可シ

第八條 第四條第二項ニ依リ特ニ指定スル所ノ郡長ハ百五十人以内トス

第九條 本令ニ規定スル條項ヲ除クノ外地方官ノ官等俸給總テ明治十九年勅令第六號高等官官等俸給令同年勅令第三十六號判任官官等俸給令明治二十三年勅令第七十四號但書並同年第七十五號勅令ニ依ル

●非職官吏ノ俸給下渡住居移轉及商業ニ關スル事項

明治十九年二月
閣令第一號

非職官吏ノ俸給下渡、住居移轉及商業ニ關シ左ノ通之ヲ定ム

第一條 凡ソ非職官吏ノ俸給ハ大藏省ニ於テ下渡スヘシ

第二條 本屬長官ハ非職官吏ノ官等俸給氏名住所及非職ノ年月日等ヲ大藏大臣ニ通知スヘシ

第三條 非職官吏ハ本屬長官ニ届出テ本屬官廳所在ノ外ニ住居スルコトヲ得

第四條 本屬長官前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ大藏大臣ニ通知シ大藏大臣之ヲ地方官ニ通知シ該廳ヲ經由シテ俸給ノ下渡ヲ爲スヘシ

第五條 非職官吏移轉地ニ到着シタルトキハ其住所ヲ本屬長官及地方官ニ届出ヘシ嗣後更ニ其住所ヲ移轉スルトキモ亦同シ

第六條 非職官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得テ商業ヲ營ムコトヲ得

●非職官吏俸給支給方改正

明治二十年三月 大藏省令第五號

十九年大藏省令第二十號及第二十二號ハ廿三年四月六號廢止ス

客年當省令第十七號ハ本月限り廢止シ非職官吏俸給ニ簡月分ヲ積算シ年俸ニ準ス儀ハ總テ客年當省令第十二號及ヒ第二十號高等官及ヒ判任官俸給支給細則ニヨリ支給ス但非職俸給渡日ハ高等官ハ一箇年ヲ四期ニ分テ每期、中ノ月四日、當日休暇ノ判任官ハ毎月十五日ヨリ五日以内ト定ム

(參照)明治十九年四月大藏省令第十七號

今般官制改革ニヨリ廢官後非職ヲ命セラレタルモノ及非職者ノ廢官トナリタルモノ俸給支給法ハ左ノ項ニ據ル

一俸給ハ毎月十五日ヨリ五日以内ニ之ヲ支給ス

一退官死亡ノ時ハ其月俸給ノ全額ヲ支給ス

一更ニ任用ノモノハ其月ノ現日數ニ依リ發令ノ日マテ日割ヲ以テ非職俸給ヲ支給ス

●非職官吏ノ俸給ハ所屬廳ニテ下渡サシム

明治二十二年三月 關令第八號

各官廳

非職官吏ノ俸給ハ明治二十二年度以降其所屬廳ニ於テ下渡ス可シ但明治二十二年三月三十一日マテニ非職ヲ命セラレタル官吏ノ俸給ハ從前ノ通大藏省ニ於テ下渡ス可シ

●非職俸給支給期日ヲ定ム

明治二十二年五月 大藏省訓令第三十五號

應府縣

本年三月閣令第八號本文ニヨリ其應ニ於テ下渡スル非職俸給支給日ハ自今明治二十二年三月當省令第五號但書ニ據ラズ俸給支給細則中指定ノ期日ニ據ルヘシ

●非職給俸支給期日準據方

明治二十二年五月 司法省訓令第十二號

裁判所

本年三月閣令第八號本文ニ依リ各廳ニ於テ下渡ス非職俸給支給定日ハ俸給支給細則ノ期日ニ據ルヘシ

●森林費支辨ニ係ル非職俸給支給期日準據方

明治二十二年六月
農商務省訓令第三十號
大林區署

明治二十二年三月閣令第八號ニ據リ森林費支辨ニ係ル非職者俸給支給ハ俸給支給細則ノ期日ニ據ルヘシ

●非職官吏府縣郡市町村及公共組合ノ吏員ト爲リ給

明治二十三年八月
勅令第六十一號

料ヲ受クル者ハ非職俸ヲ給セス

朕非職官吏俸給ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
非職官吏ニシテ府縣郡市町村及公共組合ノ吏員トナリ其給料ヲ受クル者ハ官吏非職條例第五條ノ俸給ヲ支給セス

●備員俸給支給方ヲ定メ届出シム

明治十九年九月
大藏省訓令第四十三號

備員俸給支給ノ儀ハ判任官ト權衡ヲ失ハサル様適宜之ヲ定メ當省ヘ届出ヘシ

●備員俸給支給規則

明治十九年十月
陸軍省令乙第四百十二號

備員俸給支給規則別冊之通定ム

(別冊)

備員俸給支給規則

第一條 備員俸給ハ職務ニ依リ月給又ハ日給トシ毎月二十七日支給スルモノトス

第二條 新ニ備入ノキハ職務ニ就タル當日ヨリ解備死亡ノキハ其當日迄支給スルモノトス

ノトス

但日數計算ノ法ハ其支給スヘキ日數ヲ月額ニ乘シ而シテ其月ノ現日數ヲ以テ除
シ四捨五入厘位ニ止メテ給ス

第三條 増俸減俸ハ發令ノ翌日ヨリ増減スヘシ

第四條 公務旅行中ノ俸給ハ豫メ受取人ヲ定メ發程前ニ具申スヘシ

但本人ノ情願ニ依リ翌月分ノ俸給繰上ケ支給スルコトヲ得

第五條 月給ノ者病氣(轉地送)私事ノ故障(思引願濟)ニ因リ出務セサル者三十日以後

ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減スルモノトス

●備員俸給支給規則
給規則第一條
中改正 明治二十三年六月
陸軍省令乙第四百十二號
第一條中「廿七日」
ノ三字ヲ「末日」(休
日ニ當ルトキハ順
次繰上ケ)「ノ十五
字ニ改ム

第六條 日給ノ者大祭日祝日日曜日等ノ休暇ハ之ヲ支給シ病氣急引其他不參ノ日ハ總テ支給セサルモノトス

●備人以下給料支給規則

明治二十三年十一月 陸軍省達二百十九號

備員以下給料支給規則左ノ通相定メ本年十二月一日ヨリ施行ス

但明治十九年十月省令乙第四百二十二號備員俸給支給規則及明治二十一年七月陸達第百六十一號ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス

備員以下給料支給規則

第一條 備員ノ給料ハ月給又ハ日給トス其金額ハ陸軍大臣ノ許可ヲ受クヘシ 備役ノ者給料ハ別表ニ依ル

第二條 備員及備役ニシテ月給ノ者ハ毎月末日休日ニ當ルトキハ順次繰上ケトスニ支給シ日給備ノ者ハ出務現日數ニ依リ給料ヲ計算シテ毎月下旬適宜ニ之ヲ支給ス但解備死亡其他事故アルトキハ其際ニ給ス

第三條 新ニ備入レノ者及其他給額ヲ増減スルトキハ總テ其命ヲ受ケタル當日ヨリ給シ罷免ノトキハ其前日死亡ノトキハ其當日マテ給ス

第四條 備員及備役ニシテ月給ノ者傷痍疾病公務ニ起因シタル者ハ除ク其他事故忌引又ハ請願休暇等ニ因リ出

務セサルコト引續キ二十日ヲ踰ヘ若クハ收禁留置中ハ日割ヲ以テ半額ヲ減シ拘留以上ノ處刑中ハ總テ支給セズ但收禁留置ノ者無罪若クハ免訴ニ歸スルトキハ其減給額ヲ追給ス

第五條 備員及備役ニシテ日給ノ者ハ祭日祝日及日曜日其他命令上ノ休暇日又ハ公務ニ起因シタル傷痍疾病其他ノ爲メ不參ノ日ハ全額ヲ給ス

第六條 月給日割計算ノ法ハ其支給スヘキ日數ヲ月額ニ乘シ其月ノ現日數ヲ以テ除シ四捨五入厘位ニ止メ之ヲ支給ス但第四條ノ場合ニ在テハ月額ヲ二分シ之レニ支給スヘキ日數ヲ乘シ其月ノ現日數ヲ以テ除シ毛以下之ヲ月額ノ内ヨリ扣除シ支給額ヲ得

(別表)

名 稱		等級	月 給	名 稱		等級	日 給
看 病 人	一 等	八	四 圓	支 關 番	一 等	三 拾 錢	給
	二 等	七	四 圓		二 等	三 拾 五 錢	
	一 等	三 拾 四 圓	用 使 取 締		一 等	三 拾 錢	
	二 等	貳 拾 五 圓			二 等	貳 拾 五 錢	
			用 使		一 等	三 拾 錢	
					二 等	貳 拾 五 錢	

●特ニ官等俸給ノ規定アル判任官ハ仍其規定ニ依ル

明治二十三年三月
勅令第三十八號

朕茲ニ判任官ニシテ特ニ官等俸給ノ規定アル者ニ關スルノ件ヲ裁可ス
判任官ニシテ特ニ官等俸給ノ規定アルモノハ當分ノ内改正判任官官等俸給令ニ依ラ
スシテ仍從前ノ規定ニ依ル

●收稅屬官等俸給改正

明治二十三年五月
勅令第七十五號

朕茲ニ收稅屬官等俸給改正ノ件ヲ裁可ス

收稅屬ハ判任官一等等以下六等以上トス其官等俸給ハ本年勅令第三十七號判任官官等
俸給令ニ依ラシム但シ俸給定額ノ都合ニ依リ判任官六等ニハ拾圓又ハ八圓ノ俸給ヲ
支給スルコトヲ得

●町村制ヲ施行セサル島嶼ノ戸長以下給料旅費並ニ

浦役場費負擔及支給方

明治二十二年一月
勅令第二號

朕町村制ヲ施行セサル島嶼ノ戸長以下給料旅費並浦役場費ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公

布セシム

町村制ヲ施行セサル島嶼ハ別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ムル迄本府縣ニ於テ町村制施
行ノ後ニ要スル戸長以下給料旅費並浦役場費ハ其町村ノ負擔トス但東京府管轄小笠
原島伊豆七島ハ從前ノ通國庫ヨリ支給ス

●陸地測量官官等俸給

明治二十二年三月
勅令第三十六號

朕茲ニ陸地測量官官等俸給ノ件ヲ裁可ス

陸地測量官ノ官等俸給ハ明治十九年勅令第三十八號技術官官等俸給令ニ依ル

●巡查看守給助例

明治十五年七月
太政官達第四十一號

警視廳

府縣東京府神戶
根室四縣ヲ除ク

巡查看守給助例別紙ノ通相定候條各地方ニ於テ給助金額ヲ定メ内務卿ノ認可ヲ經テ
施行可致此旨相達候事

但實施ノ府縣ハ八年一月第三號達并九年八月第八十號達別表中免職歸國旅費ハ相廢候
儀ト相心得ヘシ

(別紙)

巡查看守給助例

- 第一條 給助ハ退職給助傷痕給助死亡給助療治料祭祀料ノ五種トス
- 第二條 給助ヲ與ル者ハ左ノ如シ
 - 一 退職給助勤績巡査ヨリ看守ニ看守ヨリ巡査ニ轉スルモ總テ勤績トス滿五年以上ニシテ退職スル者ニハ一時之ヲ給シ滿十年以上ニシテ退職スル者ニハ終身之ヲ給ス
 - 二 傷痕給助職務ノ爲メ負傷スル者ニ終身之ヲ給ス
 - 三 死亡給助職務ノ爲メ重傷死ニ至ル者及ヒ負傷後其傷痕ニ原シテ死亡スル者又ハ職務上傳染病ニ罹リ死亡スル者ノ遺族ニ之ヲ給ス
 - 四 療治料職務ノ爲メ負傷シ若シハ傳染病ニ罹ル者ニ之ヲ給ス
 - 五 祭祀料奉職中死亡スル者ニ之ヲ給ス

第三條 退職給助ノ額

- 一 勤績滿五年ノ者ハ一時金貳拾圓ヨリ少カラス三拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス滿六年以上九年迄ハ一年毎ニ金三圓ヨリ少カラス五圓ヨリ多カラサル額ヲ増給ス
- 二 勤績滿十年ノ者ハ年金貳拾圓ヨリ少カラス三拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス滿十一年以上ハ一年毎ニ金五拾錢ヨリ少カラス壹圓ヨリ多カラサル額ヲ増給ス

第四條 傷痕給助ノ額

- 一 一等傷終身不具トナリ自用ヲ辨スル能ハサル者ハ年金三拾圓ヨリ少カラス四拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス
- 二 二等傷終身不具トナリ自用ヲ辨シ得ル者ハ年金貳拾圓ヨリ少カラス三拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

第五條 死亡給助ノ額

- 一 寡婦又ハ相續ノ孤兒アル時ハ年金三拾圓ヨリ少カラス五拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス寡婦再嫁シ孤兒二十歳ニ至レハ廢止ス但寡婦アレハ孤兒ニ給セス
- 二 寡婦又ハ孤兒ノ給助ヲ受ル者ナク祖父母父母又ハ二十歳未滿ノ兄弟姉妹ニシテ死者ニヨリ從來生計ヲ爲セシ者アルトキハ一時金五拾圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス
- 三 相續者タル孤兒滿二十歳ニ至ルモ癡篤疾ナルトキハ年金ヲ廢止スルニ際シ一時金五拾圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス
- 第六條 療治料ハ傷痕又ハ病症ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス

第七條 祭祀料

一 奉職一年未滿ニシテ死亡スル者ハ一時金拾圓ヨリ少カラス拾五圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス滿一年以上一年毎ニ金三圓ヨリ少カラス五圓ヨリ多カラサル額ヲ増給ス

二 職務ノ爲メ死亡スル者ヘハ前項ノ外一時金五拾圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

第八條 左ノ各項ニ該ル者ハ給助ヲ受ルヲ得ス

- 一 公權ヲ剝奪セラレタル者
- 二 懲罰ニヨリ免職セラレタル者

第九條 左ノ各項ニ該ル者ハ其時間給助ヲ停止ス

- 一 俸給ヲ受ルノ官職ニ就キタル者
 - 二 公權ヲ停止セラレタル者
 - 三 失踪シタル者
 - 四 許可ヲ得スシテ外國ニ出テ一年以上歸朝セサル者
- 一 人員減少等ニテ免職ノ者一時慰勞金支給方 明治十五年十二月十二日
太政官達第六十六號警視廳府縣(東京府沖繩函
館札幌根室四縣ヲ除ク)

二 巡查看守給助例第二條第一項勤績割註心得方 明治十五年十二月十五日
內務省達乙第六十八號警視廳府縣(東京府沖
繩函館札幌根室四縣ヲ除ク)

本年七月第四十一號ヲ以テ巡查看守給助例相違候處右實施ノ府縣ニ於テ人員減少等ニ因リ免職スルコトアルトキ奉職五年未滿ノ者ハ免職當日迄ノ勤績年數ニ應シ滿年賜金ノ例ニ據リ一時慰勞金トシテ支給スヘシ此旨相違候事

三 巡查看守給助例施行期限 明治十九年二月二十六日
內務省達甲第七號府縣(東京府及沖繩縣ヲ除ク)
本年七月第四十一號公達巡查看守給助例第二條第一項勤績割註ノ趣ハ全ク一地方內轉任スル者ニ限ル義ニ付此旨爲心得相違候事

四 巡查看守給助例中年金支給方 明治二十年四月七日
內務省訓令第二十三號府縣集治監假留監
巡查看守給助例中年金ハ左ノ各項ニ據リ支給スヘシ

- 一年金ハ毎年三月及九月ニ於テ其月ヨリ前六箇月 六箇月ニ滿タサルモノハ現月數ヲ以テ計算ス 分テ支給スヘシ
- 一年金ハ退職又ハ死亡又ハ傷疾ノ翌月ヨリ支給スヘシ
- 一年金ヲ受ケタル者本例第八條第一項及第九條ニ該當スルトキハ日割ヲ以テ支給ス

給ス此支度料ハ始テ在勤ヲ命セラレタル者ニ限り之ヲ支給ス歸朝滯京中住所替ヲ命スルモ之ヲ給セス

第八條 出發前官ノ都合ヲ以テ在勤ヲ免シ及出發前轉任或ハ死去スル者ニハ右支度料ノ半額ヲ支給ス願ニ依リ免シタル者ニハ一切支給セス

第五章 旅費ノ事

第九條 東京ヨリ各任所へ往返スル者ニハ費用條例細則甲號表(二等)ノ旅費ヲ支給ス右ヲ以テ各任所間船車賃旅具運搬解人足ノ賃等一切ノ旅費ヲ賄フヘシ但精算ヲ要セス

第十條 他府縣ヨリ各任所へ往返スル者ノ旅費ハ現場仕拂ノ精算ニ依テ之ヲ支給ス尤本籍ヨリ乘船ノ港本籍ヨリ在勤ノ港ヲ指ス迄ノ陸路旅費ハ其里數ニ應シ一日十里詰ノ割ヲ以テ日當金五拾錢ト定ム故ニ旅中經歷書等明細取調差出スヘシ但此經歷書ニハ各所發着ノ日限並ニ滯留ノ日數及事由乘船ノ名號等詳細明記スルモノトス

第十一條 私用荷物ノ運賃ハ貳拾貫目迄官費ヲ以テ之ヲ仕拂其以上ハ自辨タルヘシ

第十二條 現場仕拂ノ精算帳ニハ實費請取證書ヲ添付スヘシ若シ請取證書取難キ場合ニ於テハ其事由ヲ記シタル證明書ヲ本人ヨリ差出サセ其館長官ニ於テ不相當ノ

廉無之ト認ムルトキハ之レニ捺印シ以テ證書ニ代用スヘシ

第十三條 第二十條ノ場合ニヨリ支給スル歸國旅費ハ在勤ノ地ヨリ本籍ニ近キ港嚴原、長崎、博多、下關、神戸、横濱迄ノ下等船客料上陸ノ地ヨリ本籍迄ハ陸路每十里日當五十錢ト定ム

但旅中經歷書差出方ハ第十條ニ同シ

第十四條 第一條但書ノ場合ニ於ケル歸國旅費ヲ給スルト否ニ關シテハ公使或ハ領事ヨリ其事柄ヲ具シ外務大臣ノ裁令ヲ請フヘシ

第六章 旅行日當ノ事

第十五條 各任所往返ノ日數間ハ第三號表中ノ旅行日當ヲ給ス故ニ途中定期郵船滯泊内地各港ヲ指スノ節一時上陸スルモ解車賃及旅舍賄料ハ之ヲ支給セス

第十六條 各任所へ官船或ハ官ノ雇船ニテ往返スル者ニハ船客料ヲ給セス第三號表中官船渡海日當同賄料ヲ支給スヘシ此渡航中ハ前欸ノ日當ヲ支給セス

第十七條 任所往返中船破損スルカ或ハ船便待合セ其他非常ノ事故アリテ途中ニ滯留スル者ニハ第三號表ニ照ラシ滯留賄料ヲ給ス尤モ内地滯留ニ係ル日數間ハ前欸ノ旅行日當ヲ支給セス

第七章 旅行雜費ノ事

第十八條 朝鮮國在勤ノ巡查公用ニテ其國內旅行スル者ニハ任所出發ノ日ヨリ歸着ノ日迄ヲ算シ第三號表中ノ旅行雜費ヲ支給ス右ヲ以テ賄料等旅中ニ起ル所ノ雜費ヲ取賄フヘシ尤人馬船車賃ハ現場支拂ノ上其精算帳ヲ差出スヘシ

但此精算帳ヘハ旅行ノ正路及發着日限トヲ詳細記載シタル旅中經歷書並實費請取證書ヲ添フヘシ

第八章 任所替ノ事

第十九條 在勤中任所替ヲ命セラレタル者ニハ辭令拜受ノ日ヨリ新任ノ俸給ヲ支給シ甲地出發ヨリ乙地着迄旅費ハ第五章日當ハ第六章ニ照ラシ支給スヘシ

第九章 賜暇ノ事

第二十條 巡查在勤滿三箇年已上ノ者ニハ公使或ハ領事ニ於テ公用ノ都合ヲ見計ヒ往返ヲ除クノ外二箇月間休暇ヲ得テ歸朝スル事ヲ許ス此往返旅費日當ハ第五章第六條ニ照ラシ支給ス尤本人ノ請願ニ依リ出京セ直ニ歸省スル者ニハ第五章第十條ノ通共郷里迄ノ旅費ヲ給ス

但往返ノ途次願濟ノ上歸郷スル者ハ順路ノ日數ヲ除キ其餘ノ日數ハ賜暇日限内ヘ加算スヘシ

第十章 負傷者免職旅費及扶助料ノ事

第二十一條 公務上傷疾ヲ受ケ職務ニ堪ヘ難ク免職スル者ニハ在勤年數ニ拘ハラヌ

第九條第十三條ニ照ラシ巡查給助例ニ拘ハラヌ特ニ歸國旅費ヲ給ス

第二十二條 公務上死傷、吊祭扶助療治料等ノ儀ハ明治十五年七月十七日太政官達

第四十一號巡查給助例ニ據テ之ヲ支給スヘシ

第十一章 海外ニ於テ死亡セシトキノ事

第二十三條 巡查任地ニ於テ死亡シタルトキハ官ヨリ埋葬費及墓碑建設費ヲ支給スヘシ

第十二章 懲罰ノ事

第二十四條 職務ヲ惰ル者アルトキハ之ヲ明治九年八月五日內務省乙第九十二號巡查懲罰例ニ照シ公使或ハ領事ニ於テ相當ノ處分ヲ爲スヘシ

第十三章 補缺員ノ事

第二十五條 巡查缺員ノ時實際之ヲ補缺セサルヲ得サル場合ニ於テハ公使或ハ領事ニ於テ先ツ一箇月極メテ以テ相當ノ者可成巡查採用ヲ雇川シ其旨ヲ具申スヘシ内規合格ノ者ヲ雇川シ其旨ヲ具申スヘシ

但該雇ノ者ニハ月給拾五圓以内ニシテ月手當ヲ給セズ

第壹號

朝鮮國在勤巡查月俸表

巡	查	月	俸
	金貳拾圓マテ	金貳拾圓マテ	

第貳號

朝鮮國在勤巡查手當表

巡	查	宮城仁川元山	釜山
金貳拾圓マテ	金貳拾圓マテ	金拾八圓マテ	金拾八圓マテ

第三號

官名	支度料	旅行日當	官船渡海	官船乘込并本邦或ル港ニ滯留賄料	朝鮮國內或ル港ニ滯留賄料	朝鮮國內旅行雜費
巡查	三拾圓	三拾錢	四拾錢	三拾五錢	壹圓	壹圓二拾錢

○旅費

●內國旅費規則

明治十九年六月 閣令第十四號

●內國旅費規則附則 明治十九年三月十四號 閣令第十四號

明治十九年三月十四號 閣令第十四號
 第一條 內國旅費ハ官吏公務ニ依リ本邦内ニ旅行スルトキ旅行中一切ノ費用ニ充ツル爲メ之ヲ支給ス
 第二條 內國旅費ハ各官等ニ依リ分テ六等トシ別表ノ定ムル所ニ從ヒ順路ノ路程ニ依リ瀛車賃瀛船賃車馬賃及日當ヲ支給ス但車馬賃及日當ハ管内外ニ區別シテ之ヲ支給ス
 第三條 瀛車賃ハ瀛車旅行、瀛船賃ハ瀛船旅行、車馬賃ハ陸路旅行、日當ハ休泊料及其他ノ諸費ニ充ツル爲メ之ヲ支給ス
 第四條 官有ノ船車馬及各官廳ニ於テ借入備入タル舟車馬等ニテ旅行シ若クハ旅行ノ性質ニ依リ特ニ船車馬等ノ實費拂ヲ許可シタルトキハ本令ノ瀛車賃瀛船賃及車馬賃ヲ支給セス
 第五條 瀛車賃ハ哩數瀛船賃ハ海里數車馬賃ハ里數日當ハ日數ニ應シ之ヲ支給ス

各官廳

三條各々大臣ハ前
二條ニ據リ旅費額
ヲ定メタルトキハ
大藏大臣ニ通知ス
ヘシ

外國旅費ノ日當ヲ給スルトキハ本條ノ日當ヲ支給セシ

第六條 赴任又ハ管内旅行ノ爲メ其管内ヲ通過スルトキハ其路程ハ管内ニ準シ又管

内巡回ノ際其便宜ニ依リ管外ヲ通過スルトキハ其路程ハ管内ニ準スヘシ

第七條 日當ハ陸路六里未滿瀛車十哩未滿及瀛船十海里未滿ノ旅行コハ支給セサル

モノトス但公務ノ都合ニ依リ宿泊ヲ要スルトキハ宿泊ノ數ニ應シテ日當ヲ支給ス

ヘシ

第八條 瀛車賃瀛船賃及車馬賃ハ其種類毎ニ經過セシ路程ノ總數ヲ合算シテ之ヲ支

スヘシ但其一位未滿ハ端數ハ計算セサルモノトス

第九條 旅行ノ兩會計年度ニ跨ルトキハ各年度毎ニ之ヲ區別シ旅費ヲ計算スヘシ但

瀛車賃及瀛船賃ハ會計年度ニ係ハラズ瀛車瀛船ノ到達地ニ著シタル日ヲ以テ之ヲ

區別シテ計算スヘシ

第十條 檢田測量及土木工事等ノ爲メ現場ヲ巡視スルトキハ車馬賃ヲ給セス日當額

ニ三割ヲ増給スヘシ

第十一條 赴任旅費ハ舊任地ヨリ新任地ニ至ルマテ本官相當ノ車馬賃瀛車賃若クハ

瀛船賃ノ二倍ヲ支給スヘシ

第十二條 廢官若クハ退官ノ際事務引繼殘務取調其他公務ノ爲メ旅行セシムルトキ

●内國旅費規
則第十九條削
除
明治二十年六
月
閣令第十七號
各官廳

明治十九年六月
閣令第十四號
各官廳
●内國旅費規
則第十九條ヲ削
除ス

●内國旅費規
則第二十條中
追加
明治二十年
三月
閣令第六號
各官廳

明治十九年六月
閣令第十四號
各官廳
●内國旅費規
則第二十條中
武官ノ下ニ一
官ノ二字ヲ加
フ

ハ前官相當ノ民費ヲ支給スヘシ

第十三條 新ニ任用スル爲メ召喚スルモノハ其新任官相當ノ旅費ヲ支給スヘシ

第十四條 旅行中歸省其他私事ノ爲メ許可ヲ得テ迂路ヲ通過スルトキハ順路ノ路程

ニ應シ旅費ヲ支給スヘシ

第十五條 旅行中廢官死亡又ハ諭旨退官シタルモノハ前官相當ヲ以テ舊任地マテノ

旅費ヲ支給スヘシ

第十六條 前二條ノ場合ニ於テ日當ヲ支給スル爲メ其日數ヲ計算スルハ汽車旅行ハ

一日二百哩詰、瀛船旅行ハ一日百海里詰、陸路旅行ハ一日十二里詰トス但距離接近

シテ數種ノ旅行相跨ルトキハ各其路程十二分ノ一ヲ以テ一時間ノ行程トシ一日ノ

旅行時間ハ十二時間トシ其日數ヲ計算スヘシ

第十七條 各省大臣ハ大藏大臣ト協議シ平常旅行ヲ要スル官吏ニ對シ特ニ其旅費額

ヲ定メ月額ヲ以テ之ヲ支給スルコトヲ得

第十八條 各省大臣ハ大藏大臣ト協議シ定額ノ旅費ヲ減少スルコトヲ得

第十九條 府知事縣令ハ三等旅費郡區長ハ五等旅費ヲ支給スヘシ

第二十條 陸海軍武官及警察官ノ旅費ハ主任大臣大藏大臣ト協議シ別ニ之ヲ定ムヘ

第二十一條 神官及雇員其他本令ニ明文ナキモノ、旅費ハ主任大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムヘシ

別表

等	級	旅 費 額					
		海車賃	汽船賃	管外車馬賃	管内車馬賃	管外日當	管内日當
一等	親任官	一哩毎ニ	一海里毎ニ	一里毎ニ	一里毎ニ	一日毎ニ	一日毎ニ
一等	勅任一等官	金拾五錢	金拾五錢	金五拾六錢	金三拾二錢	金四圓	金三圓
二等	勅任二等官	金拾貳錢	金拾貳錢	金四拾貳錢	金貳拾四錢	金三圓	金貳圓
三等	委任一等官	金九錢	金九錢	金貳拾八錢	金拾六錢	金貳圓	金壹圓六拾
三等	委任二等官	金九錢	金九錢	金貳拾八錢	金拾六錢	金貳圓	金壹圓六拾
三等	委任三等官	金九錢	金九錢	金貳拾八錢	金拾六錢	金貳圓	金壹圓六拾
四等	委任四等官	金九錢	金九錢	金貳拾貳錢	金拾貳錢	金壹圓四拾	金壹圓
四等	試補六等官	金九錢	金九錢	金貳拾貳錢	金拾貳錢	金壹圓四拾	金壹圓
五等	判任四等以上	金六錢	金六錢	金拾四錢	金八錢	金九拾錢	金七拾錢
六等	判任五等以下	金六錢	金六錢	金八錢	金六錢	金七拾錢	金五拾錢

●内國旅費規則心得方

明治十九年六月
大藏省訓令第二十三號

北海道廳 府縣

- 開令第十四號ヲ以テ内國旅費規則ヲ定メラレタルニ付左ノ通心得ヘシ
- 一 府縣大少書記官ハ三等旅費收稅長ハ四等旅費屬官判任御用掛ハ月俸四十圓以上五等旅費月俸四十圓未満六等旅費ヲ給スヘシ
 - 一 北海道廳長官府知事縣令ハ旅行ヲ命スルトキ豫メ事務ノ便宜路程ノ近便等ヲ量リ經過ノ路筋旅行日數ヲ定ムヘシ
 - 一 海灣河湖等ノ海里ヲ以テ路程ヲ算セサル場合ハ里數ニ應シテ車馬賃ノ額ヲ支給スヘシ
 - 一 非常急行上司隨行等ノ如キ場合ニ於テ定額ノ車馬賃ヲ以テ支辨シ難キト見認ルトキハ北海道廳長官府知事縣令ノ見込ヲ以テ隨時實費拂ヲ許可スヘシ
 - 一 海里ノ距離ハ明治五年第三百三十號布告ニ據ルヘシ
 - 一 赴任旅費ハ在官者ニシテ在勤地ヲ轉シタル時ニ限り之ヲ支給スヘシ
 - 一 新任ニ任用ノ者ハ在勤地マテ規則第十三條ノ旅費ヲ支給スヘシ
 - 一 兼官者ハ兼官ノ用務ニ據リ旅行スルトキハ兼官相當ノ旅費ヲ給シ本官兼官ノ用務

ヲ兼ヌルトキハ本官相當ノ旅費ヲ給スヘシ
 但兼官無給ナルトキ其旅費額ハ本官ノ給額ニ依ル
 一從前特例ヲ以テ旅費ノ支給法ヲ定メタルモノト雖モ總テ閣令第十四號内國旅費規則ニ據ルヘシ

●内國旅費規則支給心得

明治十九年六月
 大藏省訓令第二十八號

北海道廳 府縣

閣令第十四號ヲ以テ定メラレタル旅費支給方左ノ通心得ヘシ

- 一北海道廳集治監典獄ハ内國旅費規則四等旅費ヲ給ス
- 一内國稅徵收費支辨ニ係ル府縣等外出仕等外御用掛及傭員ノ旅費額ハ左表ニ據ル

汽車賃	汽船賃	管外車馬賃	管内車馬賃	管外日當	管内日當
一圓毎ニ	一海里毎ニ	一里毎ニ	一里毎ニ	一日毎ニ	一日毎ニ
金五錢	金五錢	金七錢	金五錢	金五十錢	金三十錢

一北海道廳府縣ノ判任官并ニ準判任官新官制ニ據リ官等ヲ定メサルモノハ屬官御用掛ノ外ト雖總テ當省訓令第二十三號第一項ニ據リテ旅費ヲ給ス但地方稅支辨ノ官吏ト雖國庫ヨリ

旅費ヲ給スルトキ亦同シ

一支給上新舊旅費規則相跨リタル場合ニ於テハ新規則施行期日後直ニ到着セシ御用地ヲ以テ打切り又巡迴中ノ者ハ該期日ヲ押へ新舊支給方ヲ區分スヘシ

●外國旅費規則

明治二十年五月
 閣令第十二號

各官廳

外國旅費規則左ノ通相定メ本年七月一日ヨリ施行ス

外國旅費規則

- 第一條 外國旅費ハ官吏公務ニ依リ外國ニ旅行スルトキ其行程日數ニ應シ旅行中一切ノ費用ニ充ツル爲メ之ヲ支給ス
- 第二條 外國旅費ハ船舶料、汽車料、客舍料、食卓料、日當及支度料ノ六種トス
- 第三條 客舍料、食卓料、日當、支度料ハ各官等ニ依リ分テ五等トシ第一號表ニ照シ船舶料、汽車料ハ勅奏判任官ハ一等、傭員ハ二等ノ額ヲ以テ第二號表ニ照シ之ヲ支給ス
- 第四條 表面外ノ地ニ旅行スルトキ勅奏判任官ハ汽船、汽車賃ノ一等定價、傭員ハ二等定價ヲ支給ス其二等ナキ場合ハ一等ヲ支給ス

漁船、漁車ノ設ナキ地方ヲ旅行スルトキハ舟、車、馬賃ノ實費ヲ支給ス
定價及實費ヲ支給スル場合ニ於テハ私屬ノ荷物三十五貫目マテノ運賃ハ官費支給
スルコトヲ得

第五條 前條ノ場合ニ於テハ旅行者ヨリ旅行日記、受取書等精確ナル證明書ヲ出サ
シメ之ニ基キ支給スヘシ

旅行者ハ精密ナル旅行日記ヲ作り毎日ノ行程、宿泊ノ場所、旅店名稱、船名、賃銀等
ヲ記入スヘシ

旅行者ハ成ルヘシ運輸會社或ハ運輸營業人ノ受取書其他舟、車、馬賃ノ證明トナル
ヘキモノヲ取置ヘシ

第六條 船舶料、漁車料ハ官ヨリ船、車ヲ供スルトキハ之ヲ支給セス

第七條 食卓料ハ官ヨリ船舶ヲ供スルモ賄ヲ爲サ、ルトキニ限り航海ノ日數ニ應シ
之ヲ支給ス

食卓料ハ客舎料ト重複ニ支給セス

第八條 客舎料ハ陸地宿泊ノ數ニ應シ之ヲ支給ス

航海途中漁船ノ寄港シタル場合ニ於テ自己ノ便宜ヲ以テ上陸宿泊スルトキハ客舎
料ヲ支給セス

●外國旅費規
則第十三條中
追加 明治二十
三年十月二十
九號勅令第二
百五十九號
外國旅費規則
第五條ノ件ヲ
裁可シシ
茲ニ之ヲ公布
セシム
外國旅費規則
第十三條中左
ノ一項ヲ
追加ス、在外
各處
在勤中死亡ノ
者モ
前條ニ準ス

第九條 日常ハ本邦出發港拔錨ノ日ヨリ本邦歸着港ニ投錨ノ日マテ日數ニ應シテ支
給ス

第十條 支度料ハ各省大臣ニ於テ豫メ旅程ノ遠近、日數ノ多少、公務ノ性質等ヲ斟酌
シ第一號表ニ掲クル範圍内ニ於テ相當ノ額ヲ定メ支給スヘシ

支度料ハ本邦ヨリ外國へ旅行ヲ命シタルトキ之ヲ支給シ其外國ニ在テ甲國ヨリ乙
國へ旅行ヲ命スルコトアルモ之ヲ支給セサルモノトス

第十一條 奏任官四等以上ノ者從者ヲ伴ヒ外國ニ旅行スルトキ從者一人ニ限り願ニ
依リ表面二等ノ船舶料、漁車料表面外ノ地ハ及五等ノ食卓料ヲ支給スルコトアルヘシ

第十二條 外國へ旅行ヲ命セラレタル者出發前死去又ハ官ノ都合ニ由リ旅行ヲ免シ
タルトキハ支度料ノ半額ヲ支給ス

第十三條 外國旅行中退官ノ者ハ其地ヨリ本邦出發地マテ舊官相當ノ旅費ヲ支給ス
但自己ノ便宜又ハ刑事裁判ニ由リ退官ノ者ハ此限ニアラス

外國旅行中死亡ノ者ハ其地ヨリ本邦出發港マテ舊官相當ヲ以テ第二號表漁車料、
船舶料ノ一割増ヲ支給シ第一號表ノ旅費ハ支給セス

第十四條 外國旅行中許可ヲ得テ公務ヲ終ルノ後尙私事ノ爲メ滞在スルトキ其間ハ
一切旅費ヲ支給セス但病氣ハ此限ニアラス

許可ヲ得テ私事ノ爲メ迂路ヲ經過スルトキハ其迂路ニ就キタル日若クハ場所ヨリ其再ヒ順路ニ就クノ日若クハ場所マテハ順路ニ應スル船舶料、瀛車料ノ一割増ヲ支給シ日當、客舍料ハ支給セズ

第十五條 第十三條及第十四條ニ據リ死亡者及許可ヲ得テ迂路ヲ經過スル者ニ順路船舶料、瀛車料ヲ支給スルトキ表面外ノ地ニ於テハ陸地ハ一英里ニ付金七錢海路ハ一海里ニ付金六錢ノ割ヲ以テ支給ス

表面外ノ地ノ里程ハ各地運輸會社或ハ各國政府ノ公認セル里程表ニ基キ旅行者或ハ遺族ヨリ精確ノ證明書ヲ出サシムルモノトス

第十六條 傭員中特別ノ取扱ヲ要スル者(傭外國人等)及其他本則ニ明文ナキモノ、旅費ハ主任大臣大藏大臣ト協議シ之ヲ定ムヘシ

第十七條 交際官、領事等別段ノ旅費規則アルモノハ本則ヲ適用セズ

第十八條 各省大臣ハ大藏大臣ト協議シ定額ノ旅費ヲ減少スルコトヲ得

附則

外國旅費ハ內國旅費ト重複ニ支給スルコトナシ

外國旅行ノ爲メ本邦内ヲ通過シ及出發港ニ滞在スルトキハ內國旅費規則ニ據リ旅費ヲ支給ス

出發港拔錨ノ後郵船ノ都合ニ由リ本邦内ニ寄港シ上陸滞在スルトキハ其間ハ內國旅費規則ニ據リ日當ヲ支給ス

歸朝ノ際目的ノ港ニ達スヘキ直航船ナキカ爲メ一旦本邦内ニ寄港シ其地ヨリ汽船ヲ乗替ルルハ其寄港シタル日以後ニ起ル旅行ハ內國旅費規則ニ據リ旅費ヲ支給ス

官 級	旅 費		客 舍		料		食卓料	日 當	支 度	料
	等 級	諸外國	支那國	朝鮮國	食卓料	日 當				
親任官	一等	八圓	七圓	四圓	壹圓七拾錢	四圓	六百圓以内			
勅任官	二等	七圓	六圓	三圓	壹圓五拾錢	三圓	四百圓以内			
奏任官	三等	六圓	五圓	貳圓五拾	壹圓貳拾錢	二圓	四百圓以内			
判任官	四等	五圓	四圓	貳圓	壹圓貳拾錢	二圓	四百圓以内			
傭員	五等	四圓	三圓	壹圓五拾	九拾錢	一圓	三百圓以内			
備員					六拾錢	六拾錢	六百圓以内			

第二號表ノ甲 汽船賃表

橫濱香港間	一等	百四圓
	二等	八拾三圓貳拾錢

同 柴根間	百九拾五圓	百五拾六圓
同 新嘉坡間	百九拾五圓	百五拾六圓
同 マニラ間	貳百五拾三圓五拾錢	貳百貳圓八拾錢
同 バタヴィヤ間	貳百四拾七圓	百九拾七圓六拾錢
同 カルカッタ間	三百五拾壹圓	貳百八拾圓八拾錢
同 ホンデチユリース間	三百三拾壹圓五拾錢	貳百六拾五圓貳拾錢
同 マドララス間	三百拾貳圓	貳百四拾九圓六拾錢
同 錫蘭間	三百九拾圓	三百拾貳圓
同 コロンボ間	三百七圓	四百五圓六拾錢
同 亞丁間	五百貳拾圓	四百拾六圓
同 蘇西間	五百三拾九圓五拾錢	四百三拾壹圓六拾錢
同 ホルトサイト間	四百六拾八圓	貳百八拾六圓
同 那不留間	五百拾三圓五拾錢	貳百九拾貳圓五拾錢
同 馬耳塞間	四百六拾八圓	貳百八拾六圓
同 マルホルン間	五百六拾八圓	貳百圓
同 プリンデツツ間	三百貳拾五圓	三拾九圓
同 ウエニヌス間	六拾五圓	五拾七圓貳拾錢
同 シドネー間	九拾七圓五拾錢	四拾九圓四拾錢
同 サンフランシスコ間	八拾四圓五拾錢	
同 ホノルル間		
同 上海間		
同 天津間		
同 芝罘間		

同 元山間
同 釜山間
同 仁川間
同 浦潮斯德間
米國桑港ホノルル間
米國紐育英國リパブール間
橫濱英國サウスアンプトン間

七拾貳圓貳拾錢
五拾五圓貳拾錢
七拾圓貳拾錢
八拾八圓四拾錢
九拾七圓五拾錢
百三拾圓
五百四拾六圓

四拾壹圓六拾錢
三拾貳圓五拾錢
四拾壹圓六拾錢
五拾貳圓
三拾貳圓五拾錢
五拾貳圓
三百貳拾五圓

第二號表ノ乙

歐米各所汽車賃表

佛國馬耳塞リオン間
佛國馬耳塞巴里間
佛國リオン巴里間
佛國巴里英倫倫敦間
佛國巴里和蘭海牙間
佛國巴里澳國維也納間
佛國巴里伊國羅馬間
佛國巴里伊國ナール間

一
拾壹圓貳拾錢
貳拾七圓六拾錢
拾六圓四拾錢
拾九圓五拾錢
拾三圓八拾錢
四拾七圓八拾錢
五拾五圓七拾錢
六拾圓六拾錢

二
八圓三拾錢
貳拾圓五拾錢
拾貳圓貳拾錢
拾四圓六拾錢
拾圓拾錢
三拾五圓九拾錢
四拾圓
四拾三圓四拾錢

佛國巴里瑞西國ヘルン間	拾七圓七拾錢	拾三圓三拾錢
佛國巴里瑞典國ストツクホルム間	五拾九圓三拾錢	四拾四圓七拾錢
佛國巴里丁抹國コペンハーゲン間	四拾貳圓九拾錢	三拾貳圓
佛國巴里白耳義國アラツセル間	拾圓九拾錢	七圓五拾錢
佛國巴里西班牙國マドリツト間	五拾壹圓	三拾八圓七拾錢
佛國巴里葡國リスボン間	七拾六圓七拾錢	五拾八圓
佛國巴里那威國クリスチヤンナ間	六拾六圓八拾錢	四拾九圓七拾錢
佛國巴里獨國伯林間	三拾三圓	貳拾四圓貳拾錢
佛國巴里露國コンスタンチノブル間	百三拾壹圓六拾錢	九拾八圓
露國彼得堡モスコフ間	八拾三圓七拾錢	六拾貳圓拾錢
露國彼得堡オテツサ間	貳拾貳圓四拾錢	拾壹圓七拾錢
露國彼得堡アホー港間	七拾九圓	五拾四圓六拾錢
露國彼得堡漢國クラコフ間	貳拾壹圓四拾錢	拾貳圓七拾錢
露國彼得堡獨國エドクチン間	四拾八圓七拾錢	三拾六圓拾錢
獨國エドクチン伯林間	三拾圓貳拾錢	貳拾貳圓四拾錢
獨國伯林漢國維也納間	拾九圓貳拾錢	拾四圓三拾錢
獨國伯林白耳義國ブラツセル間	拾九圓八拾錢	拾四圓九拾錢
獨國伯林英國倫敦間	貳拾圓八拾錢	拾三圓三拾錢
	三拾六圓四拾錢	貳拾六圓六拾錢

獨國伯林獨國アムステルダム間	拾壹圓四拾錢	八圓四拾錢
伊國ナール羅馬間	六圓八拾錢	四圓九拾錢
伊國羅馬ウエニス間	拾七圓四拾錢	拾貳圓
伊國ウエニス漢國維也納間	拾八圓七拾錢	拾三圓八拾錢
伊國ウエニス漢國トリースト間	四圓四拾錢	三圓拾錢
漢國トリースト維也納間	貳拾圓八拾錢	拾五圓六拾錢
漢國維也納クラコフ間	拾貳圓三拾錢	九圓拾錢
英國倫敦リバプール間	九圓四拾錢	七圓拾錢
英國倫敦サウサンプトン間	五圓	三圓六拾錢
瑞典ストツクホルムマルモ間	拾五圓六拾錢	拾壹圓六拾錢
丁抹國コペンハーゲンセル間	貳圓九拾錢	貳圓貳拾錢
米國亞港華盛頓間	貳百〇四圓拾錢	百三拾六圓五拾錢
米國亞港紐約間	貳百〇四圓拾錢	百三拾六圓五拾錢

● 備外國人及備員以下内國旅費定則

明治十九年七月 司法省訓令第十三號

裁判所

備外國人及備員以下内國旅費定則左ノ通相定ム

但七月十日ヨリ施行スヘシ

備外國人及備員以下内國旅費定則

- 第一條 旅費支給ノ方法ハ閣令第十四號内國旅費規則ニ據ル
- 第二條 備外國人ハ旅費額三等ヲ給ス
但勅任取扱ノモノハ此限ニアラス
- 第三條 備月給金拾貳圓以上日給金四拾錢以上ハ旅費額六等ヲ給ス
- 第四條 備月給金拾貳圓以下日給金四拾錢以下及及給仕小使等ハ左ノ表面金額ヲ給ス
- 第五條 赴任旅費ヲ旅スルハ始審裁判所管内本支廳治安裁判所ノ間轉在勤ニ限ル

附屬寫字生等中取 縮門番支關番取者等	六	錢六	錢八	錢六	錢五	錢四	錢三	拾錢	貳拾錢	五錢
給仕小使馬丁職工等	三	錢三	錢五	錢四	錢三	拾錢	貳拾錢	五錢		
汽車 買汽 船 賃 管外車馬賃 管内車馬賃 管外日當 管内日當	一哩每二	一海里每二	一里每二	一里每二	一日每二	一日每二				

備外國人及備員以下内國旅費定則第六條第七條追加

明治二十年十一月
司法省訓令第二十五號

裁判所

十九年七月訓令第十三號備外國人及備員以下内國旅費定則ハ左ノ二條ヲ追加ス

- 第六條 官吏ニアラサル者ニ官ノ用務ヲ以テ旅行セシムルトキハ其旅費ハ左項ニ依ル
- 一 從六位及勳六等以上ノ輩ハ十九年閣令第十四號旅費額ノ四等ヲ給ス
- 二 正七位及勳七等以下ノ輩ハ同斷六等ノ額ヲ給ス
- 三 無位無勳ノ輩ハ本則第四條表面額ノ額ヲ給ス
- 第七條 備員月給拾貳圓以下及給仕小使等ハ旅行ノ性質ニ依リ實拂費ヲ許可スルトキハ左項ニ依ル
- 一 本則第四條表面ノ雇ハ汽車瀛船賃ハ中等以下トス
- 二 同斷給仕小使等ハ凡テ下等トス

司法省新官等級ニ叙任セサル官吏旅費

明治十九年七月
司法省訓令第十四號

裁判所

新官等級ニ叙任セサル官吏旅費ノ儀ハ判事檢事年俸月割八拾圓以上ハ三等旅費同六

拾五圓以下ハ四等旅費及判事補檢事補書記等ノ判任月俸四十圓以上ハ五等旅費同三拾五圓以下ハ六等旅費支給スヘシ

●内國旅費支給方

明治二十年二月 司法省訓令第二號

裁判所

旅費規則第二條ニ基キ旅費支給方左ノ通り相定ム

一海路旅行ハ汽船ノ都合ニ依リ寄港スト雖モ直路ノ汽船賃ヲ支給スヘシ
但汽船ノ乗替ヲナサズレハ難到場所ハ此限ニ非ラス

●轉任又ハ新任ノ者ニ即日辭令書ヲ交付セサルトキ

日當支給方

明治二十年六月 司法省訓令第十七號

裁判所

轉任又ハ新任ノ爲メ他所ノ者ヲ呼出シ其採用應ヘ到着スルモ休暇又ハ其應ノ都合ニ依リ即日辭令書ヲ交付セサルモハ辭令交付ノ當日マテ内國旅費規則ノ日當ヲ支給スヘシ

●海軍内國旅費規則改正

明治二十二年八月 海軍省達第三百二號

海軍内國旅費規則左ノ通改正ス

海軍内國旅費規則

第一條 海軍内國旅費ハ命ヲ受ケ本邦内ヲ旅行スル者ニ之ヲ給ス

第二條 旅費ハ汽船料船舶料車馬賃及日當ノ四種トシ順路ノ路程ニ依リ之ヲ給ス

車馬賃ハ汽車ノ便ナキ地方ノ陸路旅行ニ際シ里數ニ應シ之ヲ給シ日當ハ休泊料其他ノ諸費ニ充ツル爲メ之ヲ給ス

第三條 旅費ノ等級ヲ分テ八等トシ日當及車馬賃ハ第一號表ニ依リ之ヲ給シ汽車料船舶料ハ第二號表ニ依リ之ヲ給ス

第二號表面ノ地ヲ旅行スルトキ汽車船舶ノ兩路アル場所ニ在テハ汽車料ヲ給ス

第四條 第二號表面外ノ地ヲ旅行スルトキハ其路程ニ應シ汽車料船舶料ノ定價及日當五割増ヲ給ス但旅行ノ各種ニ跨ル當日ハ日當ノ多額ヲ給ス

汽車料船舶料ノ定價ヲ給スルトキ旅費等級四等以上ニ當ル者ハ上等トシ五等六等ニ當ル者ハ中等トシハ上等六等ハ下等 七等以下ニ當ル者ハ下等トス

第五條 第二號表面ノ各地間ヲ旅行スルトキハ特ニ令達アルモノ、外ハ他ノ路程ヲ

●海軍内國旅費規則改正追加 明治二十二年十月

海軍内國旅費規則 第十一條 左ノ通り改正追加ス 第九條ニ左ノ通り加フ、衛兵司令以下守衛線内ノ旅行ハ前項ニ準ス、第一項ノ下ニ旅行ニ九字ヲ加ヘ第三項中「出張セシムル者」ノ下ニ「及軍艦ニ便乗シ命シテ勤務乘セシムル者」ノ字ヲ加ヘ、該項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ、艦船試運轉ノ爲メ乗組旅行スルトキハ運輸時間三時間以上六時間未満ハ日當ノ

經過スルモ該表ニ依リ其額ヲ給シ日當ハ旅行ノ現日數ニ拘ハラズ一日瀛車路二百哩詰ヲ以テ計算シ之ヲ給ス但瀛車路ト海路トニ跨ル旅行ハ其合計里數ヲ以テ日數ヲ算入ス其十位以上ノ端數ハ一日ニ計算ス

第六條 旅行中歸省其他私事ノ爲メ迂路ヲ經過スルトキハ其迂路ニ入りタル日ヨリ再ヒ順路ニ出タル前日マテハ旅費ヲ給セス

第七條 文官奏任三等以上ハ上長官四等以下ハ士官判任一等ハ准士官判任二等以下ハ下士ノ旅費等級ニ準シ相當ノ額ヲ給ス

第八條 將校准將校ノ生徒ニハ旅費等級六等其他ノ生徒ニハ旅費等級七等ノ額ヲ給ス

第九條 勤務廳所在及乗組宿船碇泊ノ市町村内ニ止ル旅行ニハ旅費ヲ給セス

第十條 陸路六里瀛車路十二哩海路十二哩未満^{現ニ經過ノ}旅行ニハ日當ヲ給セス但^{路程ヲ云フ}勤務廳所在若シハ乗組艦船碇泊ノ市町村内ニ宿泊ヲ要スルトキハ其泊數ニ應シ日當ヲ給ス

旅行ノ各種ニ跨ルトキハ本條ノ割合ヲ以テ汽車路一哩海路一哩以上ヲ陸路里程ニ改算シ其内外ヲ區分スヘシ

第十一條 軍艦若シハ官有車馬又ハ各廳ニ於テ借入備入タル車馬等ニテ旅行スルトキハ日當ノミヲ給ス

半ヲ給シ六日間以上ハ全額ヲ給ス但旅行ノ各種ニ跨ル日ハ日當ノ多額ヲ給ス、第十二條 中「馬車賃」ト改ム、第十五條第一項中「馬車賃」ト改ム、該項ノ次ニ左ノ一項ヲ挿入ス、建築工事ニ關シ印場ニ出張シ著後三十日以上ニ及フトキハ同地ニ滞在ノ日數ニ限リ日當十分ノ額ヲ給シ滞在中心ニ出張スルトキ發著ノ當日ハ日當全額ヲ給ス、第二十三條第六項中「舟車」ト改ム、第二十五條中「舟車」ト改ム、第二十六條中「舟車」ト改ム、及「馬車賃」ト改ム、又ハ「船車賃」ト改ム

官有船舶又ハ各廳ニ於テ借入備入タル船舶ニテ旅行スルトキモ亦前項ニ同シ但官ヨリ賄ヲナサ、ル場合ニ於テハ旅費等級一等ニハ日當四割増ヲ給シ旅費等級二等以下ニハ日當五割ヲ給シ各種ニ跨ル當日ハ日當ノ多額ヲ給ス

第十二條 急行其他特殊ノ旅行ニ於テハ其性質ニ依リ舟車馬賃ノ實費拂ヲ許可スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ日當ノミヲ給ス

第十三條 武官准士官以上及文官轉勤轉乘ヲ命セラレ辭令書受領後三十日以内ニ左ニ掲クル事項ノ一ニ該ルトキハ本人旅費ノ外別ニ各本項ノ路程ニ應シ汽車料船舶料及車馬賃ヲ給ス但家族^{父母妻子ナ}以下同シテ携帶シ若クハ移轉セシムルトキハ所管長官ノ承認ヲ受クヘシ而シテ其發着ハ届出ツヘシ

一、甲應ヨリ乙應ニ轉勤ヲ命セラレタル者甲應所在地若クハ家族所在地ヨリ乙應所在地ニ家族ヲ携帶シ若クハ移轉セシムル時

二、甲應ヨリ乙艦船ニ轉乘ヲ命セラレタル者甲應所在地若クハ家族所在地ヨリ乙艦船所在地ニ家族ヲ携帶シ若クハ移轉セシムル時

三、甲艦船ヨリ乙艦船ニ轉乘ヲ命セラレタル者甲艦船所在地若クハ家族所在地ヨリ乙艦船所在地ニ家族ヲ携帶シ若クハ移轉セシムル時

一、改訂、第三十
 町村ノ下ニ原標
 若クハ、ノ五字ヲ
 加ヘ「汽車」ノ下ニ
 「停車場」ノ三字ヲ
 加ヘ「及船舶」ヲ
 又ハ船舶ニ乗組ム
 早頭ト改ム、第三
 十二條ニ左ノ一項
 ナ加フ、下士卒及
 雇員以下ノ刑罰限
 歸艦旅費ノ支給ハ
 前二項ニ同シ

●海軍内國旅費規則第十一條第十三條中改正追加明治三十三年十月海軍省達第三百三十二號海軍内國旅費規則中左ノ通改正追加第十一條第四項左ノ通改ム艦船試運轉ノ爲メ乗組員以上ノ旅行スルニ依リ、其日數ニ應ジ日當ノミチ給ス

四、甲艦船ヨリ乙艦ニ轉勤ヲ命セラレタル者甲艦船所在地若クハ家族所在地ヨリ乙艦所在地ニ家族ヲ携帶シ若クハ移轉セシムル時

五、出張中甲艦若クハ甲艦船ヨリ乙艦若クハ乙艦船ニ轉勤轉乘ヲ命セラレ直チニ赴任スル者甲艦若クハ甲艦船所在地若クハ家族所在地ヨリ乙艦若クハ乙艦船所在地ニ家族ヲ移轉セシムル時

第十四條 前條ニ依リ別ニ汽車料船舶料及車馬賃ヲ給スルトキ第二號表面ノ各地間ハ其汽車料若クハ船舶料ノ額ヲ給シ其他ノ路程ハ總テ車馬賃ヲ給ス但陸路ヲ以テ計算セサル渡海ノ場所ハ海路二哩ヲ陸路一里ニ計算シ車馬賃ヲ給ス

第十五條 募兵檢閱視察陸地測量等ノ爲メ現場ヲ巡視スルトキハ其他へ到達ノ翌日ヨリ發程前日マテ車馬賃ヲ給セス其日數ニ應ジ日當三割増ヲ給ス但官有若クハ官備ノ舟車馬ヲ使用セシムルトキハ三割増ヲ給セス

甲地ヨリ乙地ニ移ルトキハ通常ノ旅費ヲ給ス

第十六條 水路測量出張ノトキハ測地到達ノ翌日ヨリ發程前日マテ車馬賃ヲ給セス日當二割増ヲ給ス

甲地ヨリ乙地ニ移ルトキハ通常ノ旅費ヲ給ス

第十七條 入學通學者クハ練習乗組ヲ命セラレタルトキハ其學校若クハ艦船所在地

第十三條 左ノ
 一、項ニ加フ、第一
 項ニテ甲乙兩處同地
 ニ依ルトキハ本條
 スニ依リ、限ニアラ

●海軍内國旅費規則第二條中追加明治三十三年五月海軍省達第八十號

海軍内國旅費規則
 第二十二條ニ左ノ
 一、項ヲ加フ、兵學
 校生徒志願者入校
 試驗ニ及第シタル
 者ニ生徒ヲ命スル
 爲メ召喚スルトキ
 ハ日當三拾五錢ヲ
 給ス其支給法ハ第
 二十五條ニ依ル

マテ通常ノ旅費ヲ給シ休職者某地滞在ヲ命セラレタルトキハ其地マテ通常ノ旅費ヲ給ス

第十八條 賜暇歸省又ハ養病ノ爲メ旅行中轉勤轉乘ヲ命セラレ若クハ休職トナリ某地滞在ヲ命セラレ滞在勤地若クハ舊艦船ニ歸到セスニテ直ニ指定赴クトキハ其所在地ヨリ指定地マテ其路程ニ應ジ相當ノ旅費ヲ給ス但本條ノ旅行中ニ於テハ第二十三條第七項ニ該ル者ニ給スル旅費モ亦本條ニ準ス

第十九條 旅行中免官廢官若クハ免役トナリタルトキハ舊在勤地若クハ舊艦船マテ從前ノ資格ヲ以テ相當ノ旅費ヲ給ス

第二十條 旅行中死亡シトキハ本人ノ居宅マテ從前ノ資格ヲ以テ第十四條ニ準シ單ニ汽車料船舶料及車馬賃ヲ給ス但下士卒及從僕割烹刺夫ハ此限ニアラス

第二十一條 免官廢官若クハ免役トナリ事務引繼或ハ殘務取扱等ヲ命セラレ旅行スル者ニハ從前ノ資格ヲ以テ相當ノ旅費ヲ給ス

第二十二條 武文官ニ任用スル爲メ召喚セラレタルトキハ新任官相當ヲ以テ通常ノ旅費ヲ給ス

第二十三條 左ニ掲クル事項ノ一ニ該ルトキハ第一號表ノ日當並ニ汽車料船舶料ノ定價及車馬賃トシテ陸路一里毎ニ旅費等級四等以上ニ當ル者ニハ十錢五等以下ニ

第五類 官等俸給

●海軍内國旅費規則第二十

三條中改正
二十三年七月
海軍省達第百
五十三號
海軍内國旅費規則
第二十三條第七項
七、准士官以上休
職ノ命セラレハ一週
領受ノ日ヨリ一週
日以内若クハ豫備
後備ニ入り又ハ豫
役トナリ現役ヲ離
ルトナリ一週日
以内ニ本人ノ居宅
ニ歸住スル時

當ル者ニハ六錢ヲ給ス

- 一、銃砲射撃若クハ艦隊操練若クハ對抗運動見學及學術研究等ノ爲メ出張ヲ命
セラレタル時
- 二、拜謁或ハ賢所參拜ヲ仰付ラレ又ハ敘位敘勳若クハ昇等轉任等ノ爲メ召喚セ
ラレタル時
- 三、會計監督部諸員其職務ヲ以テ各艦艦團隊ニ臨檢ノ爲メ旅行スル時
- 四、下士卒職業或ハ學術受驗ノ爲メ召喚セララル、時
- 五、乘艦生徒下士卒及從僕刺烹刺夫公暇上陸中ニ本艦出港ノ際追尾歸艦若クハ
所管艦ニ歸到セシムル時
- 六、生徒下士卒及從僕刺烹刺夫傷痍疾病ニ罹リ治療ノ爲メ入院シ若クハ退院シ
若クハ治療場所ヲ移轉セシムル時但重傷或ハ病症ニ依リ別ニ舟車若クハ肩
輿等ヲ要スルトキハ所轄長ノ認可及ヒ軍醫ノ診斷ニ於テ其實費ヲ給ス
- 七、准士官以上休職ヲ命セラレ若クハ豫備後備ニ入り或ハ退役トナリ其日ヨリ
一週日以内ニ本人ノ居宅ニ歸住スル時
- 八、豫備後備者召集ニ應スル時
- 九、旅費等級六等以下ニ當ル軍人軍屬職務上自己ノ不注意若クハ誤謬ニ原因ス

ル事件ニ付質問説明等ノ爲メ召喚セララル、時

第二十四條 左ニ掲クル事項ノ一ニ該ルトキハ汽車料船舶料ノ定價及前條同額ノ車
馬賃ヲ給シ日當ハ給セス

- 一、准士官以上學術受驗ノ爲メ召喚セララル、時
 - 二、准士官以上公暇上陸中ニ本艦出港ノ際追尾歸艦若クハ所管艦ニ歸到セシム
ル時若クハ軍醫ノ診斷ニ依リ入院或ハ陸地療養ノ後歸艦スル時
 - 三、准士官以上ノ軍人及軍屬被告事件ニ依リ軍法會議ニ於テ審問ノ爲メ召喚セ
ラル、時
 - 四、會葬式ニ依リ施行スル准士官以上ノ葬式幹事若クハ其補助若クハ陪柩者ニ
指名サレタル時
 - 五、旅費等級五等以上ニ當ル軍人軍屬職務上自己ノ不注意若クハ誤謬ニ原因ス
ル事件ニ付質問説明等ノ爲メ召喚セララル、時
- 第二十五條 左ニ掲クル事項ノ一ニ該ルトキハ一日陸路十二里陸路一里ヲ以テ計算セサル
ニ改算ス陸路一里ヲ以テ下士ハ日當五十錢卒及從僕刺烹刺夫ハ日當四十錢ヲ給ス官有若クハ
官備ノ汽車船舶等ニテ旅行セシムルトキハ其日數ニ應シ本條ノ日當半額ヲ給ス但
旅行ノ各種ニ跨ル當日ハ日當ノ多額ヲ給ス又重傷或ハ病症ニ依リ別ニ舟車或ハ肩

第五類 官等俸給

與等ヲ要スルトキハ所轄長ノ認可及軍醫ノ診斷ニ依リ其實費ヲ給ス

一、豫備兵後備兵又ハ歸休兵ノ歸郷ニ若クハ召集セラレ、時

二、下士卒滿期ニ依リ現役ヲ退キ若クハ免官免役トナリ歸郷ズル時

三、從僕刺烹刺夫解備トナリ其備入地ニ歸到スル時但品行不正若クハ犯罪ニ因ル者ハ此限ニアラス

第二十六條 左ニ掲クル事項ノ一ニ該ルトキハ休泊賄料及其他ノ諸費トシテ旅費等

級二以上ニ當ル者ニハ日當八十錢四等以上ニ當ル者ニハ日當五十錢五等以下ニ當

ル者ニハ日當三十錢以内ニ止ルノ實費ヲ給ス又舟車馬ヲ要スル場合ニハ汽車料船舶料ノ定價及車馬賃ノ實費ヲ給ス

一、演習行軍或ハ端舟乘組出張衛兵交代其他隊伍ヲ組ミ旅行スル時及行軍演習

ノ際旅費等級二等以上ニ當ル者ノ從者隨行スル時但單身旅行ト雖モ本項ニ掲クル事項ニ關スル職務ヲ帶ヒ旅行スル時ハ本條ニ依ル

二、生徒下士卒從僕刺烹刺夫四人以上同地ニ旅行スル時及士官之ヲ引率スル時但被告人犯罪人及患者等ハ此限ニアラス

第二十七條 生徒下士卒及雇員以下被告事件若クハ懲罰處分ニ依リ旅行シ又ハ刑期

滿限ニ依リ歸郷トハ艦隊校モスルトキハ汽車料船舶料ノ定價及第二十三條

海軍内國旅費規則第二十六條第一項但以下ノ通過改正スル者及艦船ノ乗員本項ニ掲クル職務ヲ以テ單身旅行スルトキハ本條ニ依

海軍内國旅費規則第二十六條第一項但以下ノ通過改正スル者及艦船ノ乗員本項ニ掲クル職務ヲ以テ單身旅行スルトキハ本條ニ依

六條中改正

二十三年三月

海軍省達第百一

海軍内國旅費規則第二十六條第一項但以下ノ通過改正スル者及艦船ノ乗員本項ニ掲クル職務ヲ以テ單身旅行スルトキハ本條ニ依

ニ掲クル車馬賃ト同額ノ車馬賃ノミヲ給ス但滞在或ハ途中宿泊ヲ要スルトキハ其泊數ニ應ジ別ニ一日二十五錢ヲ給ス

第二十八條 軍法會議ニ於テ證人鑑定人醫師若クハ通辨人ヲ呼出シタルトキハ刑法

附則第四十九條第五十條ニ依リ旅費ヲ給ス

第二十九條 公務ノ爲メ華士族及平民ニ旅行セシムルトキハ華族及從六位勳六等以

上ノ者ニハ旅費等級四等正七位勳七等以下ノ者ニハ旅費等級六等無位無勳ノ者ニ

ハ旅費等級八等ノ額ヲ給ス

第三十條 傭外國人ニ旅行セシムルトキハ其身分取扱ニ依リ勅任官相當ノ者ニハ

旅費等級二等奏任官相當ノ者ニハ旅費等級三等判任官相當ノ者及別ニ身分取扱ヲ

定メサル教師ニハ旅費等級四等其他ノ者ニハ總テ旅費等級七等ノ額ヲ給ス

第三十一條 車馬賃ヲ給スル爲メ里數ヲ計算スルニハ出發地ノ原標若クハ中央ヨリ

指定地ノ原標若クハ中央マテ通算スヘシ

發著地ノ市町村中央ト汽車及船舶トノ間一里ニ滿タス若クハ其間該市町村外ニ涉

ル場所アルモ一里ニ滿タサルトキハ總里數ニ算入セス旅行ノ各種ニ跨ル場合ニ於

テモ亦同シ

沿道中ニ在ル河湖海灣等ノ渡船場ニシテ海里ヲ以テ計算セサル場所ハ總テ陸路里

●内國旅費規則第三十二條改正施行期日
 明治二十三年一月十八日
 海軍省達第二十八號
 本年達第十七號内國旅費規則改正中第三十二條ノ改正ハ本年四月一日ヨリ施行ス

數ニ算入ス但甲乙地間ノ里數ニ包含スル場所ハ別ニ算入スルノ限ニアラス
 第三十二條 第十三條第十七條第二十三條第六項ノ事項及其他轉勤轉乘等ニ依リ旅行スル場合ニ於テ本人ノ請求アルトキハ前應ニ於テ概額ヲ以テ其旅費ヲ支給決算シ其給額ヲ後應へ通知スヘシ
 後應ハ前應ノ通知ニ依リ其給額ヲ精算シ追給スヘキモノハ之ヲ給シ過給ハ追徴シテ之ヲ前應へ返還スヘシ但前應ニ於テ旅費ヲ支給セサルトキ及會計ヲ異ニスル應へ轉シタルトキハ總テ後應ニ於テ支給ス
 第三十三條 甲應職員乙應ヲ兼務シ往返スルトキハ本人到達ノ應ニ於テ其旅費ヲ給シ一日以内ニ往返スルトキハ往返トモ出發應ニ於テ之ヲ給ス但臨時委員ヲ兼ル者ハ此限ニアラス
 第三十四條 甲應職員ヲ乙應ニ於テ借用スルトキハ往返トモ借用應ニ於テ其旅費ヲ給ス其他借用中旅行セシムルトキモ亦同シ
 第三十五條 旅費ハ第三十二條以下ノ各條ニ依リ支給スルトキヲ除ク外總テ本人所轄ノ應ニ於テ支給ス
 第三十六條 旅行ノ兩會計年度ニ跨ルトキハ船舶料及汽車料ハ其船舶又ハ汽車ノ發程當日ノ年度ニ編入シ日當及車馬賃ハ年度分界ノ日ニ依テ區分スヘシ

第三十七條 他官應ノ官吏ヲ借入レ施行セシムルトキハ本則ニ依テ其旅費ヲ給スルノ限ニアラス
 附則
 第三十八條 本則ハ本年九月一日ヨリ施行ス

旅費等級表

旅費等級	一 等	二 等	三 等	四 等	五 等	六 等	七 等	八 等
官等職名等	親任官	勳任官	上長官	士 官	候補生 准士官	下 士	卒	雇員以下

第一號表

旅費等級	一 等	二 等	三 等	四 等	五 等	六 等	七 等	八 等
日 當	四 圓	三 圓	四 圓	壹圓四拾錢	九 拾 錢	七 拾 錢	五 拾 錢	三 拾 五 錢
車馬賃	五 拾 錢	四 拾 錢	貳 拾 六 錢	貳 拾 錢	拾 錢	八 錢	七 錢	六 錢

第二號甲表

船舶料

地名	旅費等級	一 等	二 等	三 等	四 等	五 等	六 等	七 等	八 等
----	------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

横須賀長浦間	〇、六〇	〇、五〇	〇、四〇	〇、二〇	〇、一〇
横濱長崎間	八七、五〇	六五、六〇	五一、〇〇	二九、二〇	一八、二〇
横濱半田間	二二、九〇	一七、二〇	一三、四〇	七、六〇	四、八〇
横濱四日市間	二四、〇〇	一八、〇〇	一四、〇〇	八、〇〇	五、〇〇
横濱清水間	一三、六〇	一〇、二〇	七、九〇	四、五〇	二、八〇
神戶廣島間	一八、六〇	一四、〇〇	一〇、九〇	六、二〇	三、九〇
神戶長崎間	四五、八〇	三四、四〇	二六、七〇	一五、三〇	九、六〇
神戶馬關間	二八、八〇	二一、六〇	一六、八〇	九、六〇	六、〇〇
吳、廣島間	一、一〇	〇、八〇	〇、六〇	〇、四〇	〇、二〇
吳、江田島間	一、一〇	〇、八〇	〇、六〇	〇、四〇	〇、二〇
廣島江田島間	一、一〇	〇、八〇	〇、六〇	〇、四〇	〇、二〇
廣島馬關間	二二、〇〇	九、〇〇	七、〇〇	四、〇〇	二、五〇
馬關長崎間	一七、〇〇	一二、八〇	九、九〇	五、七〇	三、六〇
長崎嚴原間	一二、七〇	九、五〇	七、四〇	四、二〇	二、七〇
長崎竹敷間	一四、五〇	一〇、九〇	八、五〇	四、八〇	三、〇〇
長崎佐世保間	五、五〇	四、一〇	三、二〇	一、八〇	一、二〇
長崎鹿兒島間	一九、四〇	一四、六〇	一一、三〇	六、五〇	四、一〇
函館小樽間	二六、五〇	一九、九〇	一五、五〇	八、八〇	五、五〇

第二號乙表 汽車料

地名	旅費等級						
	一	二	三	四	五	六	七
東京品川間	〇、四〇	〇、三〇	〇、二〇	〇、一〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇
品川横濱間	一、七〇	一、三〇	一、〇〇	〇、八〇	〇、六〇	〇、四〇	〇、三〇
横濱大船間	一、三〇	一、〇〇	〇、七〇	〇、五〇	〇、四〇	〇、三〇	〇、二〇
大船横須賀間	一、二〇	〇、九〇	〇、七〇	〇、五〇	〇、四〇	〇、三〇	〇、二〇
大船國府津間	二、三〇	一、七〇	一、三〇	〇、九〇	〇、七〇	〇、五〇	〇、四〇
國府津江尻間	七、七〇	五、八〇	四、五〇	二、六〇	一、六〇	〇、五〇	〇、三〇
江尻大府間	一三、〇〇	九、八〇	七、六〇	四、四〇	二、七〇	一、六〇	〇、五〇
大府武豐間	一、四〇	一、一〇	〇、八〇	〇、六〇	〇、五〇	〇、四〇	〇、三〇
大府名古屋間	一、四〇	一、一〇	〇、八〇	〇、六〇	〇、五〇	〇、四〇	〇、三〇
名古屋米原間	五、八〇	四、三〇	三、四〇	一、九〇	〇、五〇	〇、三〇	〇、二〇
米原長濱間	〇、五〇	〇、四〇	〇、三〇	〇、二〇	〇、一〇	〇、〇〇	〇、〇〇
長濱金ヶ崎間	三、一〇	二、三〇	一、八〇	〇、三〇	〇、一〇	〇、〇〇	〇、〇〇

米原京都間	五、三〇	四、〇〇	三、一〇	一、八〇	一、一〇
京都大阪間	三、一〇	二、三〇	一、八〇	一、〇〇	〇、七〇
大阪神戸間	二、四〇	一、八〇	一、四〇	〇、八〇	〇、五〇
兵庫姫路間	四、〇〇	三、〇〇	二、三〇	一、三〇	〇、八〇
東京高崎間	七、六〇	五、七〇	四、四〇	二、五〇	一、六〇
高崎横川間	二、二〇	一、六〇	一、三〇	〇、七〇	〇、五〇
輕井澤直江津間	一、一〇	八、三〇	六、四〇	三、七〇	二、三〇
東京小山間	五、六〇	四、二〇	三、三〇	一、九〇	一、二〇
小山水戸間	四、九〇	三、七〇	二、九〇	一、六〇	一、〇〇
小山岩切間	二〇、六〇	一五、五〇	一二、〇〇	六、九〇	四、三〇
岩切鹽竈間	〇、五〇	〇、四〇	〇、三〇	〇、二〇	〇、一〇

●海軍内國旅費規則中删除改正

明治二十二年九月 海軍省達第三百三十四號

海軍内國旅費規則第二號甲表中長崎竹敷間ノ欄ヲ删除シ長崎嚴原間ノ欄ヲ左ノ通改正ス

長崎嚴原間	一五、九〇	一二、七〇	九、五〇	六、三〇	四、二〇
-------	-------	-------	------	------	------

●海軍内國旅費規則中追加

明治二十二年九月 海軍省達第三百四十六號

海軍内國旅費規則第二號甲表中横濱函館間ノ欄ノ次ニ左ノ一欄ヲ加ヘ本年九月一日ヨリ施行ス

神戸吳間	一七、六〇	一三、一〇	一〇、三〇	五、九〇	三、七〇
------	-------	-------	-------	------	------

●海軍内國旅費規則中追加

明治二十三年一月 海軍省達第十七号

海軍内國旅費規則中左ノ通改正ス

第六條ニ左ノ一項ヲ加フ

旅行中病氣或ハ船待若クハ道路壅塞等ニ依リ滞在スルトキハ其事實ノ確證アル

ニ非サレハ日當ヲ給セス

第八條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第八條乙 旅行中任官進級等ニ依リ旅費等級變シタルトキハ准士官以上及文官

ニハ辭令書日附ノ當日ヨリ相當ノ旅費ヲ給シ下士卒及雇書以下ニハ辭令書本人

ニ到達ノ日ヨリ相當ノ旅費ヲ給ス

第九條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

但其旅行ニシテ市町村外ニ涉リ宿泊ヲ要スルトキハ第二十六條ニ依リ旅費ヲ給ス

第十條中「現ニ經過ノ」ノ割註ヲ刪除ス

第十三條中「二十日以内」ノ下ニ「若クハ乗組艦船所轄ヲ轉シ所轄轉換後三十日以内」ヲ加ヘ左ノ一項ヲ加フ

六 乗組艦船所轄ヲ轉シ家族所在地ヨリ本艦所轄鎮守府軍港ニ家族ヲ移轉セシムル時

第二十六條第二項中「士官」ヲ「准士官以上」ト改メ但書ヲ左ノ通改ム

但被告人犯罪人患者及第十一條第四項、第十五條、第十六條ノ場合ハ此限ニ在ラズ

第二十七條中「二拾五錢ヲ給ス」ヲ「貳拾五錢ヲ給シ單ニ食事ノミヲ要スルトキハ一食ニ付四錢ヲ給ス」ト改ム

第三十一條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

但總里數ニ一里以上ノ里數ヲ算入スルトキ里ノ端數ハ總テ切捨トス

第三十二條第一項中「概額」ヲ「見積額以内」ト改メ第二項中「追徴」ノ下「シテ之ヲ前應へ返還」ノ九字ヲ刪除ス

第三十四條ニ左ノ一項ヲ加フ

團隊ニ在リ各應ニ勤務スル下士卒勤務應ノ公務ニテ旅行スルトキハ勤務應ニ於テ其旅費ヲ給ス

第二號甲表中「吳江田島間」ヲ「吳河原江田島間」ト改メ左ノ一欄ヲ追加ス

横濱	神戶	戸間	四一、六〇	三一、二〇	二四、二〇	一三、九〇	八、七〇
----	----	----	-------	-------	-------	-------	------

第二號乙表中「東京高崎間」及「東京小山間」ノ欄ヲ刪リ左ノ通追加ス

品川	目黒	赤羽	東京上野	赤羽野	大宮大宮	大宮小山	大宮高崎	品川目黒	目黒赤羽	東京上野	赤羽野	大宮大宮	大宮小山	大宮高崎
三〇	一三〇	七〇	一、二〇	一、二〇	三、七〇	五、五〇	二〇	一〇〇	五〇	九〇	二八〇	四一〇	二〇	一、三〇
一五	八〇	四〇	七〇	七〇	二二〇	三二〇	一、八〇	四〇	二〇	四〇	一、二〇	一、八〇	一、二〇	一、二〇
〇五	三〇	二〇	三〇	三〇	八〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇	一、二〇

海軍内國旅費規則第二號表中加除

明治二十三年七月 海軍省達第二百六十二號

海軍内國旅費規則第二號表中左ノ通改正ス

第二號乙表中大船横須賀間ノ一欄ヲ删除シ左ノ二欄ヲ挿入ス

大船 返子間	六〇	五〇	四〇	三〇	二〇	一〇
返子 横須賀間	五〇	四〇	三〇	二〇	一〇	〇

第二號甲表追加

馬關博多間	七、二〇	五、四〇	四、二〇	二、四〇	一、五〇
-------	------	------	------	------	------

第二號乙表追加

博多 雜餉限間	五〇	四〇	三〇	二〇	一〇
雜餉限 二日市間	五〇	四〇	三〇	二〇	一〇
二日市 久留米間	一、四〇	一、二〇	八〇	五〇	三〇

●海軍内國旅費規則中追加改正

明治二十三年七月 海軍省達第二百七十號

海軍内國旅費規則第七條中「士官」ノ下ニ「試補及」ノ三字ヲ加ヘ「判任二等以下」ノ下ニ「及見習」ノ三字ヲ加ヘ第十五條第二項「建築工事」ノ上ニ「私立造船所」ニ依託シタ

ル造修船工事ニ關シ若クハ「ノ」ニ「二十」字ヲ加ヘ左ノ通改正ス

第二十三條ニ左ノ但書ヲ加フ

但第七項第八項ニ當ル者ハ陸路十二里詰ヲ以テ日數ヲ算出シ又汽車路及海路ハ第五條ノ例ニ依リ日數ヲ算シ日當ヲ給ス旅行ノ各種ニ跨リ端數ヲ生スルトキハ之ヲ通算スヘシ

第二號乙表中二日市久留米間ノ一欄ヲ删除シ博多雜餉限ノ次ニ左ノ二欄ヲ加フ

二日市 鳥栖間	一、一〇	八〇	六〇	四〇	二〇
鳥栖 久留米間	四〇	三〇	二〇	一〇	〇

●海軍内國旅費規則中改正追加

明治二十三年十月 海軍省達第三百五十五號

海軍内國旅費規則中左ノ通改正ス

第十一條第四項中「艦船試運轉ノ爲メ」ヲ「艦船試運轉若クハ大砲水雷試射ノ爲メ 艦船ニ」ト改ム

第十五條第二項中「建築工事」ノ下ニ「又ハ物品検査」ヲ加フ
第二十四條ニ左ノ一項ヲ加フ
六、職工人夫ヲ派遣シ使役スル時

第五類 官等俸給

一三六

第二號乙表中目黒赤羽間及小山岩切間ノ欄ヲ删除シ左ノ通追加ス

赤間箱崎間	二、〇〇	一、五〇	一、二〇	七、〇〇	四、〇〇
箱崎博多間	一、一五	一、〇〇	〇、八〇	〇、五〇	〇、三〇
松山三津間	一、五〇	一、四〇	一、三〇	一、二〇	一、一〇
丸龜多度津間	一、三〇	一、二〇	一、一五	一、一〇	一、〇五
多度津琴平間	一、八〇	一、六〇	一、五〇	一、四〇	一、三〇
姫路有年間	一、九〇	一、四〇	一、一〇	一、〇〇	〇、九〇
難波堺間	一、七〇	一、五〇	一、四〇	一、三〇	一、二五
淡町龜瀬間	一、六〇	一、二〇	一、〇〇	〇、九〇	〇、八〇
目黒新宿間	一、五〇	一、四〇	一、三〇	一、二〇	一、一〇
新宿八王子間	二、六〇	二、〇〇	一、五〇	一、四〇	一、三〇
新宿赤羽間	一、七〇	一、五〇	一、四〇	一、三〇	一、二五
小山宇都宮間	二、〇〇	一、五〇	一、二〇	一、〇〇	〇、九〇
宇都宮岩切間	一、八五〇	一、三、九〇	一〇、八〇	六、二〇	三、九〇
宇都宮日光間	三、〇〇	二、三〇	一、八〇	一、〇〇	〇、六〇
岩切一ノ瀬間	六、一〇	四、六〇	三、六〇	二、〇〇	一、三〇
小山前橋間	六、〇〇	四、五〇	三、五〇	二、〇〇	一、三〇
前橋高崎間	六、〇〇	四、五〇	三、五〇	二、〇〇	一、三〇

●海軍外國旅費定額表及附則

明治二十年十月 海軍省令第二十七號

海軍一般

海軍外國旅費定額表及附則ヲ定ムルコト左ノ如シ

官等	旅費等級	客舍料			食卓料	日常支度料	
		諸外國	支那	朝鮮			
親任官	一等	八圓	七圓	四圓	壹圓七拾錢	四圓	六百圓以内
將官及同等	二等	七圓	六圓	四圓	壹圓五拾錢	三圓	四百圓以内
上官	三等	六圓	五圓	四圓	壹圓五拾錢	三圓	四百圓以内
士官	四等	五圓五拾錢	四圓五拾錢	四圓	壹圓貳拾錢	貳圓三拾錢	貳百五十圓以内
准士官候補	五等	四圓	四圓	四圓	壹圓貳拾錢	貳圓	貳百圓以内
生士	六等	四圓五拾錢	三圓五拾錢	壹圓四拾錢	壹圓三拾錢	壹圓三拾錢	百三十圓以内
卒士	七等	四圓	三圓	壹圓	七拾錢	九拾錢	八拾圓以内

附則

一文官奏任三等以上ハ上長官同四等以下ハ士官判任一等ハ准士官同二等以下ハ下士生徒及傭員ハ卒士準シ表面ノ旅費ヲ支給ス
 一船舶料及汽車料ハ本年(五月)閣令第十二號外國旅費規第則二號表ニ依リ武官准士

第五類 官等俸給

一二七

●海軍省外國旅費定額表附加
 則中改正追加
 明治二十二年四月
 海軍省達第百十
 二號
 明治二十年(十月)
 省令第二十七號海
 軍外國旅費定額表
 附則第九項中一行
 軍ニ準シテノ六
 字ヲ總テ實費ニ
 ノ五字ニ改ム、同
 項ノ次ニ左ノ一項
 ナ加フ、一外國航
 海ノ陸地ノ未
 歸國若クハ歸艦ス
 ル者ニハ總テ實費
 ナ給ス、犯罪ニ依
 リ歸國若クハ歸艦ス
 ル者モ亦之ニ準ス

官及文官判任以上ハ一等ノ額其他ハ總テ二等ノ額ヲ支給ス
 一 船舶料及汽車料ノ實費ヲ給スルトキモ亦前項ノ區別ニ從ヒ其一等定價又ハ二等定
 價ヲ支給ス但二等ナキ場合ニ在テハ總テ一等定價ヲ支給スヘシ
 一 將校准將校ノ生徒ニ船舶料及汽車料ノ實費ヲ給スルトキハ一等定價ヲ支給ス
 一 備外國人ハ其身分ノ取扱ニ依リ勅任相當ノ者ハ旅費等級ノ二等委任相當ノ者ハ同
 三等判任相當ノ者及別ニ身分取扱ヲ定メサルモ教師ハ同四等ノ額ヲ支給シ其他ハ
 總テ同七等ノ額ヲ支給ス但船舶料及汽車料ハ判任相當以上ノ者及教師ハ一等其他
 ハ總テ二等ノ額ヲ支給シ其實費ヲ給スルトキモ亦之ニ準ス
 一 在外國ノ我艦船ニ乗組ヲ命シタル者ニハ支度料ヲ支給セス
 一 海軍艦船ニテ渡航スルトキハ其艦船乗員ト同一ノ食料ヲ支給シ表面ノ食卓料ハ支
 給セス
 一 行軍及隊伍ノ旅行ハ總テ實費ヲ支給ス單身旅行ト雖モ其職務ヲ帶フル者ハ尙ホ之
 ニ準ス
 一 下士以下四人以上同地ニ旅行セシムルトキ及之ヲ引卒セシムル士官ニハ行軍ニ準
 シテ支給ス但特命アル者ハ此限ニ在ラス
 一 外國旅行中非職退職或ハ罷役又ハ退役免役トナリ歸國スル者ハ總テ退官者歸國ノ

例ニ依ル
 一 旅費支給應ノ區別ハ海軍內國旅費規則第二十五條以下ノ例ニ依ル
 一 前各項ニ該當スルモノ、外ハ總テ本年五月閣令第十二號外國旅費規則ノ支給法ニ依
 ルモノトス

●帝國議會議長副議長議員歲費及旅費支給規則

明治二十三年十月
 勅令第二百六十三號

朕帝國議會議長副議長議員歲費及旅費支給規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

帝國議會議長副議長議員歲費及旅費支給規則

第一條 帝國議會議長副議長及議員ノ歲費ハ毎年七月ヨリ翌年六月ニ至ル十二箇月
 ナ以テ一歲トシ計算ス
 第二條 議長副議長及議員ノ歲費ハ其ノ前六箇月分ヲ帝國議會通常會開會ノ後三十
 日內ニ其ノ後六箇月分ヲ閉會ノ後七日以內ニ支給ス
 第三條 議長副議長ノ歲費ハ其ノ勅任セラレタル當月分ヨリ支給ス
 議長副議長ニ勅任セラレタル議員ノ歲費ハ其ノ勅任セラレタル前月分マテ支給ス
 第四條 貴族院勅任議員ノ歲費ハ其ノ勅任セラレタル當月分ヨリ支給ス但シ多額納

稅者ノ互選セラレタル者ハ其ノ互選セラレタル當月分ヨリ支給ス

第五條 議長副議長及議員退職辭職除名ノ場合ニ於テハ其ノ當月分マテヲ支給ス

第六條 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ其ノ議長副議長及議員ノ歳費ハ解散ヲ命セラレタル當月分マテヲ支給ス

第七條 衆議院解散ヲ命セラレタル後選舉セラレタル議員及補缺議員ノ歳費ハ其ノ選舉セラレタル當月分ヨリ支給ス

第八條 衆議院ノ議員貴族院ノ議員トナリタルトキ其他如何ナル場合ヲ問ハス歳費ハ同一人ニ對シ重複支給セス

第九條 官吏ニシテ議員タル者官吏ヲ罷メタルトキハ其當月分ヨリ議員ニシテ官吏ニ任セラレタル者仍議員タルトキハ其ノ當月分マテヲ支給ス

第十條 議長副議長及議員ノ旅費ハ別表定ムル所ニ從ヒ之ヲ支給ス官吏ニシテ議員タル者亦同シ

上京旅費ハ歳費ノ前半額ト歸郷旅費ハ歳費ノ後半額ト同時ニ之ヲ支給ス

第十一條 旅費ハ當選區ノ何地ニ在ルヲ問ハス其住居地ヨリ直路ノ里程ヲ計算シテ之ヲ支給ス

第十二條 議員ヲ距ル三里以内ノ地ニ住居スル者ハ何地ノ議員タルヲ問ハス旅費ヲ

支給セス

第十三條 汽車旅行ハ一日二百哩詰汽船旅行ハ一日百海里詰陸路旅行ハ一日十二里詰ノ割合ヲ以テ直路ノ行程ニ應シ日當ヲ支給ス但シ一日ノ行程ニ滿タサル端數ハ切捨トス

第十四條 召集ニ應セサル議員ニハ事故ノ如何ヲ問ハス旅費ヲ支給セス

旅費表

汽車	一哩ニ付	汽船	一海里ニ付	車馬	一里ニ付	日當
拾錢		拾錢		三拾錢		貳圓五拾錢

●召集旅費概算表調査方

明治十九年十二月 陸軍省訓令甲第三號

北海道廳 府縣

本年常省令甲第三十九號陸軍召集條例第十四様式召集旅費概算表ハ現員ノ十分ノ三ヲ加ヘ調査スヘシ
但本文十分ノ三ニ當ル人員ノ旅費金ハ現員中最遠隔ノ者ニ均シキ額ヲ以テ算ス可シ

陸軍召集條例第六十六條ノ召集旅費

明治二十年六月 陸軍省訓令甲第六號

北海濟廳 府縣沖繩縣ヲ除ク

陸軍召集條例第六十六條ニ據リ地方廳ヨリ當省へ可差出召集旅費概算表ハ本年十一月十日調ノ分ヨリ左ノ雛形ニ準シ各郡區チ一表ニ調製シ正副二通差出スヘシ

(料紙美濃紙券)

郡區名	區別	召集地名		豫備後備軍	旅費金員	同	上	計
		召集地名	豫備後備軍					
臨時召集旅費概算表	何縣							
從明治何年何月何日	何年何月何日							
第一召集員	計	兵	驅	兵	驅	兵	驅	兵
第二召集員	計	兵	驅	兵	驅	兵	驅	兵
後備軍	計	兵	驅	兵	驅	兵	驅	兵
近衛充	計	兵	驅	兵	驅	兵	驅	兵
近衛後備軍	計	兵	驅	兵	驅	兵	驅	兵
合計	計	兵	驅	兵	驅	兵	驅	兵

郡區名	區別	召集地名		豫備後備軍	旅費金員	同	上	計
		召集地名	豫備後備軍					
臨時召集旅費概算表	何縣							
從明治何年何月何日	何年何月何日							
第一召集員	計	兵	驅	兵	驅	兵	驅	兵
第二召集員	計	兵	驅	兵	驅	兵	驅	兵
後備軍	計	兵	驅	兵	驅	兵	驅	兵
近衛充	計	兵	驅	兵	驅	兵	驅	兵
近衛後備軍	計	兵	驅	兵	驅	兵	驅	兵
合計	計	兵	驅	兵	驅	兵	驅	兵

- 一 召集ニ應スヘキ者ノ旅費金ハ警備隊區副官監視區長其明細表ヲ製シ當該監督部長ニ現金前渡ノ請求ヲ爲ス可シ但監視區長ハ各郡市ニ分チ明細表ヲ製シ監督部長ハ各郡市ニ分チ仕拂ノ命令ヲ爲ス可シ
- 一 召集ニ應シタル者歸郷ノ旅費金ハ各隊金櫃委員其明細表ヲ製シ當該監督部長ニ現金前渡シノ請求ヲ爲シ中隊長ヲ經テ之ヲ各自ニ分配支給スヘシ

●臨時召集旅費支出順序

明治二十三年四月 陸軍省訓令乙第一號

師團、同監督部近衛ヲ除ク

陸軍臨時召集旅費支出順序左ノ通定ム

- 第一項 臨時召集旅費ハ大隊區ニ在テハ副官監視區長及書記若干名警備隊區ニ在テハ副官及書記壹名ヲ以テ出納官吏ト爲ス
- 第二項 臨時召集旅費支出區域及出納官吏ノ官氏名ハ師團司令部ヨリ陸軍省ニ報告シ及師團監督部ニ通知ス可シ
- 第三項 島司郡市長ヨリ第一項ニ掲クル官吏ニ送付シタル臨時召集旅費概算ノ金高ヲ郡市島嶼ニ區分シ師團司令部ヨリ四月二十日迄ニ陸軍省ニ報告ス可シ
- 第四項 臨時召集ノ舉アルトキハ電信其他ノ方法ヲ以テ師團監督部長ニ令達スルヲ

以テ同官ハ會計法第十五條第二項ニ依リ出納官吏ニ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發ス可シ

第五項 出納官吏現金ノ交付ヲ受ケタルトキハ臨時召集旅費支出區域内ノ豫備後備ノ軍人歸休兵及豫備徵員ニ對シ旅費トシテ之ヲ交付スヘシ

第六項 出納官吏仕拂殘金ノ返納其他總テノ手續ハ一般ノ法規ニ依ル

●陸軍豫備兵定時演習召集旅費支給方更定

明治二十三年二月 陸軍省令第五號

陸軍豫備兵定時演習召集旅費金支給方ノ儀ハ陸軍召集條例第九十三條第九十四條第九十七條第九十八條及第百條揭示ノ通候處更ニ左ノ通相定明治二十三年四月一日ヨリ施行ス

- 一 陸軍豫備兵定時演習召集旅費金ハ大隊區ニ在テハ監視區長ヨリ警備隊區ニ在テハ警備隊區副官ヨリ支給ス但監視區長駐劄所ノ在ラサル郡市ニ在テハ監視區長郡市役所ニ出張シ各自ニ交付ス
- 一 旅費金支給ノ日時ハ監視區長ヨリ島司郡市長ニ通知シ島司郡市長ハ町村長ヲ經テ之ヲ各自ニ達シ出頭セシム可シ